

研究成果報告書（第 3 分冊）

2023 年度 保護者向けアンケート調査 成果報告書

令和 6（2024）年 2 月 29 日

一般社団法人 飛騨高山大学連携センター・目白大学

目次

1	はじめに	1
2	研究目的	1
3	調査方法	1
3.1	研究デザイン	1
3.2	データ収集方法	1
3.2.1	調査期間	1
3.2.2	対象	1
3.2.3	依頼方法	1
3.2.4	調査内容	2
3.3	分析方法	2
3.4	信頼性と妥当性の確保	2
3.5	倫理的配慮	2
4	調査結果	3
4.1	回答状況・・・問18、問3	3
4.2	属性	3
4.2.1	子どもの年齢と回答者の続柄・・・問5	3
4.2.2	居住地・・・問1	3
4.2.3	居住年数・・・問2	4
4.2.4	出身地・・・問6	4
4.2.5	父母の学歴・・・問9 4	5
5	子育て世帯の生活実態	6
5.1	世帯の概要	6
5.1.1	同居する世帯構成員・・・問4	6
5.1.2	配偶状況（ひとり親家庭の割合）・・・問7	7
5.1.3	子育てを行う主な親族・・・問8	8
5.1.4	世話をできる主な親族・・・問9	8
5.1.5	小括	9

5.2	保護者の就労状況.....	9
5.2.1	母親の就労状況—就業の実態・・・問60～問65	9
5.2.2	母親の就労状況—就業していない人の状況・・・問66～問68	13
5.2.3	父親の就労状況—就業の実態・・・問69～問74	14
5.2.4	父親の就労状況—就業していない人の状況・・・問75～77	18
5.2.5	130万円の壁の見直しによる影響見込み・・・問78	19
5.2.6	小括	20
5.3	世帯の家計状況	21
5.3.1	世帯収入・・・問79	21
5.3.2	世帯支出・・・問80～問84	21
5.3.3	家計状況に関する認識・・・問85	24
5.3.4	生活状況	25
5.3.4.1	暮らしの状況に関する認識・・・問86	26
5.3.4.2	暮らしの状況の見通し・・・問87	26
5.3.4.3	子どもに係る経費で負担が大きいと感じている費用・・・問90	27
5.3.4.4	公的制度（公的扶助・支援）の利用状況・・・問91A～E.....	29
5.3.4.5	経済的理由で生活必需品等が買えなかった経験・・・問92A～C.....	30
5.3.4.6	経済的理由で支払いができなかった経験・・・問93A～H	31
5.3.4.7	家庭にある子ども用の物品等・・・問88A～H.....	33
5.3.4.8	家庭状況と子どもとの関わり・・・問89A～K.....	36
5.3.5	小括	39
6	子育て実態・教育期待と保護者の不安.....	42
6.1	子どもの生活状況	42
6.1.1	子どもが朝食を食べる家族（平日）・・・問11	42
6.1.2	子どもの就寝時間（平日）・・・問10	42
6.2	親の関わり	42
6.2.1	子どもと親との関わり・・・問12A～E、問13、問14	42
6.2.2	地域・他者と親との関わり・・・問55A～E	45
6.3	親の教育期待.....	47
6.3.1	子どもへの教育期待・・・問95A～E.....	47
6.3.2	子どもに希望する就職地・・・問96	48
6.4	子育てに関する情報入手と悩み	49
6.4.1	子育てに関する情報の入手元・・・問17	49
6.4.2	子育てに関して相談できる場・・・問54	49

6.4.3	子育てについての悩み・・・問 5 8	51
6.5	子育てとメンタルヘルス	53
6.5.1	メンタルヘルスと子育て実態・・・問 5 6 A～H	53
6.5.2	メンタルヘルスの状況・・・問 5 7 A～G	56
6.6	小括	59
7	子育て実態と行政施策のニーズ	61
7.1	【乳幼児】 幼児教育・保育事業.....	61
7.1.1	利用施設の状況.....	61
7.1.1.1	「定期的な教育・保育の事業」の利用の有無・・・問 1 9	61
7.1.1.2	「定期的な教育・保育の事業」の利用している事業・・・問 2 0	61
7.1.2	平日の利用状況.....	63
7.1.2.1	利用日数（現在／希望）・・・問 2 0	63
7.1.2.2	利用時間数（現在／希望）・・・問 2 0	63
7.1.2.3	利用開始時間（現在／希望）・・・問 2 1、問 6 1 C、問 7 0 C	64
7.1.2.4	利用終了時間（現在／希望）・・・問 2 1、問 6 1 D、問 7 0 D.....	67
7.1.2.5	利用施設の場所・・・問 2 2	69
7.1.2.6	利用理由・・・問 2 3、問 2 5	69
7.1.2.7	平日に利用したいサービスの種類・・・問 2 6	71
7.1.2.8	平日に利用したいサービスの施設の場所・・・問 2 7	72
7.1.3	土曜日、日曜・祝日、長期休暇中の利用状況	73
7.1.3.1	利用状況・・・問 2 4	73
7.1.3.2	利用希望（土曜日、日曜・祝日）・・・問 2 8、問 3 0	74
7.1.3.3	利用したい理由（日曜・祝日）・・・問 2 9、問 3 1	75
7.1.3.4	利用希望（長期休暇中）・・・問 3 2、問 3 3	76
7.1.4	小括.....	76
7.2	【乳幼児・児童】 病児保育	78
7.2.1	病児保育の利用状況	78
7.2.1.1	子どもの病気やケガによる保育園や幼稚園、学校等の欠席の有無・・・問 3 4	78
7.2.1.2	子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数・・・問 3 5 - 1 ～ 8 ..	78
7.2.1.3	病児保育施設等の利用希望・・・問 3 6、問 3 7	82
7.2.2	小括.....	83
7.3	【乳幼児・児童】 一時預かり等の事業.....	85
7.3.1	一時預かり等の支援事業の利用状況.....	85

7.3.1.1	利用日数・・・問 3 8	85
7.3.1.2	利用希望・・・問 3 9、問 4 0	87
7.3.2	宿泊を伴う一時預かり等の支援事業の利用状況	88
7.3.2.1	利用日数・・・問 4 1	88
7.3.2.2	利用希望・・・問 4 2、問 4 3	89
7.3.3	小括	90
7.4	【乳幼児・児童】放課後児童クラブ	91
7.4.1	放課後に過ごしている場所・過ごさせたい場所・・・問 4 4	91
7.4.2	長期休業中の放課後児童クラブのニーズ・・・問 4 5、問 4 6	92
7.5	子ども食堂等の利用実態とニーズ	93
7.5.1	子ども食堂	93
7.5.1.1	子ども食堂の利用実態・・・問 4 7	93
7.5.1.2	子ども食堂を利用しない・必要ないと思う理由・・・問 4 8	93
7.5.2	子ども宅食の利用実態とニーズ	94
7.5.2.1	子ども宅食の利用実態・・・問 4 9	94
7.5.2.2	子ども宅食を利用しない・必要ないと思う理由・・・問 5 0	94
7.5.3	無料学習塾等のニーズ・・・問 5 1	94
7.5.4	フリースペースのニーズ・・・問 5 2	95
7.5	小括（7.4、7.5 節）	95
7.6	子育て支援事業	97
7.6.1	サービスの利用状況	97
7.6.1.1	妊娠から出産までの支援事業・・・問 5 3 A、B	97
7.6.1.2	乳幼児から就学前の支援事業・・・問 5 3 C～G、I	98
7.6.1.3	学童期の支援事業・・・問 5 3 H、L	99
7.6.1.4	相談に関する支援事業・・・問 5 3 J、K、M	100
7.6.1.5	子育てに関する情報提供・・・問 5 3 N	101
7.6.2	相談できる人や場所・・・問 5 4	101
7.6.3	小括	103
7.7	まちづくりに対するニーズ	106
7.7.1	まちづくりに対する考え・・・問 9 7	106
7.7.2	嬉しいと感じて笑顔になれる場面・・・問 1 5 ア～ク	110
7.7.3	嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるための環境・・・問 1 6 ア～ク	113
7.7.4	小括	117
8	行政に対する要望（自由記述）	118

8.1	テキストマイニングによる分析結果・・・問59、問98	118
8.2	小括	124
9	総括	125
10	引用・参考文献	129
11	参考資料（別紙）	
11.1	保護者向けアンケート調査用紙（郵送用）	
12	集計データ（別紙）	
12.1	発注データ_高山 2024_保護者向けアンケート調査元データ	
12.2	納品データ_高山 2024_保護者向けアンケート調査	

1 はじめに

高山市では、第8次総合計画「未来に向けたまちづくりの設計図」に基づき、令和2年度からの5年間、「子どもにやさしいまちづくり計画」として、様々な支援事業を行ってきた。令和6年度（2024年度）には第9次総合計画の策定を予定しており、市民の生活実態やニーズに沿った改定が求められている。

そこで、今回、高山市における子育て環境に関する現状と課題を明らかにすることを目的として、保護者を対象とした生活実態調査およびニーズ調査を実施した。

2 研究目的

高山市の施策立案の基礎的資料とするために、保護者を対象とした質問紙調査を実施し、子育て環境の現状と課題を明らかにする。

3 調査方法

3.1 研究デザイン

質問紙調査法を用いた質的記述的研究である。

3.2 データ収集方法

Survey Monkey（Survey Monkey 社製）を使用した Web 調査である。

3.2.1 調査期間

調査期間は、2023 年 11 月 1 日（発送）から 2023 年 11 月 30 日である。

回答期限を 11 月 30 日と明記した依頼文「子育て環境に関する調査」を 2023 年 11 月 1 日に封書にて発送した。

3.2.2 対象

想定回収サンプル数を 1,500（回収率 50%想定）とした。対象となる保護者の選定は、市役所市民課担当者が住民基本台帳から抽出した子どものリストに通し番号をつけ、乱数表を用いて無作為抽出された者の保護者とした。

宛名の子どもの保護者 計 3,000 名

内訳）乳幼児の保護者 1,000 名

児童の保護者 1,000 名

中高生の生徒の保護者 1,000 名（中学生 500 名、高校生 500 名）

なお、子どもの学年区分は 2023 年 4 月 1 日現在とした。

3.2.3 依頼方法

保護者向けアンケート調査の接続先 QR コードを付した調査協力の依頼文「子育て環境

に関する調査」を宛名の子どもの保護者に郵送し、協力を依頼した。調査用紙希望者には、一般財団法人 飛騨高山大学連携センターに連絡して頂き、後日調査用紙を郵送することとした。

3.2.4 調査内容

調査項目は、属性、生活実態（保護者の就労状況、世帯収入と世帯支出、生活状況、子どもの将来等）とニーズ（幼児教育・保育事業、病児保育、一時預かり、放課後児童クラブ、子ども食堂等、その他の地域子育て支援事業、子育ての悩みや不安）で構成される計 98 問（最大）である。

3.3 分析方法

分析方法は単純集計とクロス集計、自由記述は内容分析と共に、Text Mining Studio Ver.7.1.2（NTT データ数理システム社製）を用いた単語頻度分析および共起ネットワーク分析を行った。

3.4 信頼性と妥当性の確保

調査内容および設問について、市担当課職員および飛騨高山大学連携センター担当者が原案を作成後、目白大学研究者との三者の協議において、調査項目および設問に関する信頼性と妥当性を確保した。

分析については、目白大学研究者間で検討すると共に、第 5 回飛騨高山学会にて中間報告を行い、会場参加者や市担当課職員からの質問や意見を反映することで、信頼性と妥当性の確保に努めた。

3.5 倫理的配慮

研究の主旨、目的および方法、協力は自由意思であること、協力しないことで不利益を被ることはないこと、無記名回答であること、統計学的処理により個人は特定されないこと、正解や不正解を求めるものではないこと、取得データは匿名化した上で大学研究者等が分析・集計をすること、回答にかかる時間（最長 30 分）を「子育て環境に関する調査」に明記して依頼した。

データは一般社団法人 飛騨高山大学連携センターが取得したが、Survey Monkey の E-Mail アドレス自動取得の設定解除を施し、E-Mail アドレスの個人情報は取得していない。

4 調査結果

4.1 回答状況・・・問18、問3

配付数 2997 部（3000 部発送・3 部宛所不明で不達）、回収数 1410 件（うち紙媒体 2 件）であった（回収率 47.0%）。回収された回答のうち、設問への回答率が 15%に満たないもの及び、冒頭での「乳幼児の保護者」か「小学生の保護者」か「中高生の保護者」か、選択する設問で、どれにも選択がないまま回答されたものは、無効とした結果、有効回答数（有効回答率）は 1221 件（40.7%）であった。有効回答の内訳は、乳幼児の保護者 410 人、小学生の保護者 411 人、中高校生の保護者 376 人であった。なお、乳幼児、小学生、中高校生の全区分を同一の設問としたため、不達 3 部の区分は不明である。なお、実際の子どもの生年月について問 3 で聞いた。0 歳～18 歳までの子の年月別の回答であり、細かいため本文では省略する。別添の集計表を参照されたい。

4.2 属性

4.2.1 子どもの年齢と回答者の続柄・・・問5

子どもの年齢（乳幼児、小学生、中高生）の別と、回答者の続柄を、以下表に示す。

回答者の 80%前後が「母親」であり、20%前後が「父親」、その他が 1%前後であった。本件調査の回答者は、主に「母親」の回答である点、留意が必要である。

表 4.2.1 子どもの年齢の別と回答者の属性

	合計	父親	母親	その他	無回答
全体	1195	18.3	80.9	0.8	
乳幼児保護者	410	15.6	82.9	1.5	
小学生保護者	409	21.8	77.8	0.5	
中高校生保護者	376	17.6	82.2	0.3	

4.2.2 居住地・・・問1

ここでは、「あなたの現在のお住まいの地域について、あてはまるものを 1 つ選んでください」として聞いた結果について、以下表に示す。

高山地域に居住する方からの回答が、全体で 76.2%、どの子どもの年齢の保護者についても、70%以上であった。次に国府地域（全体で 8.7%）、丹生川地域（全体で 3.9%）、久々野地域（全体で 3.3%）と続く。

表 4.2.2 子どもの年齢の別と回答者の居住地

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	1197	410	411	376
高山地域	76.2	78.8	77.4	72.1
丹生川地域	3.9	4.9	2.9	4.0
清見地域	1.8	1.2	1.7	2.4
荘川地域	1.1	1.2	0.5	1.6
一之宮地域	2.6	1.5	2.9	3.5
久々野地域	3.3	3.7	2.4	3.7
朝日地域	1.0	0.2	1.0	1.9
高根地区	0.0	0.0	0.0	0.0
国府地域	8.7	7.8	10.2	8.0
上宝地域	0.7	0.7	0.2	1.1
奥飛騨温泉郷地域	0.8	0.0	0.7	1.9

4.2.3 居住年数・・・問2

ここでは、「あなたは高山市に住んで何年（出入りのある場合は通算）になりますか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた結果について、以下表に示す。

子どもの年齢が上がるにつれて、居住年数の通算が長くなる傾向にある。一方、乳幼児保護者の回答を見ると、「1年以上～5年未満」が10.5%おり、結婚出産を機に高山市に居住することとなった回答者も10%以上はいることが推察される。

表 4.2.3 居住年数

	合計	1年未満	1年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上
全体	1196	0.7	4.8	8.9	17.5	68.1
乳幼児保護者	410	1.5	10.5	14.6	14.1	59.3
小学生保護者	411	0.5	2.9	9.2	20.4	66.9
中高校生保護者	375	0.0	0.5	2.4	17.9	79.2

4.2.4 出身地・・・問6

ここでは、「あなたの出身地について、あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた結果について、以下表に示す。

高山市内出身者が全体で66.5%と、2/3程度であった。高山市外の岐阜県内が全体で17.9%、岐阜県外出身者が15.6%であった。回答者属性が均一であるという前提（表4.2.1の通り母親の回答がどの子どもの年齢層も8割程度で回答率が同一だと仮定）で、最近出産した層

ほど、相対的に、高山市外出身者の割合が高い傾向にある。

表 4.2.4 回答者の出身地

	合計	高山市内	高山市外 で飛騨地 域内（下 呂市、飛	飛騨地域 外で岐阜 県内	岐阜県外
全体	1193	66.5	11.4	6.5	15.6
乳幼児保護者	407	62.7	12.3	7.1	17.9
小学生保護者	411	66.4	12.2	6.6	14.8
中高校生保護者	375	70.7	9.6	5.9	13.9

4.2.5 父母の学歴・・・問 9 4

ここでは、「あて名のお子さんの父母の方（またはそれに代わる方）の最終学歴について、母親、父親それぞれあてはまるもの1つを選んでください」として聞いた結果について、下表に示す。

前回調査では、母親の最終学歴で「大卒・院卒」が乳幼児保護者で 27.6%、小学生保護者で 18.5%、中高生保護者で 11.4%であり、すべての子どもの年齢別でみても、母親の大卒・院卒の割合は増加している。同じく前回調査では、父親の最終学歴で「大卒・院卒」が乳幼児保護者で 35.5%、小学生保護者で 27.3%、中高生保護者で 25.2%であり、やはりすべての子どもの年齢別でみても、父親の大卒・院卒の割合は増加している。

表 4.2.5.1 母親（またはそれに代わる方）の最終学歴

	合計	中学校	高校	各種専門 学校	短大・高 等専門学 校	大学	大学院
全体	1033	2.3	30.8	21.1	20.2	23.8	1.7
乳幼児保護者	340	2.4	28.2	17.9	17.1	32.1	2.4
小学生保護者	359	2.2	31.5	20.3	20.1	24.0	1.9
中高校生保護者	334	2.4	32.6	25.1	23.7	15.3	0.9

表 4.2.5.2 父親（またはそれに代わる方）の最終学歴

	合計	中学校	高校	各種専門 学校	短大・高 等専門学 校	大学	大学院
全体	988	4.0	42.3	12.1	6.3	30.4	4.9
乳幼児保護者	331	2.4	40.2	11.8	6.9	32.9	5.7
小学生保護者	344	4.4	39.5	11.6	5.5	32.8	6.1
中高校生保護者	313	5.4	47.6	13.1	6.4	24.9	2.6

5 子育て世帯の生活実態

5.1 世帯の概要

5.1.1 同居する世帯構成員・・・問4

ここでは、「あなたと同居する世帯構成員はそれぞれ何人ですか。該当するものを選んでください（あて名のお子さん本人は除きます。また単身赴任などで一時的に別居している方も含みます）」として聞いた結果について、以下表に示す。

表 5.1.1.6 より、核家族世帯と推定される家庭の割合（＝世帯人員が2名の世帯）は、乳幼児保護者で有効回答 403 件中 114 家庭でありその割合は 28.3%、同じく小学生保護者で 13.4%、中高生保護者で 15.0%であった。属性情報で見た通り、乳幼児保護者は高山市の居住歴が浅い保護者が一定数おり、こういった家庭が乳幼児保護者世帯の核家族割合を高めていることが推察される。

表 5.1.1.1 同居する世帯構成員 — 父母

	合計	1人	2人	無効解答
全体	1166	11.2	88.5	0.3
乳幼児保護者	403	8.2	91.6	0.2
小学生保護者	402	11.9	87.8	0.2
中高校生保護者	361	13.9	85.9	0.3

表 5.1.1.2 同居する世帯構成員 — 祖父母

	合計	1人	2人	3人	4人以上
全体	426	37.6	60.8	1.2	0.5
乳幼児保護者	119	37.8	59.7	2.5	0.0
小学生保護者	163	39.9	59.5	0.6	0.0
中高校生保護者	144	34.7	63.2	0.7	1.4

※ここで合計とは「同居がある人数の合計」であり、割合はその人数の内訳である。

表 5.1.1.3 同居する世帯構成員 — 兄弟姉妹

	合計	1人	2人	3人	4人以上
全体	835	64.2	28.0	6.8	1.0
乳幼児保護者	233	73.8	22.3	3.0	0.9
小学生保護者	318	61.9	30.2	6.9	0.9
中高校生保護者	284	58.8	30.3	9.9	1.1

※ここで合計とは「同居がある人数の合計」であり、割合はその人数の内訳である。

表 5.1.1.4 同居する世帯構成員 — おじ・おば

	合計	1人	2人	3人	4人以上
全体	47	72.3	19.1	6.4	2.1
乳幼児保護者	15	80.0	13.3	6.7	0.0
小学生保護者	17	70.6	23.5	0.0	5.9
中高校生保護者	15	66.7	20.0	13.3	0.0

※ここで合計とは「同居がある人数の合計」であり、割合はその人数の内訳である。

表 5.1.1.5 同居する世帯構成員 — その他の方

	合計	1人	2人	3人	4人以上
全体	47	83.0	10.6	4.3	2.1
乳幼児保護者	19	78.9	5.3	10.5	5.3
小学生保護者	15	80.0	20.0	0.0	0.0
中高校生保護者	13	92.3	7.7	0.0	0.0

※ここで合計とは「同居がある人数の合計」であり、割合はその人数の内訳である。

表 5.1.1.6 同居する世帯構成員 — 表 5.1.1.1 から表 5.1.1.5 で示した
「父母・祖父母・兄弟姉妹・おじ・おば・その他の方」の合計

	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
1人	16	13	12
2人	14	54	54
3人	134	126	112
4人	74	93	84
5人	44	73	65
6人	20	33	28
7人	2	6	7
8人	2	3	2
9人	1	2	2
10人		1	2

5.1.2 配偶状況（ひとり親家庭の割合）・・・問7

ここでは、「あて名のお子さんの保護者さまの配偶関係について、あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた結果について以下表に示す。

子どもの年齢が上がるにつれて配偶者・パートナーがいない割合が上昇する。乳幼児保護

者で 4.4%、小学生保護者で 10.2%、中高生保護者で 13.6%でひとり親家庭である。

表 5.1.2 ひとり親家庭の割合

	合計	配偶者・パートナー (性別を問わず) がいる	配偶者・パートナーは いない
全体	1193	90.7	9.3
乳幼児保護者	408	95.6	4.4
小学生保護者	410	89.8	10.2
中高生保護者	375	86.4	13.6

5.1.3 子育てを行う主な親族・・・問 8

ここでは、「あなたの家庭で、お子さんの子育て（教育含む）を主に行っているのはどなたですか。あてはまるものを 1 つ選んでください。あて名のお子さんからみた関係でお答えください」として聞いた結果について以下表に示す。

父母共に子育てを行っている割合は、全体で 57.5%であった。一方、「主に母親」（全体で 39.9%）あるいは「主に父親」（全体で 1.4%）という割合は、合計で 41.3%であり、どちらかの保護者が子育てを担う例も 4 割前後ある。祖父母あるいはその他の人が子育てを行っているケースも、合計で 1%弱ある。

表 5.1.3 子育てを行う主な親族

	合計	父母ともに	主に父親	主に母親	主に祖父母	その他
全体	1197	57.7	1.4	39.9	0.6	0.3
乳幼児保護者	410	58.3	0.5	40.2	0.5	0.5
小学生保護者	411	62.3	1.0	35.8	0.7	0.2
中高生保護者	376	52.1	2.9	44.1	0.5	0.3

5.1.4 世話をできる主な親族・・・問 9

ここでは、「日頃、あて名のお子さんを預かったり、世話してもらえる親族・知人はいますか。あてはまるものすべてを選んでください（複数回答可）」として聞いた結果について以下表に示す。

日常的に世話をしてもらえる割合は全体で 50%前後であった。緊急時に世話をしてもらえる割合は、祖父母等の親族と、友人・知人を合わせてやはり 50%前後であった。一方で、「いずれもない」の割合は、全体で 10%前後であり、日常的あるいは緊急時にも世話をす

ぐに頼めない状況の家庭も一定数あることがわかる。

表 5.1.4 世話をできる主な親族

	合計	日常的に祖父母等の親族に してもらえる	日常的に友人・知人にし てもらえる	緊急時もしくは用事の際に は、祖父母等の親族にして もらえる	緊急時もしくは用事の際に は、友人・知人にしてもら える	いずれも いない
全体	1197	48.5	1.3	43.7	6.5	10.1
乳幼児保護者	410	50.0	1.0	42.4	4.4	9.8
小学生保護者	411	50.9	2.2	44.5	6.8	8.8
中高校生保護者	376	44.1	0.8	44.1	8.5	12.0

5.1.5 小括

5.1 節では、高山市の世帯の概要について結果を示した。乳幼児保護者について、属性情報で見た通り、高山市の居住歴が浅い保護者が一定数おり、また世帯構成員も父母と子どもで暮らしている核家族世帯が、小学生保護者、中高校生保護者より高い割合であった。

ひとり親家庭の割合は、前回調査で乳幼児保護者の 3.4%、小学生保護者の 7.8%、中高校生保護者の 10.1%であったが、今回調査では、同じく順に、4.4%、10.2%、13.6%で、どの世代においても割合が上がっている。

子育てを行う主な親族について、前回調査と傾向は同じく、6 割前後が父母共に行う一方、4 割前後が父親または母親が主に行っていた。

世話をできる主な親族について、前回調査では、日常的に祖父母等の親族に世話をしてもらえという割合は、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者のどの世代も 50%前後で今回調査と同じ傾向であった一方、緊急時に祖父母等親族に見てもらえるという世帯は、乳幼児保護者で 59.7%、小学生保護者で 57.9%、中高校生保護者で 49.9%であった一方、今回調査では、同じく順に 42.4%、44.5%、44.1%とどの世代も低下していた。日常的に見てもらえるという世帯が同程度である一方、日常的にも、緊急時にも見てもらえない世帯は若干増加した。

5.2 保護者の就労状況

5.2.1 母親の就労状況 一就業の実態・・・問 6 0～問 6 5

ここでは、母親の就労状況等について聞いた内容について以下表に示す。

表 5.2.1.1 は、母親の就労状況について「あて名のお子さんの母親（または母親に代わる保護者の方）の現在の就労状況について、あてはまるものを 1 つ選んでください。※フルタイムは、1 週 5 日程度・1 日 8 時間程度の就労をさします。また、自営業、家族従業者の方も含みます。」として聞いた内容である。

表 5.2.1.2 以降、表 5.2.1.8 は、実際の就業の状況についてそれぞれ聞いたものである。

表 5.2.1.9 は、母親の就労状況について「あて名のお子さんの母親（または母親に代わる保護者の方）の現在就労しているお仕事の雇用期間の定めの有無について、あてはまるものを 1 つ選んでください」として聞いた内容である。

表 5.2.1.10 は、母親の就労状況について、従事している職業について聞いた内容である。

表 5.2.1.11 は、母親の就労状況について表 5.2.1.1 で示した内容について、「「3、4. パート・アルバイト等で就労している」を選んだ方にうかがいます。あて名のお子さんの母親（または母親に代わる保護者の方）のフルタイム（1 週 5 日程度・1 日 8 時間程度の就労）への転換希望について、あてはまるものを 1 つ選んでください」として聞いた内容である。

表 5.2.1.1 の通り、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順に、フルタイム就労の割合は増え、順に 30.3%、44.4%、56.1%であった。また、フルタイム就労だが休業中である割合は、乳幼児保護者で 19.2%おり、前掲の 30.3%を足すと、49.5%が企業とフルタイムの雇用契約を結んでいることがわかる。パート・アルバイト等の割合は、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順に 31.4%、44.1%、36.6%であった。

表 5.2.1.2 の通り、就労している人のうち、就業日数は、5 日が最も高く、どの保護者も 7 割前後であった。また、表 5.2.1.3 の通り、1 日あたりの就労時間は、どの保護者も 8 時間にピークがあった。

表 5.2.1.4～表 5.2.1.8 に示すように、土曜出勤、日曜・祝日出勤があるという母親の割合は、定期的・不定期合わせてそれぞれ全体で、63.3%、48.9%であった。今回調査で初めて聞いた副業は、定期的に行っている割合は、乳幼児保護者で 3.7%、小学生保護者で 6.6%、中高校生保護者で 5.8%、テレワークを定期的に行っている割合は、全体で 2.6%であった。

表 5.2.1.11 に示すように、現在パート・アルバイトをしている母親のうち、フルタイムへの転換希望を持っている人は、全体で 40.9%おり、一方で実現できる見込みがある割合は、全体で 7.3%であった。

表 5.2.1.1 母親：就労状況

	合計	フルタイムで就労している	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護などでの休業中である	パート・アルバイト等で就労している	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護などでの休業中である	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで一度も就労したことがない	該当する保護者はいない
全体	1090	43.6	7.1	37.4	1.7	8.8	0.6	0.8
乳幼児保護者	360	30.3	19.2	31.4	3.3	15.3	0.6	0.0
小学生保護者	372	44.4	1.9	44.1	1.3	7.0	0.5	0.8
中高校生保護者	358	56.1	0.3	36.6	0.6	4.2	0.6	1.7

表 5.2.1.2 母親：一週間あたりの就業日数

	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
全体	957	0.2	1.0	3.1	9.9	71.7	12.1	1.9
乳幼児保護者	297	0.3	1.0	2.0	8.8	76.1	10.8	1.0
小学生保護者	332	0.0	1.2	3.3	12.3	70.2	10.2	2.7
中高校生保護者	328	0.3	0.9	4.0	8.5	69.2	15.2	1.8

表 5.2.1.3 母親：普段の1日あたりの就業日数

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	957	296	332	329
2時間	0.7	1.0	0.9	0.3
3時間	1.9	1.7	2.7	1.2
4時間	7.2	5.7	9.0	6.7
5時間	13.7	10.5	18.1	12.2
6時間	17.2	23.0	14.8	14.6
7時間	10.8	10.5	10.2	11.6
8時間	33.6	29.4	31.9	39.2
9時間	6.5	8.1	5.7	5.8
10時間	4.5	4.7	4.5	4.3
11時間	1.9	2.4	0.9	2.4
12時間	1.6	2.4	1.2	1.2
13時間	0.2	0.3	0.0	0.3
14時間	0.1	0.0	0.0	0.3
15時間	0.1	0.3	0.0	0.0

表 5.2.1.4 母親：深夜労働（22:00～）の有無

	合計	定期的 にあり	不定期 にあり	なし
全体	955	3.4	6.4	90.3
乳幼児保護者	300	4.3	9.3	86.3
小学生保護者	329	1.8	5.5	92.7
中高校生保護者	326	4.0	4.6	91.4

表 5.2.1.5 母親：土曜出勤の有無

	合計	定期的 にあり	不定期 にあり	なし
全体	961	24.9	38.4	36.7
乳幼児保護者	300	23.7	37.7	38.7
小学生保護者	333	21.6	39.9	38.4
中高校生保護者	328	29.3	37.5	33.2

表 5.2.1.6 母親：日曜・祝日出勤の有無

	合計	定期的 にあり	不定期 にあり	なし
全体	958	14.7	34.1	51.1
乳幼児保護者	298	13.8	32.6	53.7
小学生保護者	331	12.1	36.6	51.4
中高校生保護者	329	18.2	33.1	48.6

表 5.2.1.7 母親：副業の有無

	合計	定期的 にあり	不定期 にあり	なし
全体	956	5.4	8.5	86.1
乳幼児保護者	298	3.7	6.7	89.6
小学生保護者	332	6.6	9.6	83.7
中高校生保護者	326	5.8	8.9	85.3

表 5.2.1.8 母親：テレワークの有無

	合計	定期的 にあり	不定期 にあり	なし
全体	953	2.6	5.9	91.5
乳幼児保護者	297	2.4	6.4	91.2
小学生保護者	330	4.2	7.0	88.8
中高校生保護者	326	1.2	4.3	94.5

表 5.2.1.9 母親：雇用期間の定めの有無

	合計	期間の定め はない	期間の定め がある（1 年未満）	期間の定め がある（1 年以上から 3年未満）	期間の定め がある（3 年以上）
全体	961	84.8	5.5	7.0	2.7
乳幼児保護者	299	89.3	4.3	4.3	2.0
小学生保護者	332	81.9	6.6	8.4	3.0
中高校生保護者	330	83.6	5.5	7.9	3.0

表 5.2.1.10 母親：職業

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	958	298	331	329
会社役員	4.5	4.7	3.3	5.5
民間企業の正社員	23.4	25.5	20.5	24.3
公務員などの正職員	10.4	14.4	10.6	6.7
団体職員	5.1	7.0	3.9	4.6
契約社員・派遣社員・嘱託職員	4.8	5.0	3.3	6.1
パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	38.1	32.9	44.1	36.8
自営業（家族従業者を含む）	9.5	6.4	10.0	11.9
自由業・フリーランス	2.9	3.0	3.0	2.7
その他	1.3	1.0	1.2	1.5

表 5.2.1.11 母親：現在パート・アルバイトに従事している方のフルタイムへの見通し

	合計	フルタイムへの 転換希望があ り、実現できる 見込みがある	フルタイムへの 転換希望はある が、実現できる 見込みはない	パート・アルバ イト等の就労を 続けることを希 望	パート・アルバ イト等をやめて 子育てや家事に 専念したい
全体	423	7.3	33.6	54.8	4.3
乳幼児保護者	125	7.2	36.0	50.4	6.4
小学生保護者	168	10.1	35.1	52.4	2.4
中高校生保護者	130	3.8	29.2	62.3	4.6

5.2.2 母親の就労状況—就業していない人の状況・・・問 6 6～問 6 8

ここでは、表 5.2.1.1 で「就労していない」を選んだ人に「あて名のお子さんの母親（または母親に代わる保護者の方）が就労していない理由について、あてはまるものを選んでください」として聞いた内容について、以下表に示す。

また、表 5.2.1.2 に、続けて「あて名のお子さんの母親（または母親に代わる保護者の方）の就労の希望について、あてはまるものを 1 つ選んでください」として聞いた内容、さらに表 5.2.1.3 に表 5.2.1.2 で「就労したい」と答えた人に「あて名のお子さんの母親（または母親に代わる保護者の方）の希望する就労形態について、あてはまるものを 1 つ選んでください」として聞いた内容を示す。

表 5.2.2.1 の通り、乳幼児保護者は主に子育てのため、小学生保護者は専業主婦のため、中高生保護者は自身の病気や介護のために、就労していないという割合が最も多い。子どもの年齢と合わせて、主たる理由が変化していくことがわかる。

表 5.2.2.2 の通り、就労希望を持っている人も一定数いる一方、特に中高校生保護者の場合は、自身の病気や家族の介護により就労していないという割合が増えることから、「わからない・決めていない」という理由も増える。また、表 5.2.2.3 の通り、就労する場合でも、パート・アルバイトを希望する割合は高い。

表 5.2.2.1 母親：就労していない理由

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	100	57	28	15
子育て中のため	60.0	84.2	39.3	6.7
専業主婦である	45.0	43.9	50.0	40.0
自身の病気や家族の介護のため	19.0	14.0	14.3	46.7
趣味やボランティア、社会活動などのため	0.0	0.0	0.0	0.0
定年退職したため	2.0	0.0	3.6	6.7
就学・職業訓練中のため	3.0	3.5	0.0	6.7
その他	13.0	5.3	21.4	26.7

表 5.2.2.2 母親：就労希望

	合計	すぐにでも、 もしくは1年 以内に就労し たい	1年以上先に 就労したい	就労するつも りはない	わからない・ 決めていない	その他
全体	96	26.0	30.2	17.7	20.8	5.2
乳幼児保護者	54	29.6	38.9	11.1	14.8	5.6
小学生保護者	27	14.8	29.6	25.9	25.9	3.7
中高校生保護者	15	33.3	0.0	26.7	33.3	6.7

表 5.2.2.3 母親：就労する場合の時間の希望

	合計	フルタイム (1週5日程 度・1日8時 間程度の就 労)	パート・アル バイト等(フ ルタイム以 外)	その他
全体	54	11.1	87.0	1.9
乳幼児保護者	37	8.1	91.9	0.0
小学生保護者	12	16.7	75.0	8.3
中高校生保護者	5	20.0	80.0	0.0

5.2.3 父親の就労状況 ―就業の実態・・・問69～問74

ここでは、父親の就労状況等について聞いた内容について以下表に示す。

表 5.2.3.1 は、父親の就労状況について「あて名のお子さんの父親（または父親に代わる保護者の方）の現在の就労状況について、あてはまるものを1つ選んでください。※フルタイムは、1週5日程度・1日8時間程度の就労をさします。また、自営業、家族従業者の方も含みます。」として聞いた内容である。

表 5.2.3.2 以降、表 5.2.3.8 は、実際の就業の状況についてそれぞれ聞いたものである。

表 5.2.3.9 は、父親の就労状況について「あて名のお子さんの父親（または父親に代わる保護者の方）の現在就労しているお仕事の雇用期間の定めの有無について、あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた内容である。

表 5.2.3.10 は、父親の就労状況について、従事している職業について聞いた内容である。

表 5.2.3.11 は、父親の就労状況について表 5.2.1.1 で示した内容について、「「3、4. パート・アルバイト等で就労している」を選んだ方にうかがいます。あて名のお子さんの父親（または父親に代わる保護者の方）のフルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望について、あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた内容である。

表 5.2.3.1 の通り、父親は、全体で9割前後が降るライムで就労している。フルタイム就労だが休業中である割合は、乳幼児保護者で1.1%であった。パート・アルバイト等の割合は、全体で1.8%であり、少ない。ひとり親家庭等を理由に、該当する保護者がいない割合は、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順で多くなる。

表 5.2.3.2 の通り、就労している人のうち、就業日数は、5日が最も高く、全体で58.5%であった。一方、就業日数が6日である割合も、全体で33.5%であった。

表 5.2.3.3 の通り、1日あたりの就労時間は、どの保護者も8時間にピークがあった。

表 5.2.3.4～表 5.2.3.8 に示すように、土曜出勤、日曜・祝日出勤があるという父親の割合は、定期的・不定期合わせてそれぞれ全体で、85.5%、73.3%であった。今回調査で初めて聞いた副業は、定期的に行っている割合は、乳幼児保護者で3.3%、小学生保護者で3.6%、中高校生保護者で2.6%、テレワークを定期的に行っている割合は、全体で1.6%であった。

表 5.2.3.9 に示すように、全体で95%前後は、期間の定めのない雇用で働いている。

表 5.2.3.1 父親：就労状況

	合計	フルタイムで就労している	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護などでの休業中である	パート・アルバイト等で就労している	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護などでの休業中である	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで一度も就労したことがない	該当する保護者はいない
全体	1075	90.0	0.4	1.8	0.0	0.9	0.1	6.9
乳幼児保護者	356	93.5	1.1	1.1	0.0	1.1	0.3	2.8
小学生保護者	367	89.6	0.0	2.5	0.0	0.8	0.0	7.1
中高校生保護者	352	86.6	0.0	1.7	0.0	0.9	0.0	10.8

表 5.2.3.2 父親：一週間あたりの就業日数

	合計	2日	3日	4日	5日	6日	7日
全体	976	0.4	1.4	1.0	58.5	33.5	5.1
乳幼児保護者	334	0.9	0.9	0.6	58.7	33.5	5.4
小学生保護者	333	0.0	0.9	0.6	62.5	31.5	4.5
中高校生保護者	309	0.3	2.6	1.9	54.0	35.6	5.5

表 5.2.3.3 父親：普段の1日あたりの就業日数

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	973	334	331	308
3時間	0.1	0.0	0.0	0.3
5時間	0.1	0.0	0.3	0.0
6時間	1.2	0.6	1.5	1.6
7時間	2.3	1.5	1.8	3.6
8時間	43.2	40.4	43.2	46.1
9時間	17.9	17.4	18.1	18.2
10時間	17.4	16.5	18.4	17.2
11時間	5.3	8.1	5.7	1.9
12時間	7.6	9.3	6.3	7.1
13時間	1.4	1.5	1.8	1.0
14時間	1.1	1.5	1.2	0.6
15時間	0.5	1.2	0.3	0.0
16時間	0.8	0.9	0.6	1.0
17時間	0.1	0.3	0.0	0.0
18時間	0.1	0.0	0.3	0.0
20時間	0.8	0.9	0.3	1.3

表 5.2.3.4 父親：深夜労働（22:00～）の有無

	合計	定期的にあり	不定期にあり	なし
全体	971	11.5	16.6	71.9
乳幼児保護者	336	13.4	19.3	67.3
小学生保護者	331	11.5	17.8	70.7
中高校生保護者	304	9.5	12.2	78.3

表 5.2.3.5 父親：土曜出勤の有無

	合計	定期的にあり	不定期にあり	なし
全体	977	46.0	39.5	14.5
乳幼児保護者	336	49.7	38.7	11.6
小学生保護者	334	44.0	41.0	15.0
中高校生保護者	307	44.0	38.8	17.3

表 5.2.3.6 父親：日曜・祝日出勤の有無

	合計	定期的に あり	不定期に あり	なし
全体	975	30.1	43.2	26.8
乳幼児保護者	335	33.4	41.5	25.1
小学生保護者	333	28.5	46.5	24.9
中高校生保護者	307	28.0	41.4	30.6

表 5.2.3.7 父親：副業の有無

	合計	定期的に あり	不定期に あり	なし
全体	968	3.2	4.4	92.4
乳幼児保護者	335	3.3	3.3	93.4
小学生保護者	331	3.6	4.5	91.8
中高校生保護者	302	2.6	5.6	91.7

表 5.2.3.8 父親：テレワークの有無

	合計	定期的に あり	不定期に あり	なし
全体	967	1.6	6.7	91.7
乳幼児保護者	335	0.6	8.1	91.3
小学生保護者	328	2.7	6.1	91.2
中高校生保護者	304	1.3	5.9	92.8

表 5.2.3.9 父親：雇用期間の定めの有無

	合計	期間の定め はない	期間の定め がある（1 年未満）	期間の定め がある（1 年から3年 未満）	期間の定め がある（3 年以上）
全体	973	95.2	0.3	1.0	3.5
乳幼児保護者	334	96.7	0.3	0.3	2.7
小学生保護者	332	94.3	0.0	1.8	3.9
中高校生保護者	307	94.5	0.7	1.0	3.9

表 5.2.3.10 父親：職業

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	979	335	337	307
会社役員	15.1	15.2	13.1	17.3
民間企業の正社員	49.6	54.6	50.1	43.6
公務員などの正職員	14.7	13.1	16.9	14.0
団体職員	5.2	5.1	4.7	5.9
契約社員・派遣社員・嘱託職員	0.7	0.6	0.3	1.3
パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	1.1	0.9	1.2	1.3
自営業（家族従業者を含む）	12.4	9.9	12.2	15.3
自由業・フリーランス	0.7	0.3	0.6	1.3
その他	0.4	0.3	0.9	0.0

表 5.2.3.11 父親：現在パート・アルバイトに従事している方のフルタイムへの見通し

	合計	フルタイム への転換希 望があり、 実現できる	フルタイム への転換希 望はある が、実現で きる	パート・ア ルバイト等 の就労を続 けることを
全体	18	5.6	38.9	55.6
乳幼児保護者	4	25.0	50.0	25.0
小学生保護者	8	0.0	37.5	62.5
中高校生保護者	6	0.0	33.3	66.7

5.2.4 父親の就労状況—就業していない人の状況・・・問 75～77

ここでは、表 5.2.3.1 で「就労していない」を選んだ人に「あて名のお子さんの父親（または父親に代わる保護者の方）が就労していない理由について、あてはまるものを選んでください」として聞いた内容について、以下表に示す。

また、表 5.2.4.1 に続けて「あて名のお子さんの父親（または父親に代わる保護者の方）の就労の希望について、あてはまるものを 1 つ選んでください」として聞いた内容を表 5.2.4.2 に示す。なお、表 5.2.4.2 の問いに続けて、母親と同様に就労時間の希望についても聞いているが、件数が少なく極めて個別の事情となるため、本文では省略する。

表 5.2.4.1 父親：就労していない理由

	合計	子育て中の ため	専業主夫で ある	自身の病気 や家族の介 護のため	趣味やボラ ンティア、 社会活動な どのため	定年退職 したため	就学・職 業訓練中 のため	その他
全体	10	0.0	0.0	30.0	0.0	30.0	10.0	30.0
乳幼児保護者	4	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0
小学生保護者	3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3
中高校生保護者	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3

表 5.2.4.2 父親：就労希望

	合計	すぐにでも、 もしくは1年 以内に就労し たい	1年以上先に 就労したい	就労するつも りはない	わからない・ 決めていない	その他
全体	10	20.0	20.0	30.0	30.0	0.0
乳幼児保護者	4	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
小学生保護者	3	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0
中高校生保護者	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0

5.2.5 130万円の壁の見直しによる影響見込み・・・問78

ここでは、「政府では、「130万円の壁（配偶者の社会保険の扶養内）」などの見直しを検討されているとの報道があります。それらの年収の壁が取り払われた場合の働き方として、母親、父親それぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた内容について、以下表に示す。表 5.2.5.1 が「母親」について、表 5.2.5.2 が「父親」についてである。また、それぞれ「その他」として聞いた自由記述の内容を、表 5.2.5.3 に示す。

表 5.2.5.1 の通り、母親の場合は 20%前後、表 5.2.5.2 の通り、父親の場合は 1%程度が働き方の変化を見込んでいる。

表 5.2.5.3 にある自由記述を見ると、子育てや子どもの生活状況を理由に、仕事を増やすことは難しいという意見の一方、130万円の壁にかかわらず働きたいともともと考えている人、しっかりした手取りがある仕事に就けるか心配する人もいた。

表 5.2.5.1 130万円の壁などの見直しによる働き方の変化見通し：母親

	合計	該当の保護者 はいない	現在と就労状 況は変わらな い	年収の壁が取 り払われるな らより働きた い
全体	1054	6.0	73.7	20.3
乳幼児保護者	347	5.2	71.2	23.6
小学生保護者	360	5.3	73.6	21.1
中高校生保護者	347	7.5	76.4	16.1

表 5.2.5.3 130万円の壁などの見直しによる働き方の変化見通し：父親

	合計	該当の保護者 はいない	現在と就労状 況は変わらな い	年収の壁が取 り払われるな らより働きた い
全体	1026	11.1	87.6	1.3
乳幼児保護者	341	7.6	91.5	0.9
小学生保護者	351	10.5	89.2	0.3
中高校生保護者	334	15.3	82.0	2.7

表 5.2.5.3 130 万円の壁などの見直しによる働き方の変化見通し：

「その他」の自由記述（抜粋）

- ・子育てを優先したいので、年収が上がっても勤務時間を増やすつもりはない。
- ・年収の壁より、ガソリン税、住民税、それらの物を国全体で考えて欲しい。仕事はしろ働けその分税金で巻き上げるは必要ない。増えた分をしっかりともとに残せる様にしないと意味がない
- ・働きたいが子供の生活状況に合わせなければいけないので現実難しいと思う。
- ・年収 130 万あるかないかですが扶養を外れて母親はパートで働いています
- ・物価も上がり、子供にもお金がかかるので、働きたいのに、130 万の壁があるため、制限した働き方になっている。
- ・130 万円の壁は関係ないが、働き方（バランス）は変えたい。
- ・厚生年金を払って生活していける手取りをもらえる仕事がしたいです。

5.2.6 小括

5.2 節では、母親、父親の就労状況について見た。

母親の就労状況について、前回調査でフルタイム就労あるいは、フルタイム就労だが休業中だった割合は、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順に、31.9%、39.9%、53.7%であった一方、今回調査では同じく順に、49.5%、46.3%、56.4%であり、どの保護者についても割合が上がっていた。それに合わせて就業日数、1 日あたりの就業時間も、週 5 日、1 日 8 時間の割合が増加した。

土曜出勤、日曜・祝日出勤の割合は、前回調査と概ね同様の割合であり、フルタイム勤務が増えている一方、平日日中に働ける仕事を選んでいる傾向が見て取れる。

今回調査で初めて聞いた副業や、テレワークについて、定期的に行っている割合は、副業が全体で 5.4%、テレワークが全体で 2.6%と、高くはないが、一定数見て取れた。

フルタイムへの転換希望は、前回調査で、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順に、32.9%、38.6%、25.2%であったが、今回調査では、43.2%、45.2%、33.0%であり、そもそも、フルタイムの割合が増え、さらにパート・アルバイトをしている人の中でもフルタイムへの転換希望を持っている人の割合が増えたといえる。全体的に母親も労働をする共働き世帯の割合が増え、また、フルタイムまたはフルタイムを希望する割合も増えたといえる。

父親の就労状況については、前回調査から傾向は大きく変わっていなかった。副業の割合については、定期的に行っている割合は、全体で 3.2%、テレワークについては同じく全体で 1.6%であった。

130 万円の壁の見直しによる影響については、母親側に大きく、全体で 20.3%の母親が、

「より働きたい」と考えていた。父親は現状と変わらないという回答が大半であった。

5.3 世帯の家計状況

5.3.1 世帯収入・・・問79

ここでは、「昨年（令和4年の1月1日～12月31日の間）のあなたの世帯（生計を共にしている方々）全員の年収（ボーナス含む手取り額※1）について、あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた内容について、以下表に示す。

今回調査では、厚生労働省等の調査により、日本において相対的貧困に該当する年収として「127万円」が云われていることから、最下層の選択肢を「～127万円未満」として聞いた。結果、全体で2.1%の回答者が当該層に該当することが分かった。

全体としては、中央値は「400万円～500万円」、ただし乳幼児保護者の世帯全体、小学生保護者の世帯全体、中高校生保護者の世帯全体になるにつれて、最頻値は順に「400万円～500万円未満」、「500万円～600万円未満」、「600万円～700万円未満」に上がっていくことがわかる。

表 5.3.1 世帯年収

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	877	299	302	276
～127万円未満	2.1	2.3	2.6	1.1
127万円～150万円未満	1.4	1.0	1.0	2.2
150万円～200万円未満	2.1	1.3	2.0	2.9
200万円～250万円未満	2.6	2.0	2.6	3.3
250万円～300万円未満	3.5	2.3	4.0	4.3
300万円～350万円未満	6.4	10.0	4.3	4.7
350万円～400万円未満	8.3	10.7	8.3	5.8
400万円～500万円未満	16.4	22.1	13.6	13.4
500万円～600万円未満	15.1	13.7	17.5	13.8
600万円～700万円未満	13.1	12.0	12.3	15.2
700万円～800万円未満	10.4	8.7	10.3	12.3
800万円～900万円未満	6.8	4.3	8.9	7.2
900万円～1000万円未満	4.4	4.0	5.0	4.3
1000万円以上	7.4	5.4	7.6	9.4

5.3.2 世帯支出・・・問80～問84

ここでは、「あなたの世帯(生計を共にしている方)の1ヶ月の平均的な支出(住宅ローン等の借金返済含む・税額等は含まない)はどれくらいですか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた内容について、以下表 5.3.2.1 に示す。

表 5.3.2.2 に「あなたの世帯(生計を共にしている方)の1ヶ月の食費について、平均的な

支出はどれぐらいですか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた食費について、表 5.3.2.3 に「あなたの世帯(生計を共にしている方)の1ヶ月の住居費(家賃・住宅ローン)について、平均的な支出はどれぐらいですか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた住居費について、表 5.3.2.4 と表 5.3.2.5 は教育費支出について、「あて名のお子さん1人について、学校以外の教育(学習塾やスポーツ・運動以外の習い事)にかける1ヶ月あたりの平均的な支出はどれぐらいですか。あてはまるものを1つ選んでください」、「あて名のお子さん1人について、学校以外のスポーツクラブなどにかける1ヶ月あたりの平均的な支出はどれぐらいですか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた内容について示す。

表 5.3.2.1 の通り、1 か月あたりの世帯支出の総額は、全体で、「20 万円～30 万円未満」が最頻値であった。ただし、小学生保護者、中高生保護者になるにつれて、分布は高額方向にスライドする。

表 5.3.2.2 の通り、1 か月あたりの食費は、全体で「4 万円～5 万円未満」が最頻値であった。ただし、小学生保護者、中高生保護者になるにつれて、分布は高額方向にスライドする。

表 5.3.2.3 の通り、1 か月あたりの住居費の支出について、「支出なし」と答えた、おそらく実家または持ち家（ローン支払い済み）の割合は、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順に、18.6%、28.1%、36.3%であった。一方で、家賃やローンを払っている割合は、それを除いた割合であり、乳幼児保護者で8割超、小学生保護者で7割超、中高校生保護者で6割超が、家計から支出が毎月あった。

教育費について、表 5.3.2.4、表 5.3.2.5 の通りである。学校以外の教育支出は、乳幼児保護者の 40.3%、小学生保護者の 84.0%、中高校生保護者の 67.5%があった。支出がある世帯は、全体で 1.7%、5 万円以上支出しており、一定の格差がみられる。小学生保護者については、69.5%が、何らかのスポーツクラブ等に家計から支出していた。

表 5.3.2.1 1 か月あたりの世帯支出の総額

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	999	336	345	318
1万円未満	2.2	1.5	2.3	2.8
1万円～5万円未満	2.5	2.4	2.3	2.8
5万円～10万円未満	10.7	11.3	10.1	10.7
10万円～15万円未満	12.2	15.8	11.9	8.8
15万円～20万円未満	20.3	21.1	19.4	20.4
20万円～30万円未満	29.4	30.1	33.6	24.2
30万円～40万円未満	15.4	14.3	12.5	19.8
40万円～50万円未満	4.3	2.4	5.2	5.3
50万円以上	2.9	1.2	2.6	5.0

表 5.3.2.2 1 か月あたりの食費の支出

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	1026	343	355	328
5千円未満	0.1	0.3	0.0	0.0
5千円～1万円未満	0.0	0.0	0.0	0.0
1万円～1万5千円未満	0.6	1.2	0.6	0.0
1万5千円～2万円未満	1.7	2.6	1.1	1.2
2万円～2万5千円未満	2.7	3.8	2.0	2.4
2万5千円～3万円未満	6.3	9.3	7.0	2.4
3万円～3万5千円未満	6.6	8.2	4.8	7.0
3万5千円～4万円未満	8.5	10.2	6.8	8.5
4万円～5万円未満	20.4	21.9	20.0	19.2
5万円～6万円未満	17.5	18.7	16.1	18.0
6万円～7万円未満	10.8	7.3	12.4	12.8
7万円～8万円	10.7	8.2	14.1	9.8
8万円～9万円未満	4.9	4.4	4.8	5.5
9万円～10万円未満	4.7	1.7	5.4	7.0
10万円以上	4.5	2.3	5.1	6.1

表 5.3.2.3 1 か月あたりの住居費の支出

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	1019	339	352	328
支出はない	27.6	18.6	28.1	36.3
5千円未満	0.7	0.3	0.6	1.2
5千円～1万円未満	0.7	0.6	1.4	0.0
1万円～1万5千円未満	1.3	2.1	0.9	0.9
1万5千円～2万円未満	1.0	1.5	0.6	0.9
2万円～2万5千円未満	1.5	0.9	2.0	1.5
2万5千円～3万円未満	1.3	1.2	2.0	0.6
3万円～3万5千円未満	1.1	1.2	1.1	0.9
3万5千円～4万円未満	1.6	1.8	1.7	1.2
4万円～5万円未満	5.8	6.2	5.7	5.5
5万円～6万円未満	10.8	13.0	9.4	10.1
6万円～7万円未満	11.8	15.0	9.9	10.4
7万円～8万円	13.6	17.1	13.6	10.1
8万円～9万円未満	7.0	7.1	6.8	7.0
9万円～10万円未満	5.5	4.7	6.8	4.9
10万円以上	8.9	8.8	9.4	8.5

表 5.3.2.4 1 か月あたりの学校以外の教育（学習塾やスポーツ・運動以外の習い事）支出

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	1041	340	363	338
支出はない	35.6	59.7	16.0	32.5
5千円未満	13.1	15.0	13.8	10.4
5千円～1万円未満	19.0	13.2	28.9	14.2
1万円～1万5千円未満	11.5	7.4	14.6	12.4
1万5千円～2万円未満	7.2	2.4	10.5	8.6
2万円～2万5千円未満	3.8	0.6	5.2	5.6
2万5千円～3万円未満	3.3	0.3	3.6	5.9
3万円～4万円未満	3.4	0.3	4.4	5.3
4万円～5万円未満	1.3	0.0	2.5	1.5
5万円以上	1.7	1.2	0.6	3.6

表 5.3.2.5 1 か月あたりの学校以外のスポーツクラブなどにかかる教育支出

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	1039	341	361	337
支出はない	57.2	80.6	30.5	62.0
5千円未満	14.9	4.1	26.0	13.9
5千円～1万円未満	16.5	11.7	26.6	10.4
1万円～1万5千円未満	5.5	2.6	9.7	3.9
1万5千円～2万円未満	3.4	0.9	4.2	5.0
2万円～2万5千円未満	0.9	0.0	1.1	1.5
2万5千円～3万円未満	0.8	0.0	1.1	1.2
3万円～4万円未満	0.5	0.0	0.8	0.6
4万円～5万円未満	0.0	0.0	0.0	0.0
5万円以上	0.5	0.0	0.0	1.5

5.3.3 家計状況に関する認識・・・問 8 5

ここでは、「あなたのご家庭の現在の家計の状況について教えてください。最も近いものを1つ選んでください。※住宅ローンの支払いなどは貯蓄ではなく、支出としてください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り図と表に示す。

全体（n=1035）では、「赤字でも黒字でもなく、ほぼ均衡している」49.4%（511人）が最も多く、次いで、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」23.8%（246人）、「黒字であり、まずまず余裕がある」15.5%（160人）、「赤字であり、借金を増やして生活している」6.4%（66人）、「黒字であり、貯蓄が増えている」5.0%（52人）であった。全体の30.2%（312人）が「赤字」と回答していた。

層別では、小学生の保護者が他の保護者に比べて、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」が若干少なく、「赤字でも黒字でもなく、ほぼ均衡している」が多かった。

5年前の調査[前回「赤字であり借金をして生活している」乳幼児 4.4% (20 人)・小学生 10.2% (53 人)・中高校生 13.0% (61 人)・全体 9.2% (134 人)、「赤字であり貯蓄を取り崩している」乳幼児 15.5% (71 人)・小学生 11.3% (59 人)・中高校生 13.6% (64 人)・全体 13.4% (194 人)、「赤字でも黒字でもなくぎりぎりである」乳幼児 49.1% (225 人)・小学生 50.1% (261 人)・中高校生 50.7% (239 人)・全体 50.0% (725 人)、「黒字であり余裕がある」乳幼児 10.5% (48 人)・小学生 10.4% (54 人)・中高校生 8.3% (39 人)・全体 9.7% (141 人)、「黒字であり毎月貯蓄をしている」乳幼児 20.5% (94 人)・小学生 18.0% (94 人)・中高校生 14.4% (68 人)・全体 17.7% (256 人)]と比較し、全体 (n=1450) では、「赤字であり借金をして生活している」2.8 ポイント減、「赤字であり貯蓄を取り崩している」10.4 ポイント増、「赤字でも黒字でもなくぎりぎりである (今回調査は「ほぼ均衡」と表記)」0.6 ポイント減、「黒字であり余裕がある」5.8 ポイント増、「黒字であり毎月貯蓄をしている」12.7 ポイント減であった。したがって、「赤字」と回答した者が 22.6%から 30.2%と 7.6 ポイント増加し、「黒字」と回答した者は 27.4%から 20.5%と 6.9 ポイント減少しており、家計状況は前回よりも悪いと認識していた。

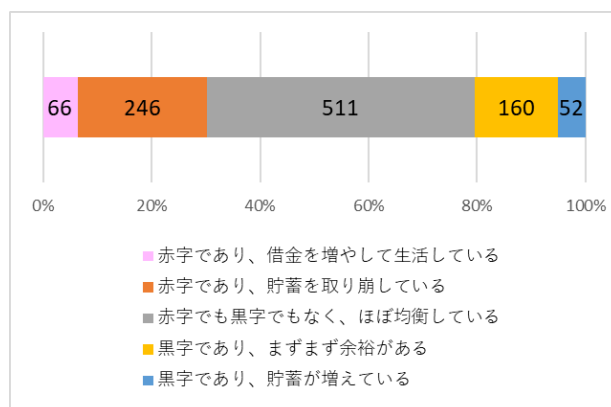


図 5.3.3 家庭の現在の家計の状況 (全体)

表 5.3.3 家庭の現在の家計の状況 (層別)

	合計	赤字であり、借金を増やして生活している	赤字であり、貯蓄を取り崩している	赤字でも黒字でもなく、ほぼ均衡している	黒字であり、まずまず余裕がある	黒字であり、貯蓄が増えている
全体	1035	6.4	23.8	49.4	15.5	5.0
乳幼児保護者	339	5.0	26.8	47.2	14.7	6.2
小学生保護者	362	5.2	18.0	52.8	17.7	6.4
中高校生保護者	334	9.0	26.9	47.9	13.8	2.4

5.3.4 生活状況

生活状況について、「暮らしの状況に関する認識」、「暮らしの状況の見通し」、「子どもに係る経費で負担が大きいと感じている費用」、「公的制度（公的扶助・支援）の利用状況」、

「経済的理由で生活必需品等が買えなかった経験」、「経済的理由で支払いができなかった経験」、「家庭にある子ども用の物品」、「家庭状況と子どもとの関わり」の順に述べる。

5.3.4.1 暮らしの状況に関する認識・・・問 8 6

ここでは、「あなたは、ご家庭の現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り図と表に示す。

全体（n=1048）では、「やや苦しい」38.3%（401人）が最も多く、次いで、「普通」37.5%（393人）、「大変苦しい」14.1%（148人）、「ややゆとりがある」8.0%（84人）、「大変ゆとりがある」2.1%（22人）の順で多かった。「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた「苦しい」と回答した者は、52.4%（549人）と半数を超えていた。

層別では、中高校生の保護者が他の保護者と比べて、「普通」よりも「やや苦しい」と回答した者が多かった。

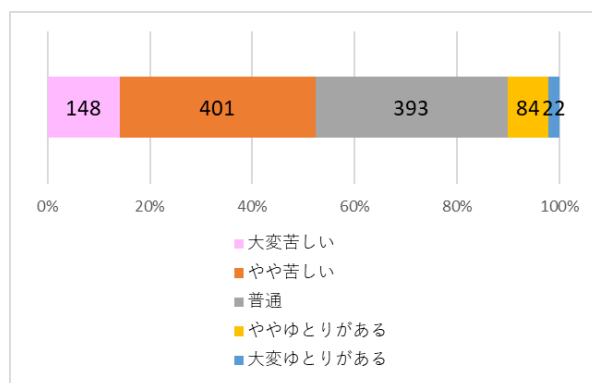


図 5.3.4.1 暮らしの状況に関する認識

表 5.3.4.1 暮らしの状況に関する認識

	合計	大変苦しい	やや苦しい	普通	ややゆとりがあ	大変ゆとりがあ
全体	1048	14.1	38.3	37.5	8.0	2.1
乳幼児保護者	346	13.0	37.0	39.6	7.8	2.6
小学生保護者	365	14.2	35.1	39.5	9.0	2.2
中高校生保護者	337	15.1	43.0	33.2	7.1	1.5

5.3.4.2 暮らしの状況の見通し・・・問 8 7

ここでは、「あなたは、ご家庭の今後の暮らしの状況をどのように予想していますか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り図と表に示す。

全体（n=1046）では、「やや苦しくなる」41.3%(432人）が最も多く、次いで、「変わら

ない」28.0% (293 人)、「とても苦しくなる」23.2%(243 人)、「ややゆとりが出てくる」6.3% (66 人)、「とてもゆとりが出てくる」1.1% (12 人) の順が多かった。「とても苦しくなる」と「やや苦しくなる」を合わせると「苦しくなる」と回答した者は、64.5% (675 人) と 6 割を超えており、現在の暮らしの状況の「苦しい」52.4% (549 人) よりも 1 割以上が今後悪化すると捉えていた。

層別では、現在の暮らしの状況と同様に、中高校生の保護者が他の保護者よりも、「苦しくなる」と回答する者が多かった。

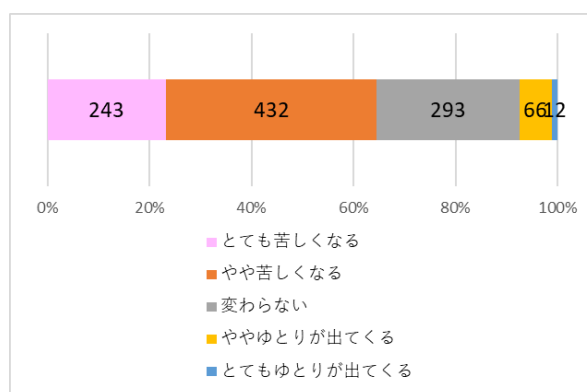


図 5.3.4.2 暮らしの状況の見通し

表 5.3.4.2 暮らしの状況の見通し

	合計	とても苦しくなる	やや苦しくなる	変わらない	ややゆとりが出てくる	とてもゆとりが出てくる
全体	1046	23.2	41.3	28.0	6.3	1.1
乳幼児保護者	346	19.4	42.8	30.1	6.6	1.2
小学生保護者	364	21.7	39.0	30.8	6.9	1.6
中高校生保護者	336	28.9	42.3	22.9	5.4	0.6

5.3.4.3 子どもに係る経費で負担が大きいと感じている費用・・・問 9 0

ここでは、「あて名のお子さんに係る経費について、負担が大きいと感じているものはありますか。あてはまるものをすべて選んでください（複数回答可）。」として聞いた結果について述べる。以下の通り図と表に示す。割合の数値は、複数回答であるため、回答全体に対する割合を示している。

全体 (n=1010) では、多い順に、「塾や習い事等の保育園・幼稚園・学校以外の費用」33.9% (342 人)、「負担が大きいと感じているものはない」32.2% (325 人)、「保育園・幼稚園や学校での活動に関する費用（制服、文房具、身の回りのものなど）」23.1% (233 人)、「保育料・授業料」20.6% (208 人)、「修学旅行費など積立金」12.2% (123 人)、「地域のクラブ活動・部活動費」11.9% (120 人)、「給食費」9.9% (100 人)、「その他」8.6% (87 人) であった。

層別では、小学生保護者では「塾や習い事等の保育園・幼稚園・学校以外の費用」、中高校生保護者では「地域のクラブ活動・部活動費」が他と比べて多く、成長発達に伴う経費の回答が多かった。

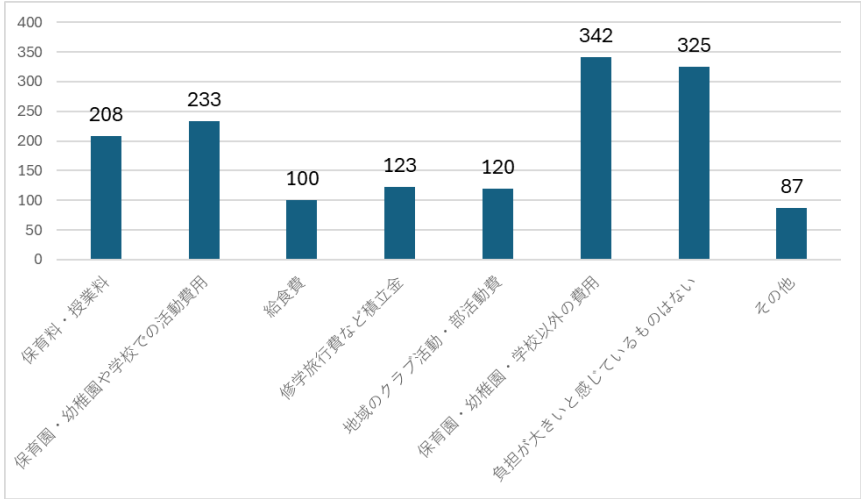


図 5.3.4.3_1 子どもに係る経費（全体）

表 5.3.4.3 子どもに係る経費（層別）

	合計	保育料・授業料	保育園・幼稚園や学校での活動に関する費用（制服、文房具、身の回りのものなど）	給食費	修学旅行費など積立金	地域のクラブ活動・部活動費	塾や習い事等の保育園・幼稚園・学校以外の費用	負担が大きいと感じているものはない	その他
全体	1010	20.6	23.1	9.9	12.2	11.9	33.9	32.2	8.6
乳幼児保護者	324	29.9	25.0	13.3	5.2	5.2	21.9	36.4	11.7
小学生保護者	356	10.4	23.9	10.4	12.1	8.1	44.1	33.7	6.5
中高校生保護者	330	22.4	20.3	6.1	19.1	22.4	34.5	26.4	7.9

「その他」の有効回答 81 人では、延べ 98 件の意見があった。内容分析の結果を図に示す。10 件以上の回答は、「将来の積立等」、「オムツ（お尻拭き）」、「衣類（体操服含む）」と「わからない（未だ小さい）」であった。「将来の積立等」では、大学進学のための授業料や入学金等の学費であった。5 件以下では、「兄弟の授業料」、「授業料（高校）」の学費、「通学費（ガソリン代・バス定期等）」、「交通費（通院）」の移動のための費用、「食費」、「生活費」、「おもちゃ・娯楽（ゲーム含む）」、「自転車（メンテナンス含む）」、「設備備品（安全柵・障がい向け）」、「スキー用品・スキー場利用料」、「行事（お祝い・学校等）」、「交際費」、「ベビー用品」、「学童費」、「仕送り（寮生活）」、「コンタクトレンズ」、「通信費（スマホ）」であった。

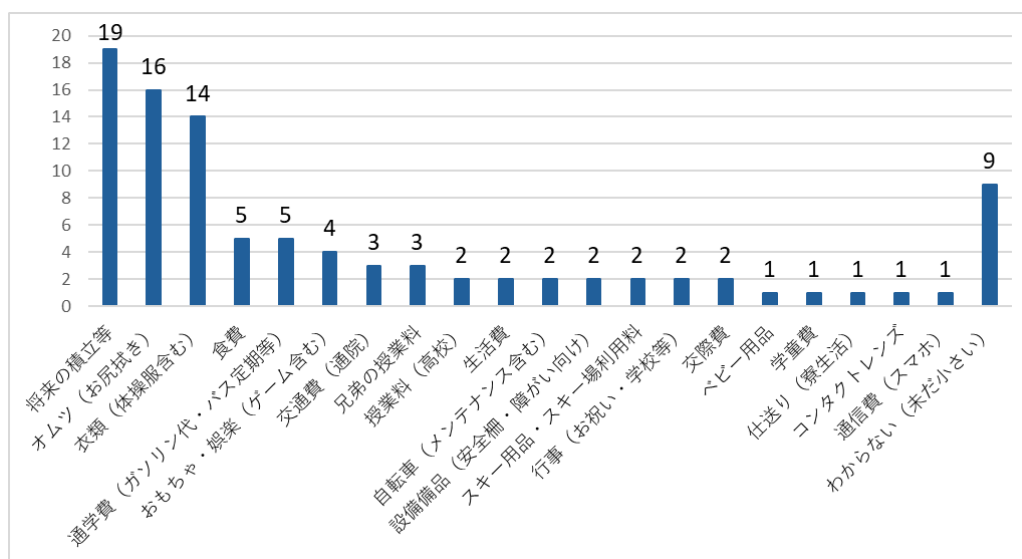


図 5.3.4.3_2 子どもに係る経費（その他の内訳）

5.3.4.4 公的制度（公的扶助・支援）の利用状況・・・問 9 1 A～E

ここでは、「あなたはあて名のお子さんのために、次の A～E の公的制度を利用した（または支援を受けた）ことがありますか。あてはまるものを 1 つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り表に示す。

児童扶養手当では、「現在利用している」割合は乳幼児の保護者が高かった。乳幼児の保護者は、就学援助や母子父子寡婦福祉資金貸付金、生活福祉基金貸付金の「制度を知らない」割合が高かった。また、0.6%（2 人）が生活保護を受けていると回答していた。

表 5.3.4.4_1 公的制度の利用状況（児童扶養手当）

	合計	現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	制度を知らない	該当しない
全体	1019	55.0	5.4	7.1	6.3	26.3
乳幼児保護者	337	70.0	0.6	3.9	7.4	18.1
小学生保護者	355	51.8	3.9	7.0	6.5	30.7
中高校生保護者	327	42.8	11.9	10.4	4.9	30.0

表 5.3.4.4_2 公的制度の利用状況（就学援助）

	合計	現在利用して いる	過去に利用し ていたことが ある	利用したこと はないが知っ ている	制度を知らな い	該当しない
全体	1017	4.6	1.1	21.3	15.5	57.4
乳幼児保護者	333	1.2	0.0	13.5	30.0	55.3
小学生保護者	354	4.0	0.8	22.3	9.9	63.0
中高校生保護者	330	8.8	2.4	28.2	7.0	53.6

表 5.3.4.4_3 公的制度の利用状況（生活保護）

	合計	現在利用して いる	過去に利用し ていたことが ある	利用したこと はないが知っ ている	制度を知らな い	該当しない
全体	1014	0.2	0.1	20.8	2.6	76.3
乳幼児保護者	331	0.6	0.0	15.7	3.3	80.4
小学生保護者	355	0.0	0.3	21.7	2.0	76.1
中高校生保護者	328	0.0	0.0	25.0	2.4	72.6

表 5.3.4.4_4 公的制度の利用状況（母子父子寡婦福祉資金貸付金）

	合計	現在利用して いる	過去に利用し ていたことが ある	利用したこと はないが知っ ている	制度を知らな い	該当しない
全体	1013	0.4	0.3	12.0	23.0	64.3
乳幼児保護者	331	0.6	0.3	6.3	31.1	61.6
小学生保護者	355	0.0	0.3	13.5	18.3	67.9
中高校生保護者	327	0.6	0.3	16.2	19.9	63.0

表 5.3.4.4_5 公的制度の利用状況（生活福祉基金貸付金）

	合計	現在利用して いる	過去に利用し ていたことが ある	利用したこと はないが知っ ている	制度を知らな い	該当しない
全体	1016	0.3	0.2	8.9	33.3	57.4
乳幼児保護者	331	0.3	0.3	3.6	42.9	52.9
小学生保護者	357	0.3	0.0	9.5	28.9	61.3
中高校生保護者	328	0.3	0.3	13.4	28.4	57.6

5.3.4.5 経済的理由で生活必需品等が買えなかった経験・・・問9 2A～C

ここでは、「あなたの世帯では、過去1年間で、経済的な理由で家族が必要とする食料品や衣料品（嗜好品は含みません）などが買えなかったことがありましたか。最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り表に示す。

「よくあった」は、食料品の 1.4% (15 人)、衣料品の 3.2% (33 人)、生理用品の 0.4% (4 人) が回答していた。乳幼児の保護者では、食料品 1.7% (6 人)、衣料品 5.2% (18 人)、生理用品 0.9% (3 人) であった。小学生の保護者では、食料品 1.7% (6 人)、衣料品 2.2% (8 人)、中高校生の保護者で、食料品 0.9% (3 人)、衣料品 2.1% (7 人)、生理用品 0.3% (1 人) であった。衣料品が食料品や生理用品よりも買えなかった経験の割合が高かった。

表 5.3.4.5_1 経済的理由で生活必需品等が買えなかった経験（食料品）

	合計	よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった・該当しない
全体	1041	1.4	4.5	9.0	85.0
乳幼児保護者	343	1.7	5.0	6.4	86.9
小学生保護者	361	1.7	4.2	10.5	83.7
中高校生保護者	337	0.9	4.5	10.1	84.6

表 5.3.4.5_2 経済的理由で生活必需品等が買えなかった経験（衣料品）

	合計	よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった・該当しない
全体	1040	3.2	4.6	12.7	79.5
乳幼児保護者	343	5.2	4.4	9.9	80.5
小学生保護者	361	2.2	4.2	14.4	79.2
中高校生保護者	336	2.1	5.4	13.7	78.9

表 5.3.4.5_3 経済的理由で生活必需品等が買えなかった経験（生理用品）

	合計	よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった・該当しない
全体	1038	0.4	1.1	2.5	96.1
乳幼児保護者	342	0.9	0.9	2.6	95.6
小学生保護者	361	0.0	1.1	2.8	96.1
中高校生保護者	335	0.3	1.2	2.1	96.4

5.3.4.6 経済的理由で支払いができなかった経験・・・問 9 3A～H

ここでは、「あなたの世帯では、過去 1 年間で、経済的な理由で月々の料金、家賃・住宅ローン、債務の支払いができないことがありましたか。A～Hについて、最もあてはまるものをそれぞれ 1 つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り表に示す。

「支払えないことがあった」と回答した者は、光熱水費では、3.3% (34 人)、学費（授

業料、旅費積立など）2.6%（27人）、税金・保険料6.0%（62人）、電話代・携帯電話料金3.2%（33人）、家賃1.7%（18人）、住宅ローン1.6%（17人）、給食費2.3%（24人）、医療費1.4%（14人）であった。最も多かった税金・保険料は、乳幼児と中高校生の保護者が小学生の保護者に比べて多かった。

表 5.3.4.6_1 経済的理由で支払いができなかった経験：光熱水費

	合計	支払えないことはなかった	支払えないことがあった	該当しない
全体	1039	59.7	3.3	37.1
乳幼児保護者	343	59.8	3.5	36.7
小学生保護者	361	61.5	2.2	36.3
中高校生保護者	335	57.6	4.2	38.2

表 5.3.4.6_2 経済的理由で支払いができなかった経験：学費（授業料、旅費積立など）

	合計	支払えないことはなかった	支払えないことがあった	該当しない
全体	1038	57.0	2.6	40.4
乳幼児保護者	341	47.5	3.2	49.3
小学生保護者	361	62.3	1.7	36.0
中高校生保護者	336	61.0	3.0	36.0

表 5.3.4.6_3 経済的理由で支払いができなかった経験：税金・保険料

	合計	支払えないことはなかった	支払えないことがあった	該当しない
全体	1034	59.6	6.0	34.4
乳幼児保護者	342	58.5	6.7	34.8
小学生保護者	357	61.9	3.6	34.5
中高校生保護者	335	58.2	7.8	34.0

表 5.3.4.6_4 経済的理由で支払いができなかった経験：電話代・携帯電話料金

	合計	支払えないことはなかった	支払えないことがあった	該当しない
全体	1031	62.2	3.2	34.6
乳幼児保護者	341	62.2	3.2	34.6
小学生保護者	357	62.7	2.8	34.5
中高校生保護者	333	61.6	3.6	34.8

表 5.3.4.6_5 経済的理由で支払いができなかった経験：家賃

	合計	支払えないことはなかった	支払えないことがあった	該当しない
全体	1030	33.2	1.7	65.0
乳幼児保護者	342	39.8	2.9	57.3
小学生保護者	358	31.3	1.1	67.6
中高校生保護者	330	28.5	1.2	70.3

表 5.3.4.6_6 経済的理由で支払いができなかった経験：住宅ローン

	合計	支払えないことはなかった	支払えないことがあった	該当しない
全体	1036	37.0	1.6	61.4
乳幼児保護者	342	38.6	1.5	59.9
小学生保護者	359	39.8	1.4	58.8
中高校生保護者	335	32.2	2.1	65.7

表 5.3.4.6_7 経済的理由で支払いができなかった経験：給食費

	合計	支払えないことはなかった	支払えないことがあった	該当しない
全体	1034	55.9	2.3	41.8
乳幼児保護者	341	46.9	2.1	51.0
小学生保護者	360	63.1	2.5	34.4
中高校生保護者	333	57.4	2.4	40.2

表 5.3.4.6_8 経済的理由で支払いができなかった経験：医療費

	合計	支払えないことはなかった	支払えないことがあった	該当しない
全体	1036	60.6	1.4	38.0
乳幼児保護者	342	61.1	1.8	37.1
小学生保護者	359	62.4	0.8	36.8
中高校生保護者	335	58.2	1.5	40.3

5.3.4.7 家庭にある子ども用の物品等・・・問 8 8A～H

ここでは、「あなたのご家庭では、次のA～Hのうちあて名のお子さん用のものはありますか。ある場合は「ある」、ない場合はそれぞれあてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り表に示す。

子ども部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）のうち、「【ない】必要だと思うが経済的

に難しい」と回答した者は、小学生の保護者 3.8% (14 人)、中高校生の保護者 2.4% (8 人) であった。勉強机のうち、「【ない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した者は、小学生の保護者 2.2% (8 人)、中高校生の保護者 1.2% (4 人) であった。本（教科書やマンガは除く）のうち、「【ない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した者は、乳幼児の保護者が 2.0% (7 人) 小学生の保護者 2.2% (8 人)、中高校生の保護者 2.1% (7 人) であった。文房具では、「【ない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した乳幼児の保護者が 0.6% (2 人) いた。スポーツ用品（野球のグローブやサッカーボール、ラケットなど）のうち、「【ない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した者は、小学生の保護者 1.9% (7 人)、中高校生の保護者 2.1% (7 人) であった。インターネットにつながるパソコン、タブレット（家族共用含む）のうち、「【ない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した者は、小学生の保護者 4.1% (15 人)、中高校生の保護者 3.6% (12 人) であった。スマートフォン・携帯電話のうち、「ある」と回答した者は、小学生の保護者 48.6% (177 人)、中高校生の保護者 82.8% (279 人) であった。

表 5.3.4.7_1 家庭にある子ども用の物：子ども部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）

	合計	ある	【ない】必要だと思うが経済的に難しい	【ない】必要だと思うがない	【ない】必要だと思わないのでない
全体	1045	70.4	4.9	17.7	7.0
乳幼児保護者	343	49.6	8.5	26.5	15.5
小学生保護者	364	72.8	3.8	19.0	4.4
中高校生保護者	338	89.1	2.4	7.4	1.2

表 5.3.4.7_2 家庭にある子ども用の物：勉強机

	合計	ある	【ない】必要だと思うが経済的に難しい	【ない】必要だと思うがない	【ない】必要だと思わないのでない
全体	1044	56.3	2.6	17.8	23.3
乳幼児保護者	341	18.8	4.4	36.7	40.2
小学生保護者	366	62.3	2.2	12.8	22.7
中高校生保護者	337	87.8	1.2	4.2	6.8

表 5.3.4.7_3 家庭にある子ども用の物：本（教科書やマンガは除く）

	合計	ある	【ない】必要だと思うが経済的に難しい	【ない】必要だと思うがない	【ない】必要だと思わないのでない
全体	1042	84.7	2.1	9.4	3.7
乳幼児保護者	343	85.1	2.0	8.5	4.4
小学生保護者	364	87.9	2.2	5.8	4.1
中高校生保護者	335	80.9	2.1	14.3	2.7

表 5.3.4.7_4 家庭にある子ども用の物：文房具

	合計	ある	【ない】必要だと 思うが経済的に難 しい	【ない】必要だと 思うがない	【ない】必要だと 思わないのでない
全体	1042	93.1	0.2	3.3	3.5
乳幼児保護者	340	79.1	0.6	10.0	10.3
小学生保護者	365	100.0	0.0	0.0	0.0
中高校生保護者	337	99.7	0.0	0.0	0.3

表 5.3.4.7_5 家庭にある子ども用の物：スポーツ用品

	合計	ある	【ない】必要だと 思うが経済的に難 しい	【ない】必要だと 思うがない	【ない】必要だと 思わないのでない
全体	1036	70.0	1.9	9.0	19.1
乳幼児保護者	338	49.1	1.8	18.0	31.1
小学生保護者	363	80.2	1.9	6.1	11.8
中高校生保護者	335	80.0	2.1	3.0	14.9

表 5.3.4.7_6 家庭にある子ども用の物：ゲーム機

	合計	ある	【ない】必要だと 思うが経済的に難 しい	【ない】必要だと 思うがない	【ない】必要だと 思わないのでない
全体	1039	66.4	1.7	5.1	26.8
乳幼児保護者	338	30.8	2.7	8.9	57.7
小学生保護者	365	82.5	1.6	4.4	11.5
中高校生保護者	336	84.8	0.9	2.1	12.2

表 5.3.4.7_7 家庭にある子ども用の物：インターネットに繋がるパソコン、タブレット

	合計	ある	【ない】必要だと 思うが経済的に難 しい	【ない】必要だと 思うがない	【ない】必要だと 思わないのでない
全体	1038	77.7	3.5	5.7	13.1
乳幼児保護者	339	63.1	2.7	7.4	26.8
小学生保護者	363	82.4	4.1	5.2	8.3
中高校生保護者	336	87.5	3.6	4.5	4.5

表 5.3.4.7_8 家庭にある子ども用の物：スマートフォン、携帯電話

	合計	ある	【ない】必要だと 思うが経済的に難 しい	【ない】必要だと 思うがない	【ない】必要だと 思わないのでない
全体	1039	55.8	2.2	7.2	34.7
乳幼児保護者	338	36.7	1.5	7.7	54.1
小学生保護者	364	48.6	3.3	8.5	39.6
中高校生保護者	337	82.8	1.8	5.3	10.1

5.3.4.8 家庭状況と子どもとの関わり・・・問89A～K

ここでは、「あなたのご家庭では、あて名のお子さんに対して、次のA～Kのことをしていますか。している場合は「している」、していない場合はそれぞれあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り表に示す。

毎月お小遣いを渡す、のうち、「【していない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した小学生の保護者は4.4%（16人）、中高校生の保護者は6.5%（22人）であった。習い事（習字、ピアノ、絵画など）に通わせるでは、「【していない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した乳幼児の保護者は12.0%（40人）、小学生の保護者は10.2%（37人）、中高校生の保護者は7.8%（26人）であった。スポーツクラブ（サッカー、バスケ、ダンスなど）に通わせるでは、「【していない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した乳幼児の保護者は10.8%（36人）、小学生の保護者は6.9%（25人）、中高校生の保護者は4.5%（15人）であった。学習塾に通わせるでは、「【していない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した小学生の保護者は16.7%（61人）、中高校生の保護者は10.5%（35人）であった。

医者に行く（医療機関での健診を含む）では、「【していない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した者が乳幼児、小学生、中高校生の保護者がそれぞれ0.3%（1人）ずついた。歯医者に行く（歯医者での健診を含む）では、「【していない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した者は、乳幼児の保護者が0.6%（2人）、小学生と中高校生の保護者が各0.3%（1人）いた。

乳幼児、小学生、中高校生の保護者のいずれも、「【していない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した者が比較的多かったものが、毎月新しい洋服や靴を買うが7%以上10%未満いた。また、1年に1回以上は家族旅行をするも15%から25%いた。

お子さんの保育所、幼稚園や学校の行事などへ親が参加するでは、「【していない】必要だと思うが経済的に難しい」と回答した者は、乳幼児の保護者が0.9%（3人）、小学生と中高校生の保護者が各0.3%（1人）いた。

表 5.3.4.8_1 子どもにしていること：毎月お小遣いを渡す

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1036	26.4	4.9	15.4	53.2
乳幼児保護者	334	3.9	3.9	9.3	82.9
小学生保護者	365	24.9	4.4	20.5	50.1
中高校生保護者	337	50.4	6.5	16.0	27.0

表 5.3.4.8_2 子どもにしていること：毎月新しい洋服や靴を買う

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1036	22.7	9.0	14.3	54.1
乳幼児保護者	339	27.7	9.7	10.0	52.5
小学生保護者	363	19.3	7.7	15.2	57.9
中高年生保護者	334	21.3	9.6	17.7	51.5

表 5.3.4.8_3 子どもにしていること：習い事に通わせる

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1030	37.6	10.0	18.3	34.1
乳幼児保護者	334	19.2	12.0	25.7	43.1
小学生保護者	363	57.0	10.2	14.9	17.9
中高年生保護者	333	34.8	7.8	14.7	42.6

表 5.3.4.8_4 子どもにしていること：スポーツクラブに通わせる

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1030	37.5	7.4	17.4	37.8
乳幼児保護者	334	16.2	10.8	26.9	46.1
小学生保護者	362	64.4	6.9	13.3	15.5
中高年生保護者	334	29.6	4.5	12.3	53.6

表 5.3.4.8_5 子どもにしていること：学習塾に通わせる

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1034	20.4	12.5	21.6	45.6
乳幼児保護者	335	3.3	9.9	21.5	65.4
小学生保護者	365	21.4	16.7	22.5	39.5
中高年生保護者	334	36.5	10.5	20.7	32.3

表 5.3.4.8_6 子どもにしていること：誕生日のお祝いをする

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1045	97.8	0.6	1.3	0.3
乳幼児保護者	342	98.8	0.0	0.9	0.3
小学生保護者	365	99.2	0.5	0.3	0.0
中高年生保護者	338	95.3	1.2	3.0	0.6

表 5.3.4.8_7 子どもにしていること：1年に1回以上は家族旅行をする

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1043	61.1	19.6	16.9	2.5
乳幼児保護者	343	67.9	15.2	15.5	1.5
小学生保護者	364	66.2	18.7	12.9	2.2
中高校生保護者	336	48.5	25.0	22.6	3.9

表 5.3.4.8_8 子どもにしていること：クリスマスのプレゼントやお年玉をあげる

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1042	92.8	2.3	2.2	2.7
乳幼児保護者	342	93.0	1.5	2.6	2.9
小学生保護者	364	97.8	1.1	0.5	0.5
中高校生保護者	336	87.2	4.5	3.6	4.8

表 5.3.4.8_9 子どもにしていること：医者に行く（医療機関での健診を含む）

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1042	96.7	0.3	1.0	2.0
乳幼児保護者	342	98.2	0.3	0.6	0.9
小学生保護者	364	96.4	0.3	1.1	2.2
中高校生保護者	336	95.5	0.3	1.2	3.0

表 5.3.4.8_10 子どもにしていること：歯医者に行く（歯医者での健診を含む）

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1041	84.8	0.4	11.3	3.5
乳幼児保護者	338	76.0	0.6	17.5	5.9
小学生保護者	365	89.6	0.3	8.5	1.6
中高校生保護者	338	88.5	0.3	8.3	3.0

表 5.3.4.8_11 子どもにしていること：保育所、幼稚園や学校の行事などへ親が参加する

	合計	している	【していない】必要だと思うが経済的に難しい	【していない】必要だと思うがしていない	【していない】必要だと思わないのでしていない
全体	1031	92.5	0.5	3.6	3.4
乳幼児保護者	330	85.8	0.9	4.8	8.5
小学生保護者	365	98.6	0.3	1.1	0.0
中高校生保護者	336	98.6	0.3	1.1	0.0

5.3.5 小括

まず、世帯収入、支出について述べる。前回調査で、相対的貧困率の調査上の推計値は乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者層それぞれ、2.5%～3.6%間であった。今回調査で、「～127万円未満」であったのは、全体で2.1%であり、前回調査より割合は少ない。しかし、総務省が実施する全国消費実態調査では、子育て世代の相対的貧困率は、13.9%（総務省，2015）と推計されており、本調査で得られた割合はそれより少ない。本調査は標本抽出の調査票調査であり、一般に、仕事があまりに多忙であったり、私生活で家族の介護や看病等が過負荷になっていたりする人は、調査票調査への回答をしない傾向がいわれており、相対的貧困家庭でこういった世帯は回答がされていない可能性が大いに考えられるため、留意が必要である。相対的貧困に該当する家庭があるという事実が明らかに出来た点は重要である。

教育費支出の状況を見ると、特に小学生保護者で16.0%が、学校以外の教育支出がなく、無料学習塾等のニーズにつながる世帯が潜在的にあることが見て取れる。スポーツクラブ等の加入率は、笹川スポーツ財団（2017）によると、小学生段階では、小学校5・6年生が最も割合が高く、56.6%であるが、本調査で、スポーツクラブ等への教育支出がある割合は69.5%であり、スポーツをしている小学生の割合は高い傾向が見て取れる。

家計状況では、前回調査と比べて、「赤字」7.6ポイント増、「黒字」6.9ポイント減であり、家計状況は前回よりも悪いと認識していた。

暮らしの状況に関する認識では、5年前[前回（n=1460）]：「大変苦しい」乳幼児6.0%（28人）・小学生7.8%（41人）・中高校生11.9%（56人）・全体8.6%（125人）、「やや苦しい」乳幼児28.3%（131人）・小学生30.5%（160人）・中高校生30.9%（146人）・全体29.9%（437人）、「普通」乳幼児54.2%（251人）・小学生49.3%（259人）・中高校生46.0%（217人）・全体49.8%（727人）、「ややゆとりがある」乳幼児8.6%（40人）・小学生10.7%（56人）・中高校生10.6%（50人）・全体10.0%（146人）、「大変ゆとりがある」乳幼児2.8%（13人）・小学生1.7%（9人）・中高校生0.6%（3人）・全体1.7%（25人）]と比較し、「大変苦しい」5.5ポイント増、「やや苦しい」8.4ポイント増、「普通」12.3ポイント減、「ややゆとりがある」2.0ポイント減、「大変ゆとりがある」0.4ポイント増であった。

「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた「苦しい」と回答した者は、5年前よりも13.9ポイント増加しており、暮らしの状況は苦しいと認識している者が増えていた。

暮らしの見通しでは、「苦しくなる」と回答した者が6割を超え、現在の暮らしの状況の「苦しい」よりも1割以上が今後悪化すると捉えている上に、前述の通り5年前よりも暮らしの状況の認識も悪化していた。

子どもに係る経費で負担が大きいと感じている費用では、5年前[前回（述べ数）]「塾や習い事等の学校以外の教育費」562人、「負担が大きいと感じていない」388人、「保育料（乳幼児）・高校の授業料」339人と上位3位が一致していた。

公的制度（公的扶助・支援）の利用状況では、前回調査と比較し、乳幼児の保護者が、就学援助や母子父子寡婦福祉資金貸付金、生活福祉基金貸付金の「制度を知らない」割合が高くほぼ同じ結果であった。生活保護を受けていると回答した者 0.6%（2 人）も前回調査においても 2 人であり、同様の結果であった。

経済的理由で生活必需品等が買えなかった経験では、食料品は前回[全体（n=1460）：「よくあった」 1.2%（18 人）、「ときどきあった」 6.6%（97 人）]とほぼ同様の結果であり、衣料品も、前回[全体（n=1457）：「よくあった」 2.9%（42 人）、「ときどきあった」 9.4%（137 人）]とほぼ同様の結果であった。

経済的理由で支払いができなかった経験について、前回調査との比較では、「支払えないことがあった」は、光熱水費 3.3%（34 人）[前回電気料金 2.8%（41 人）・ガス料金 1.6%（24 人）・水道料金 2.2%（32 人）]、家賃 1.7%（18 人）[前回 1.3%（19 人）]、住宅ローン 1.6%（17 人）[前回 1.2%（17 人）]、給食費 2.3%（24 人）[前回 2.1%（30 人）]であり、ほぼ同様の結果であった。

家庭にある子ども用の物品のうち、「【ない】必要だと思うが経済的に難しい」と「【ない】必要だと思うがない」を合わせると、子ども部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）は、22.6%（236 人）[前回 12.8%（174 人）／選択肢は「持っている」・「持っていない：必要だと思わない」・「持っていない：経済的に持てない」の 3 者択一]と「ない」と回答した者が 9.8 ポイント増加していた。同様に、勉強机は 20.4%（213 人）[前回 5.8%（82 人）／設問の表記は「子ども専用の机」]であり、14.6 ポイント増、子どもの本 11.5%（120 人）[前回 0.6%（9 人）]10.9 ポイント増、文房具 3.5%（36 人）[前回 0.9%（13 人）]2.6 ポイント増、スポーツ用品 10.9%（113 人）[前回 2.6%（37 人）]8.3 ポイント増となっており、「ない」と回答した者がいずれも増加していた。一方、「ある」との回答では、ゲーム機 66.4%（690 人）[前回 54.8%（782 人）]11.6 ポイント増、携帯電話・スマホは小学生と中高生では 65.0%（456 人）[前回 38.3%（374 人）／前回は小学生・中高生の保護者のみ回答]26.7 ポイント増加していた。

家庭状況と子どもとの関わりのうち、「【していない】必要だと思うが経済的に難しい」と「【していない】必要だと思うがない」を合わせると、毎月お小遣いを渡す 20.4%（211 人）[前回 4.8%（68 人）／選択肢は「している」・「していない：必要だと思わない」・「していない：経済的に持てない」の 3 者択一]で 15.6 ポイント増、毎月新しい洋服や靴を買う 23.3%（241 人）[前回 13.0%（186 人）]で 10.3 ポイント増、習い事に通わせる 28.3%（292 人）[前回 13.7%（194 人）]で 14.6 ポイント増、学習塾に通わせる 34.0%（352 人）[前回 18.2%（256 人）]で 15.8 ポイント増、誕生日のお祝いをする 1.9%（20 人）[前回 0.6%（9 人）]で 1.3 ポイント増、1 年に 1 回以上は家族旅行をする 36.4%（380 人）[前回 17.3%（247 人）]で 19.1 ポイント増、クリスマスのプレゼントやお年玉をあげる 4.5%（47 人）[前回 1.7%（25 人）]で 2.8 ポイント増、医者に行く 1.2%（13 人）[前回 0.1%（2 人）]で 1.1 ポイント増、歯医者に行く 11.7%（122 人）[前回 0.3%（5 人）]で 11.4 ポイント増、お子さんの保育所、幼稚園や学校の行事などへ親が

参加する 2.8% (29 人) [前回 0.8% (11 人)]で 2.0 ポイント増であった。前回の選択肢には、「必要だと思うがしていない」がないため、今回は、「必要だと思うがしていない」を合わせていることにより、全て増加しているとも考えられる。しかし、10 ポイント以上で見ると、毎月お小遣いを渡す 15.6 ポイント増、毎月新しい洋服や靴を買う 10.3 ポイント増、習い事に通わせる 14.6 ポイント増、学習塾に通わせる 15.8 ポイント増、1 年に 1 回以上は家族旅行をする 19.1 ポイント増、歯医者に行く 11.4 ポイントとなっており、家計を「赤字」、暮らし向きを「苦しい」と捉えている結果と連動しており、5 年前よりも経済面により生活に影響を及ぼしていることが推測された。

6 子育て実態・教育期待と保護者の不安

6.1 子どもの生活状況

以下では、子どもの生活状況について述べる。

6.1.1 子どもが朝食を食べる家族（平日）・・・問11

ここでは、「あて名のお子さんは、平日は誰と一緒に朝食を食べていますか。あてはまるものすべてを選んでください（複数回答可）」として聞いた結果について、述べる。結果を、以下表 6.1.1 に示す。

乳幼児、小学生、中高生と年齢が上がるにつれて、「父母」と食べる割合が減り、「一人で食べる」割合が増えていく。乳幼児で「朝食をほぼ食べない」割合は 0.5%、小学生で同、0.7%だが、中高生では 5.3%に上がる。

表 6.1.1 平日の子どもの朝食の状況

	合計	父母	兄弟姉妹	祖父母	上記以外の同居家族	ひとりで食べる	朝食はほぼ食べない
全体	1193	74.9	48.5	10.4	1.3	9.2	2.1
乳幼児保護者	408	85.8	40.0	11.0	1.7	4.7	0.5
小学生保護者	411	74.5	62.0	11.4	1.0	6.6	0.7
中高校生保護者	374	63.4	43.0	8.6	1.3	17.1	5.3

6.1.2 子どもの就寝時間（平日）・・・問10

ここでは、「あて名のお子さんは、平日は何時に就寝していますか。あてはまるものを1つを選んでください」として聞いた結果について述べる。結果を、以下表 6.1.2 に示す。

乳幼児、小学生、中高生と年齢が上がるにつれて、就寝時間は遅くなる傾向にある。

表 6.1.2 平日の子どもの就寝時間

	合計	～PM8時	PM8時台	PM9時台	PM10時台	PM11時台	0時台	1時以降	決まっていない
全体	1197	1.8	16.7	41.8	20.5	12.1	4.8	0.8	1.5
乳幼児保護者	410	5.1	33.7	51.7	7.3	1.0	0.2	0.0	1.0
小学生保護者	411	0.2	14.6	61.8	22.1	1.0	0.0	0.0	0.2
中高校生保護者	376	0.0	0.5	9.0	33.0	36.4	14.9	2.7	3.5

6.2 親の関わり

以下では、親の子どもとの関わりや、地域との関わりについて述べる。

6.2.1 子どもと親との関わり・・・問12A～E、問13、問14

まず、「あなたとあて名のお子さんの関係について、最も近いものをそれぞれ1つ選んで

ください。なお、お子さんが中高生の場合は、A、Bは乳幼児期・小学校のときのことでお答えください」として聞いた結果について述べる。表 6.2.1.1 に「A お子さんに絵本の読み聞かせをする」、表 6.2.1.2 に「B お子さんと図書館に行く」、表 6.2.1.3 に「C お子さんと会話をする」、表 6.2.1.4 に「D お子さんと読んだ本の感想を話しあう」、表 6.2.1.5 に「E お子さんと一緒に時間を過ごす」の結果を示す。

また、表 6.2.1.5 に「あなたとあて名のお子さんの関係について、最も近いものを1つ選んでください」として聞いた問いのうち「F お子さんの将来の夢を知っている」、表 6.2.1.6 に「G お子さんを信頼している」について聞いた結果を示す。

表 6.2.1.1 の「A お子さんに絵本の読み聞かせをする」について、「しない・しなかった」という割合は全体で 2.5%あった。

表 6.2.1.2 の「B お子さんと図書館に行く」について、「しない・しなかった」という割合は、全体で 21.3%、小学生保護者で 16.5%、中高校生保護者で 11.9%であり、公共サービスにアクセスできていない家庭が一定程度あることが見て取れる。公共サービスにアクセスできない理由は、もともと利用しようとしていない保護者・家庭側の要因と、距離が遠い、不便であるなどの公共サービス側の要因がそれぞれあり、こういった要因が更なる検討が求められる。

表 6.2.1.3 の「C お子さんと会話をする」、表 6.2.1.5 の「E お子さんと一緒に時間を過ごす」、表 6.2.1.6 の「G お子さんを信頼している」について、順に全体で 0.6%、0.3%、0.8%が「しない」、あるいは「信頼していない」と回答していた。

表 6.2.1.4 の「D お子さんと読んだ本の感想を話しあう」、表 6.2.1.6 の「F お子さんの将来の夢を知っている」については、表の通りであった。

表 6.2.1.1 「A お子さんに絵本の読み聞かせをする」の経験

	合計	よくする・よくした	する・した	あまりしない・あまりしなかった	しない・しなかった
全体	1191	32.1	40.6	24.9	2.5
乳幼児保護者	407	38.6	40.0	19.2	2.2
小学生保護者	410	29.0	39.8	27.8	3.4
中高校生保護者	374	28.3	42.0	27.8	1.9

表 6.2.1.2 「B お子さんと図書館に行く」の経験

	合計	よくする・ よくした	する・ した	あまり しない・ あまり しなかった	しない・ しなかった
全体	1177	17.0	30.7	31.0	21.3
乳幼児保護者	402	13.7	24.4	27.1	34.8
小学生保護者	406	16.5	34.0	33.0	16.5
中高校生保護者	369	21.1	33.9	33.1	11.9

表 6.2.1.3 「C お子さんと会話をする」の経験

	合計	よくする・ よくした	する・ した	あまり しない・ あまり しなかった	しない・ しなかった
全体	1130	74.2	24.3	0.8	0.6
乳幼児保護者	396	79.3	17.9	1.3	1.5
小学生保護者	382	75.1	24.6	0.3	0.0
中高校生保護者	352	67.6	31.3	0.9	0.3

表 6.2.1.4 「D お子さんと読んだ本の感想を話しあう」の経験

	合計	よくする・ よくした	する・ した	あまり しない・ あまり しなかった	しない・ しなかった
全体	1180	13.1	37.6	36.4	13.0
乳幼児保護者	399	14.5	32.1	30.1	23.3
小学生保護者	408	13.0	40.2	40.2	6.6
中高校生保護者	373	11.5	40.8	38.9	8.8

表 6.2.1.5 「E お子さんと一緒に時間を過ごす」の経験

	合計	よくする・ よくした	する・ した	あまり しない・ あまり しなかった	しない・ しなかった
全体	1174	64.6	32.4	2.8	0.3
乳幼児保護者	405	74.1	23.2	2.5	0.2
小学生保護者	402	59.7	37.3	2.7	0.2
中高校生保護者	367	59.4	37.1	3.3	0.3

表 6.2.1.6 「F お子さんの将来の夢を知っている」について

	合計	よく 知っている	知っている	あまり 知らない	知らない
全体	1178	26.1	40.2	14.1	19.7
乳幼児保護者	392	18.1	23.0	8.4	50.5
小学生保護者	411	29.9	50.4	15.8	3.9
中高校生保護者	375	30.1	46.9	18.1	4.8

表 6.2.1.7 「G お子さんを信頼している」について

	合計	とても 信頼している	信頼している	あまり 信頼して いない	信頼して いない
全体	1190	51.8	45.0	2.4	0.8
乳幼児保護者	404	57.9	37.9	2.7	1.5
小学生保護者	411	52.8	45.7	1.5	0.0
中高校生保護者	375	44.3	52.0	2.9	0.8

6.2.2 地域・他者と親との関わり・・・問5 5A～E

ここでは、「次のことについて、あなたにどれくらいあてはまりますか。最も近いものをそれぞれ1つ選んでください」として聞いた問いの結果について述べる。表 6.2.2.1 に「A 地域の行事に参加すること」の結果を、表 6.2.2.2 に「B お子さんが通う保育所、幼稚園や学校の行事に参加すること」の結果を、表 6.2.2.3 に「C 子育てなどについての悩みを親戚に相談したり頼ったりすること」の結果を、表 6.2.2.4 に「D 子育てなどについての悩みを友人・知人に相談したり頼ったりすること」の結果を、表 6.2.2.5 に「E 同居している家族との間で、子育てなどについて話をする事」の結果を示す。

表 6.2.2.1 の通り、地域行事への参加については、「よくある」と「たまにある」を足した割合が全体で 76.2%であり、「まったくない」の割合が全体で 5.6%であった。

表 6.2.2.2 の通り、保育園、幼稚園や学校の行事への参加については、「よくある」と「たまにある」を足した割合が全体で 90.9%であり、「まったくない」の割合が全体で 5.1%であった。特に小学生保護者については「まったくない」が 0%であり、何らかの形で学校の行事等に参加していた。

表 6.2.2.3 の通り、子育ての悩みを親戚に相談したりすることについては、「よくある」と「たまにある」を足した割合が全体で 50.3%であり、半数程度であった。「まったくない」の割合が全体で 17.0%であり、この割合は乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順に高くなる傾向にあった。また、表 6.2.2.4 の通り、友人や知人に相談したりすることについては、「よくある」と「たまにある」を足した割合が全体で 72.1%であり、親戚に相談したり頼ったりするより、割合は高かった。なお、「まったくない」の割合が全体で 6.0%であり、親戚に相談しない割合よりも低かった。

表 6.2.2.5 の通り、同居している家族との間で子育てについて話すことについては、「よくある」と「たまにある」を足した割合が全体で 88.1%であり、この割合は乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順に低くなる傾向にあった。「まったくない」の割合が全体で 3.8%であった。乳幼児保護者でも「まったくない」の割合が 1.9%あった。

表 6.2.2.1 「A 地域の行事に参加すること」の頻度

	合計	よくある	たまにある	あまりない	まったくない
全体	1124	28.4	47.8	18.2	5.6
乳幼児保護者	370	 21.9	 49.2	 19.7	 9.2
小学生保護者	388	 34.8	 47.9	 13.1	 4.1
中高校生保護者	366	 28.1	 46.2	 22.1	 3.6

表 6.2.2.2 「B お子さんが通う保育所、幼稚園や学校の行事に参加すること」の頻度

	合計	よくある	たまにある	あまりない	まったくない
全体	1100	64.1	26.8	4.0	5.1
乳幼児保護者	354	 63.3	 18.1	 4.5	 14.1
小学生保護者	383	 68.1	 29.0	 2.9	 0.0
中高校生保護者	363	 60.6	 33.1	 4.7	 1.7

表 6.2.2.3 「C 子育てなどについての悩みを
親戚に相談したり頼ったりすること」の頻度

	合計	よくある	たまにある	あまりない	まったくない
全体	1122	18.0	32.3	32.7	17.0
乳幼児保護者	369	 31.2	 33.1	 22.8	 13.0
小学生保護者	388	 13.7	 33.5	 36.1	 16.8
中高校生保護者	365	 9.3	 30.1	 39.2	 21.4

表 6.2.2.4 「D 子育てなどについての悩みを
友人・知人に相談したり頼ったりすること」の頻度

	合計	よくある	たまにある	あまりない	まったくない
全体	1123	27.0	45.1	22.0	6.0
乳幼児保護者	370	 33.2	 39.5	 20.8	 6.5
小学生保護者	388	 23.7	 49.5	 21.9	 4.9
中高校生保護者	365	 24.1	 46.0	 23.3	 6.6

表 6.2.2.5 「E 同居している家族との間で、
子育てなどについて話をすること」の頻度

	合計	よくある	たまにある	あまりない	まったくない
全体	1120	60.3	27.8	8.2	3.8
乳幼児保護者	369	71.0	23.0	4.1	1.9
小学生保護者	385	60.5	29.6	6.0	3.9
中高校生保護者	366	49.2	30.6	14.8	5.5

6.3 親の教育期待

以下では、親の子どもへの教育期待として、進路と、就職希望地について述べる。

6.3.1 子どもへの教育期待・・・問9 5A～E

ここでは、「あなたのご家庭では、あて名のお子さんにどの段階までの教育を受けさせたいですか。A～Eについて、あてはまるものをそれぞれ1つ選んでください」として聞いた結果について述べる。表 6.3.1.1 に「A 高等学校」、表 6.3.1.2 に「B 各種専門学校」、表 6.3.1.3 に「C 高等専門学校・短期大学」、表 6.3.1.4 に「D 大学」、表 6.3.1.5 に「E 大学院」として聞いた結果を示す。

表 6.3.1.1 の通り、高等学校を「受けさせたい」という割合は、99%を超えていた。

表 6.3.1.2 の各種専門学校、表 6.3.1.3 の高等専門学校・短期大学、表 6.3.1.4 の大学を含めると、高等教育機関での教育を受けさせたいと考えている保護者は、全体で 8 割を超えるが、「経済的に受けさせられない」という割合も、それぞれ 10%前後あった。「大学」については、この割合は全体で 18.0%であった。

一連の表は、全体的に乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順に「受けさせたい」の割合が減り、「経済的に受けさせられない」の割合が増える傾向にある。

表 6.3.1.1 子どもへの教育期待「A 高等学校」

	合計	受けさせたい	経済的には可能だが必要と 思わない	経済的に受けさせられない
全体	1009	99.2	0.6	0.2
乳幼児保護者	339	99.1	0.6	0.3
小学生保護者	357	99.7	0.3	0.0
中高校生保護者	313	98.7	1.0	0.3

表 6.3.1.2 子どもへの教育期待「B 各種専門学校」

	合計	受けさせたい	経済的には可能だが必要と思わない	経済的に受けさせられない
全体	889	68.6	22.2	9.2
乳幼児保護者	305	73.4	18.4	8.2
小学生保護者	315	71.4	20.0	8.6
中高校生保護者	269	59.9	29.0	11.2

表 6.3.1.3 子どもへの教育期待「C 高等専門学校・短期大学」

	合計	受けさせたい	経済的には可能だが必要と思わない	経済的に受けさせられない
全体	878	65.6	23.9	10.5
乳幼児保護者	297	72.7	18.9	8.4
小学生保護者	312	67.0	21.5	11.5
中高校生保護者	269	56.1	32.3	11.5

表 6.3.1.4 子どもへの教育期待「D 大学」

	合計	受けさせたい	経済的には可能だが必要と思わない	経済的に受けさせられない
全体	986	74.0	8.0	18.0
乳幼児保護者	327	79.8	5.5	14.7
小学生保護者	343	72.9	7.9	19.2
中高校生保護者	316	69.3	10.8	19.9

表 6.3.1.5 子どもへの教育期待「E 大学院」

	合計	受けさせたい	経済的には可能だが必要と思わない	経済的に受けさせられない
全体	865	24.2	30.6	45.2
乳幼児保護者	290	34.1	24.1	41.7
小学生保護者	307	21.2	33.9	45.0
中高校生保護者	268	16.8	34.0	49.3

6.3.2 子どもに希望する就職地・・・問 9 6

ここでは、「あて名のお子さんには、あなたの希望として将来どこで就職して欲しいと考えていますか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた結果について示す。

表 6.3.2 の通り、「高山市内」と答えた保護者は、全体で 20.3%だが、乳幼児保護者、小学生保護者、中高生保護者と子どもの学齢が上がるにつれて、その割合は増える。一方で「特

に希望がない」という保護者は全体で 64.6%、特に乳幼児保護者でその割合は高い。

表 6.3.2 子どもの就職地の希望

	合計	高山市内	高山市外で 飛騨地域内 (下呂、 飛騨、 白川)	飛騨地域 外で 岐阜県内	岐阜県外	国外	特に希望は ない
全体	1042	20.3	0.5	1.4	11.4	1.7	64.6
乳幼児保護者	342	15.5	0.3	1.5	9.4	1.2	72.2
小学生保護者	363	19.0	0.3	1.4	11.3	2.2	65.8
中高校生保護者	337	26.7	0.9	1.5	13.6	1.8	55.5

6.4 子育てに関する情報入手と悩み

以下では、子育てに関する情報入手の手段や、子育てに関する悩みについて述べる。

6.4.1 子育てに関する情報の入手元・・・問 1 7

ここでは、「子育て（教育を含む）に関する情報をどのように入手していますか。あてはまるものすべてを選んでください（複数回答可）」として聞いた結果について示す。

表 6.4.1 の通り、「配偶者・パートナー」、「親族（親、兄弟姉妹など）」、「近隣や地域の知人、友人、職場の人」、「保育園や幼稚園、学校」、「インターネットやメール配信サービス、SNS、アプリ」が全体で 40%を超え、割合が高かった。

乳幼児保護者は、小学生保護者、中高校生保護者と比べて全体的に割合が高く、多様な情報源で子育てを行っている実態がある。また、「子育て支援団体（NPO 等）」や、「市役所や市の機関」など、組織的な支援を行っている団体へのアクセスも、乳幼児保護者では多い。

「情報の入手先がない」、「情報の入手方法がわからない」という保護者は、乳幼児保護者で 1.7%（7 人）、小学生保護者で 2.5%（10 人）、中高生保護者で 3.2%（12 人）であった。

6.4.2 子育てに関して相談できる場・・・問 5 4

ここでは、「あて名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人や相談できる場所がありますか。あてはまる人や場所をすべて選んでください（複数回答可）」として聞いた結果について示す。

表 6.4.2 の通り、配偶者・パートナー、親族、地域の知人、友人の割合は、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者のどの保護者も 40%を超えている。乳幼児保護者については、表 6.4.1 と同様、様々な場での相談をしている実態がある。

「相談できる人や相談できる場所がない」という回答は、全体で 2.7%あり、乳幼児保護者で 3.0%（11 人）、小学生保護者で 1.0%（4 人）、中高生保護者で 4.1%（15 人）であった。

表 6.4.1 子育てに関する情報の入手元

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	1196	410	410	376
配偶者・パートナー	49.9	52.2	53.9	43.1
親族（親、兄弟姉妹など）	43.1	52.9	44.9	30.6
近隣や地域の知人、友人、職場の人	67.5	62.9	70.7	68.9
子育て支援団体（NPO等）	9.7	15.6	8.3	4.8
保育園や幼稚園、学校	59.7	66.3	61.7	50.3
市役所や市の機関 （保健センターなど）	19.6	27.8	15.9	14.9
市の広報誌やパンフレット	26.6	26.1	29.5	23.9
テレビ、ラジオ、新聞	21.7	17.8	22.7	24.7
インターネットや メール配信サービス、SNS、アプリ	61.4	72.0	61.2	50.0
子育て雑誌、育児書	11.5	19.8	7.6	6.6
コミュニティ誌、フリーペーパー	10.1	9.8	11.5	9.0
情報の入手先がない	0.9	1.0	1.0	0.8
情報の入手方法が分からない	1.5	0.7	1.5	2.4
その他	1.2	2.4	0.0	1.1

表 6.4.2 子育てのことで気軽に相談できる人や相談できる場

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者	中高校生保護者
合計	1125	372	387	366
配偶者・パートナー	80.1	88.4	82.2	69.4
その他の親族（親、兄弟姉妹など）	67.7	77.4	69.0	56.6
近所や地域の知人、友人	47.2	43.3	48.6	49.7
職場の人	35.6	32.3	37.5	37.2
保育園、幼稚園、学校の保護者仲間	33.4	33.3	37.2	29.5
子育て支援団体（NPO等）の スタッフ	3.2	4.8	2.3	2.5
保育士、幼稚園や学校の先生	31.3	38.7	34.4	20.5
医師、看護師・助産師	6.7	10.5	5.9	3.6
子育て支援センター、 児童センター・児童館、 つどいの広場のスタッフ	8.2	16.9	4.9	2.7
子ども発達支援センター・ 家庭児童相談の相談員	2.9	4.0	2.8	1.9
民生児童委員、主任児童委員	0.3	0.3	0.3	0.3
保健センターの保健師・栄養士	4.2	10.2	1.0	1.4
民間の電話相談	0.5	0.8	0.3	0.5
インターネットやSNSによる相談	4.1	6.2	3.4	2.7
相談できる人や相談できる場所はない	2.7	3.0	1.0	4.1
その他	1.2	0.8	1.8	0.8

6.4.3 子育てについての悩み・・・問58

ここでは、「子育て（教育を含む）に関して、日頃から悩んでいること、または気になることはどのようなことですか。あてはまるものすべてを選んでください（複数回答可）」として聞いた結果について示す。

表 6.4.3.1 に「子ども」のことについての悩みや気になること、表 6.4.3.2 に「保護者自身」のことについての悩みや気になること、表 6.4.3.3 に「子育て環境」のことについての悩みや気になることについて示す。

表 6.4.3.1 に示す通り、「子ども」のことについての悩みや気になることは、乳幼児保護者では、「病気や発育、発達に関すること」、「食事や栄養に関すること」がともに 60%を超える。小学生保護者では、「教育に関すること」、「将来（進路）に関すること」の割合がともに高く、56.6%である。中高校生保護者では、「将来（進路）に関すること」が 77.8%で最も高い。

表 6.4.3.2 に示す通り、「保護者自身」のことについての悩みや気になることは、特に乳幼児保護者では全体的に高い傾向にある一方、どの保護者層においても「子育てや教育の出費がかさむこと」が最も高い割合であった。

表 6.4.3.3 に示す通り、「子育て環境」についての悩みや気になることは、全体的に割合は少ないが、それぞれの設問で一定の回答があった。

なお、表中には示していないが、当該設問で「悩みや気になることは特にない」と答えたのは、全体で 4.0%（44 人）、乳幼児保護者で 2.5%（9 人）、小学生保護者で 5.3%（20 人）、中高校生保護者で 4.2%（15 人）であった。

また、「その他」に記載された意見の抜粋は、表 6.4.3.4 に示す。

表 6.4.3.1 「子ども」のことについての悩みや気になること

	全体	乳幼児 保護者	小学生 保護者	中高校生 保護者
合計	1102	366	376	360
【子ども】 病気や発育、発達に関すること	44.0	60.9	41.2	29.7
【子ども】 食事や栄養に関すること	39.0	60.9	33.0	23.1
【子ども】 教育に関すること	51.4	48.9	56.6	48.3
【子ども】 将来（進路）に関すること	56.3	34.7	56.6	77.8
【子ども】 不登校や行きしぶりなどがあること	11.5	7.9	12.5	14.2

表 6.4.3.2 「保護者自身」のことについての悩みや気になること

	全体	乳幼児 保護者	小学生 保護者	中高校生 保護者
合計	1102	366	376	360
【保護者自身】 育児の方法がよく分からないこと	10.2	17.8	9.3	3.3
【保護者自身】 お子さんとの接し方に自信が持てないこと	16.9	24.6	17.0	8.9
【保護者自身】 お子さんとの時間を十分にとれないこと	22.7	26.2	26.9	14.7
【保護者自身】 仕事や自分のやりたいことが十分できないこと	24.7	36.3	21.5	16.1
【保護者自身】 子育てによる心身の疲れが大きいこと	17.6	29.5	14.1	9.2
【保護者自身】 子育てや教育の出費がかさむこと	45.0	42.3	44.4	48.3
【保護者自身】 子どもを叱りすぎているような気がする	24.2	28.7	31.4	12.2
【保護者自身】 お子さんに手をあげたり、 世話をしなかったりしてしまうこと	4.0	6.0	4.8	1.1
【保護者自身】 地域の子育て支援サービスの内容や 利用・申込方法がよく分からないこと	4.5	6.6	4.3	2.8

表 6.4.3.3 「子育ての環境」のことについての悩みや気になること

	全体	乳幼児 保護者	小学生 保護者	中高校生 保護者
合計	1102	366	376	360
【子育ての環境】 話し相手や相談相手がいないこと	4.8	7.1	3.5	3.9
【子育ての環境】 子育てを手伝ってくれる人がいないこと	5.7	7.1	6.1	3.9
【子育ての環境】 配偶者・パートナーと 子育てに関して意見が合わないこと	12.3	13.4	10.6	12.8
【子育ての環境】 自分の子育てについて、 親族・近隣の人・職場など周りの見目が気になること	6.0	6.6	7.4	3.9
【子育ての環境】 配偶者や家族との関係が悩んでいること	11.3	12.0	9.8	12.2

表 6.4.3.4 子育てに関する悩み「その他：自由記述」の抜粋

【主に子どものこと】 ・ 子供の友達関係 ・ 反抗期の子どもとの関わり方 (子どもの) ゲームや YouTube との関わり方 【主に保護者自身・子育て環境のこと】 ・ 配偶者の仕事が忙しく、平日の帰宅が遅いのに加えて土日どちらかは仕事がある。また時短や定時退社の制度利用、調整が職場側が不十分と感じる。それにより保育園の送り迎え、家事育児、時短勤務が自分に偏っており心身の疲弊や不満を抱えている
--

- ・子育てと介護の板挟みで、経済的にも、精神的にも、常に張り詰めている。介護者の入所が申込みから何年か経過しているが、見込みがなく、連絡もなく、子育てに係る費用に、介護費用が嵩んで、圧迫されている
- ・子育てと介護が重なっているため負担が大きい
- ・下の子の面倒を見てもうこと。いわゆるヤングケアラー
- ・子育て機関を利用しても知り合いだったり、逆に担当者がコロコロ変わってしまう
- ・ひとり親さんとか多子世帯とか細かく分類分けをして気軽に話せる環境づくりをしてほしい
- ・子育てをしていると、働くことができず狭いコミュニティになってしまうことが辛い
- ・発達グレーゾーンで親身なって話を聞いてくれる機関がない。何度相談しても様子見まじょう、といわれている。
- ・将来の教育費の目安がわからないのが不安
- ・子どもの教育費
- ・母子家庭なので、子供がやりたい習い事などを、金銭的、送迎等が出来ない為に我慢させているのが悩み

6.5 子育てとメンタルヘルス

6.5.1 メンタルヘルスと子育て実態・・・問5 6A～H

ここでは、「次のことについて、あなたにどれくらいあてはまりますか。最も近いものをそれぞれ1つ選んでください」として聞いた結果について示す。一連の質問は、メンタルヘルスと子育ての関係について聞いたものである。

表 6.5.1.1 に「A ついついお子さんにあたってしまった」について、表 6.5.1.2 に「B ついついお子さんを叩いてしまった」について、表 6.5.1.3 に「C しつけのため、よく厳しく叱った」について、表 6.5.1.4 に「D お子さんがわずらわしくてイライラした」について、表 6.5.1.5 に「E 育児から解放されたいと思った」について、表 6.5.1.6 に「F お子さんを育てるために我慢している」について、表 6.5.1.7 に「G 自分一人で育てているという圧迫感がある」について、表 6.5.1.8 に「H お子さんの育児にはあまり関心がない」について示す。

表 6.5.1.1 の「A ついついお子さんにあたってしまった」について、「あてはまる」と「どちらかというとあてはまる」を足した値は全体で 61.4%であった。特に「あてはまる」の割合は、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の中では、小学生保護者の割合が若干高く、28.1%であった。

表 6.5.1.2 の「B ついついお子さんを叩いてしまった」について、「あてはまる」と「どちらかというとあてはまる」を足した値は全体で 21.5%であった。特に「あてはまる」の割合は、乳幼児保護者で若干高く 7.1%であった。

表 6.5.1.3 の「C しつけのため、よく厳しく叱った」について、「あてはまる」と「どちらか」とあてはまる」を足した値は全体で 46.4%であった。特に「あてはまる」の割合は、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の中では、小学生保護者の割合が若干高く、15.4%であった。

表 6.5.1.4 の「D お子さんがわずらわしくてイライラした」について、「あてはまる」と「どちらか」とあてはまる」を足した値は全体で 39.7%であった。乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順にこの割合は低くなっている。乳幼児保護者で若干、「あてはまる」の割合が高くなる傾向がみられた。

表 6.5.1.5 の「E 育児から解放されたいと思った」について、「あてはまる」と「どちらか」とあてはまる」を足した値は全体で 33.4%であった。特に「あてはまる」の割合は、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の中では、乳幼児保護者の割合が若干高く、14.5%であった。

表 6.5.1.6 の「F お子さんを育てるために我慢している」について、「あてはまる」と「どちらか」とあてはまる」を足した値は全体で 45.8%であった。

表 6.5.1.7 の「G 自分一人で育てているという圧迫感がある」について、「あてはまる」と「どちらか」とあてはまる」を足した値は全体で 25.5%であった。

表 6.5.1.8 の「H お子さんの育児にはあまり関心がない」について「あてはまる」と「どちらか」とあてはまる」を足した値は全体で 1.4%であった。

表 6.5.1.1 「A ついついお子さんにあたってしまった」について

	合計	あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない
全体	1116	24.8	36.6	25.9	12.6
乳幼児保護者	367	24.0	34.3	22.9	18.8
小学生保護者	384	28.1	41.4	22.4	8.1
中高校生保護者	365	22.2	34.0	32.6	11.2

表 6.5.1.2 「B ついついお子さんを叩いてしまった」について

	合計	あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない
全体	1113	5.9	15.6	22.9	55.5
乳幼児保護者	366	7.1	12.8	23.8	56.3
小学生保護者	383	5.2	18.8	23.0	53.0
中高校生保護者	364	5.5	15.1	22.0	57.4

表 6.5.1.3 「C しつけのため、よく厳しく叱った」について

	合計	あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない
全体	1115	13.3	33.1	29.8	23.9
乳幼児保護者	366	11.5	31.1	27.3	30.1
小学生保護者	384	15.4	38.0	27.3	19.3
中高校生保護者	365	12.9	29.9	34.8	22.5

表 6.5.1.4 「D お子さんがわずらわしくてイライラした」について

	合計	あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない
全体	1113	10.9	28.8	29.1	31.3
乳幼児保護者	366	12.3	34.4	26.2	27.0
小学生保護者	383	11.7	27.4	29.8	31.1
中高校生保護者	364	8.5	24.5	31.3	35.7

表 6.5.1.5 「E 育児から解放されたいと思った」について

	合計	あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない
全体	1114	11.5	21.9	30.3	36.3
乳幼児保護者	366	14.5	25.1	28.4	32.0
小学生保護者	384	9.9	21.1	32.0	37.0
中高校生保護者	364	10.2	19.5	30.5	39.8

表 6.5.1.6 「F お子さんを育てるために我慢している」について

	合計	あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない
全体	1118	14.0	31.8	28.1	26.1
乳幼児保護者	368	15.8	37.0	27.7	19.6
小学生保護者	385	11.2	31.7	28.3	28.8
中高校生保護者	365	15.1	26.8	28.2	29.9

表 6.5.1.7 「G 自分一人で育てているという圧迫感がある」について

	合計	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	あてはまらない
全体	1115	7.4	18.1	30.2	44.3
乳幼児保護者	368	5.7	17.9	33.7	42.7
小学生保護者	383	7.0	16.7	26.1	50.1
中高生保護者	364	9.3	19.8	31.0	39.8

表 6.5.1.8 「H お子さんの育児にはあまり関心がない」について

	合計	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	あてはまらない
全体	1115	0.4	1.0	12.7	85.8
乳幼児保護者	367	0.5	0.5	9.8	89.1
小学生保護者	383	0.3	1.0	13.6	85.1
中高生保護者	365	0.5	1.4	14.8	83.3

6.5.2 メンタルヘルスの状況・・・問 5 7A～G

ここでは、「次のことについて、あなたにどれくらいあてはまりますか。最も近いものをそれぞれ1つ選んでください」として聞いた結果について示す。一連の質問は、特に回答者のメンタルヘルスについて聞いたものである。

表 6.5.2.1 に「A 理由もなく疲れ切ったように感じた」について、表 6.5.2.2 に「B 落ち着けないくらいに神経過敏に感じた」について、表 6.5.2.3 に「C 絶望的だと感じた」について、表 6.5.2.4 に「D 座ってられないほど落ち着かなく感じた」について、表 6.5.2.5 に「E 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた」について、表 6.5.2.6 に「F 何をするのにも骨折りだと感じた」について、表 6.5.2.7 に「G 自分は価値のない人間だと感じた」について示す。

表 6.5.2.1 の「A 理由もなく疲れ切ったように感じた」について、「いつも」と「たいてい」を足した割合は、全体で 13.7%であった。

表 6.5.2.2 の「B 落ち着けないくらいに神経過敏に感じた」について、「いつも」と「たいてい」を足した割合は、全体で 4.5%であった。

表 6.5.2.3 の「C 絶望的だと感じた」について、「いつも」と「たいてい」を足した割合は、全体で 3.5%であった。

表 6.5.2.4 の「D 座ってられないほど落ち着かなく感じた」について、「いつも」と「たいてい」を足した割合は、全体で 1.8%であった。

表 6.5.2.5 の「E 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた」について、「いつも」と「たいてい」を足した割合は、全体で 4.6%であった。

表 6.5.2.6 の「F 何をするのにも骨折りだと感じた」について、「いつも」と「たいてい」を足した割合は、全体で 5.3%であった。

表 6.5.2.7 の「G 自分は価値のない人間だと感じた」について、「いつも」と「たいてい」を足した割合は、全体で 6.1%であった。

それぞれの設問から、メンタルヘルスとして追い込まれている傾向のある保護者が、どの年齢の子どもを抱える保護者層においてもいることがわかる。

表 6.5.2.1 「A 理由もなく疲れ切ったように感じた」について

	合計	いつも	たいてい	時々	少しだけ	全くない
全体	1110	5.3	8.4	26.6	35.3	24.4
乳幼児保護者	367	4.6	8.7	29.2	35.1	22.3
小学生保護者	381	6.0	9.4	23.6	36.0	24.9
中高校生保護者	362	5.2	6.9	27.1	34.8	26.0

表 6.5.2.2 「B 落ち着けなくらいに神経過敏に感じた」について

	合計	いつも	たいてい	時々	少しだけ	全くない
全体	1109	1.5	3.0	14.9	22.4	58.3
乳幼児保護者	366	1.1	3.0	16.9	20.5	58.5
小学生保護者	381	1.0	3.7	13.6	24.4	57.2
中高校生保護者	362	2.5	2.2	14.1	22.1	59.1

表 6.5.2.3 「C 絶望的だと感じた」について

	合計	いつも	たいてい	時々	少しだけ	全くない
全体	1106	1.2	2.3	9.1	18.4	69.1
乳幼児保護者	365	0.5	1.6	9.6	21.1	67.1
小学生保護者	381	1.0	2.1	8.7	17.8	70.3
中高校生保護者	360	1.9	3.1	9.2	16.1	69.7

表 6.5.2.4 「D 座ってられないほど落ち着かなく感じた」について

	合計	いつも	たいてい	時々	少しだけ	全くない
全体	1109	0.7	1.1	4.7	11.2	82.3
乳幼児保護者	367	0.5	1.1	4.4	13.1	80.9
小学生保護者	380	0.8	1.3	5.0	8.7	84.2
中高校生保護者	362	0.8	0.8	4.7	11.9	81.8

表 6.5.2.5 「E 気分が沈み込んで、
何が起こっても気が晴れないように感じた」について

	合計	いつも	たいてい	時々	少しだけ	全くない
全体	1109	1.2	3.4	12.7	28.9	53.8
乳幼児保護者	367	0.8	3.3	13.9	26.4	55.6
小学生保護者	380	1.1	3.4	12.4	30.5	52.6
中高校生保護者	362	1.7	3.6	11.9	29.6	53.3

表 6.5.2.6 「F 何をするのにも骨折りだと感じた」について

	合計	いつも	たいてい	時々	少しだけ	全くない
全体	1108	1.4	3.9	8.5	25.6	60.6
乳幼児保護者	366	1.4	3.6	7.4	25.1	62.6
小学生保護者	380	1.6	4.5	8.7	23.4	61.8
中高校生保護者	362	1.4	3.6	9.4	28.5	57.2

表 6.5.2.7 「G 自分は価値のない人間だと感じた」について

	合計	いつも	たいてい	時々	少しだけ	全くない
全体	1108	2.5	3.6	10.2	18.9	64.8
乳幼児保護者	367	1.6	3.5	10.6	15.3	68.9
小学生保護者	379	2.4	4.5	10.6	22.2	60.4
中高校生保護者	362	3.6	2.8	9.4	19.1	65.2

6.6 小括

6 節では、子育て実態、教育期待と保護者の不安やメンタルヘルスの実態についてみてきた。

子育て実態については、朝食を食べない子どもが全体で 2.1%、就寝時間が遅い特に中高校生が一定数いることをみた。子どもと親の関わりでは、それぞれの設問で数パーセントずつ、ネガティブな回答があったが、「図書館に行く」経験についてはその割合がやや高い傾向があった。公共サービスにアクセスできない理由は、もともと利用しようとしていない保護者・家庭側の要因と、距離が遠い、不便であるなどの公共サービス側の要因がそれぞれあり、こういった要因が更なる検討が求められる。

地域・他者との関わりでは、地域行事に参加することや、園・学校の行事に高い割合で参加しており、この傾向は前回と同様であった。前回も地域の行事参加、園や学校の行事への参加で「よく参加している」、「時々参加している」を足した割合は、乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者いずれも、8 割前後であり、今回も同様である。

子育ての悩みを相談したり頼ったりすることについては、親戚よりは友人・知人へそうする割合が高い。

教育期待について、高等教育機関での教育を受けさせたいと考えている保護者は、全体で 8 割を超えるが、「経済的に受けさせられない」という割合も、それぞれ 10%前後あった。

「大学」については、この割合は全体で 18.0%であった。全体的に乳幼児保護者、小学生保護者、中高校生保護者の順に「受けさせたい」の割合が減り、「経済的に受けさせられない」の割合が増える傾向にある。子どもの学齢が上がるにつれて、家計状況と照らし合わせて進路先について「経済的に難しい」と考える割合が増えていっている可能性もある。

子育てに関する情報の入手や、実際の相談については、社会関係による方法や、インターネットを活用した方法を中心に、特に乳幼児保護者は多様な方法を活用している。一方で、情報の入手先がない、入手方法がわからない、相談できる場所や相手がいない、という保護者も一定数見られた。

子育てに関する実際の悩みは、育てている子どもの年齢によって若干の傾向の違いがみられた。乳幼児保護者では、病気や発育、発達に関する割合が高いが、年齢が上がるにつれてその割合が減り、一方子どもの将来に関して悩みを感じる保護者が増えていく。育てている子どもの年齢に寄らず、50%弱は「出費」を気にしており、経済的な事情は半数の保護者が常に抱える悩みになっている。一方、後述するメンタルヘルスとも関連するが、子育て環境で、関係や、一人で抱え込んでいる保護者も一定数いることも明らかになった。自由記述からは、介護との両立、発達障がい等の子どもへの支援などが見受けられた。

メンタルヘルスについて、子どもにあたってしまうことが「あてはまる」という保護者も一定数いるが、これは前回調査よりは 10%程度下がっている。児童福祉法の改正等により、

体罰当によらない子育てが社会により広がってきている結果と考えられる。一方で、叩いてしまったという保護者も、全体で 5.9% までおり、こういった保護者に児童福祉法の改正の趣旨等を周知していくことが必要であると同時に、子育て課題は、保護者のメンタルヘルスによる部分も大きいため、心理的な支援を充実させていくことも必要である。「育児から解放されたいと思った」に「あてはまる」保護者が、全体で 11.5%、特に乳幼児保護者で 14.5% であったこととも、心理的支援の充実は関連する。

実際に保護者（回答者）のメンタルヘルスの状況は、どの設問も数パーセントは「いつも」という選択肢を選んでおり、メンタルヘルスに関してネガティブな傾向を呈す状態にある。子育て支援に当たっては、保護者への心理的支援を考慮する必要も大きいですが、前節以前で述べたように核家族化が進んでいる傾向もあることから、こういった場合に一般論として、集団や社会関係による支援ではなく、個別支援が充実されていくことも求められる。

7 子育て実態と行政施策のニーズ

7.1 【乳幼児】幼児教育・保育事業

7.1.1 利用施設の状況

乳幼児の幼児教育・保育事業のうち、利用施設の状況として、「定期的な教育・保育の事業」の利用の有無、利用している事業について述べる。

7.1.1.1 「定期的な教育・保育の事業」の利用の有無・・・問19

ここでは、「あて名のお子さんは現在、幼稚園や保育園などの「定期的な教育・保育の事業」を利用していますか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り表と図に示す。

「定期的な教育・保育の事業」の利用状況は、「利用している」が72.3%（295人）であり、「利用していない」は27.7%（113人）であった。

表 7.1.1.1 「定期的な教育・保育の事業」の利用状況

利用の有無	n	%
利用している	295	72.3
利用していない	113	27.7
無回答	2	
非該当	1000	
全体	408	100.0

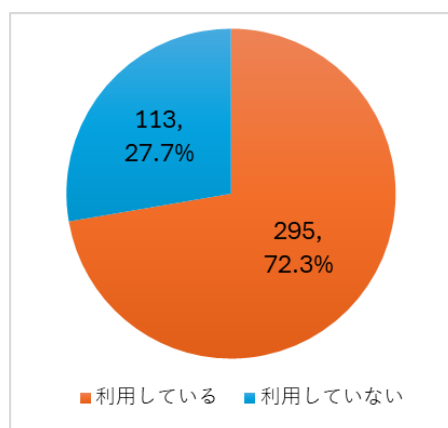


図 7.1.1.1 「定期的な教育・保育の事業」の利用状況

7.1.1.2 「定期的な教育・保育の事業」の利用している事業・・・問20

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を「利用している」と回答した295名に対して、「あて名のお子さんが年間を通じて定期的に利用している事業について、あてはまるものすべてを選んでください（複数回答可）。」として聞いた結果について述べる。以下の通り表

と図に示す。回答件数および回答者数に対する回答件数の割合を表に示す。

「認可保育所（国が定める基準に適合した施設で自治体の認可を受けたもの）」が最も多く 70.0%（205 人）、次いで、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」23.9%（70 人）、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業）」10.2%（30 人）、「事業所内保育所（企業が主に従業員用に運営する施設）」2.0%（6 人）であった。今回新たに設けた[前回調査：平成 30（2018）年]選択肢である「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能をあわせ持つ施設）」は 1.4%（4 人）、「ファミリーサポート（地域住民が会員となって子どもを預かる事業）」は 0.7%（2 人）であった。この他、「その他の認可外の保育施設」0.3%（1 人）であった。この他、「その他」の 5 人は、であった。「家庭的保育（保育者の家庭等で 5 人以下の子どもを保育する事業）」と「居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）」を利用している者はいなかった。

「その他」1.7%（5 人）は、「かんかこかん（一時預かり）」、「すくすくランド」、「子育て支援センター」、「事業所内保育の地域枠」、「どれかわからない」であった。

表 7.1.1.2 年間を通じて利用している「定期的な教育・保育の事業」の種類

利用している事業の種類	n	%
幼稚園（通常の就園時間の利用）	70	23.9
幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業）	30	10.2
認定こども園（幼稚園と保育施設の機能をあわせ持つ施設）	4	1.4
認可保育所（国が定める基準に適合した施設で自治体の認可を受けたもの）	205	70.0
事業所内保育所（企業が主に従業員用に運営する施設）	6	2.0
家庭的保育（保育者の家庭等で 5 人以下の子どもを保育する事業）	0	0.0
居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）	0	0.0
その他の認可外の保育施設	1	0.3
ファミリーサポート（地域住民が会員となって子どもを預かる事業）	2	0.7
その他	5	1.7
無回答	2	
非該当	1115	
全体	293	100.0

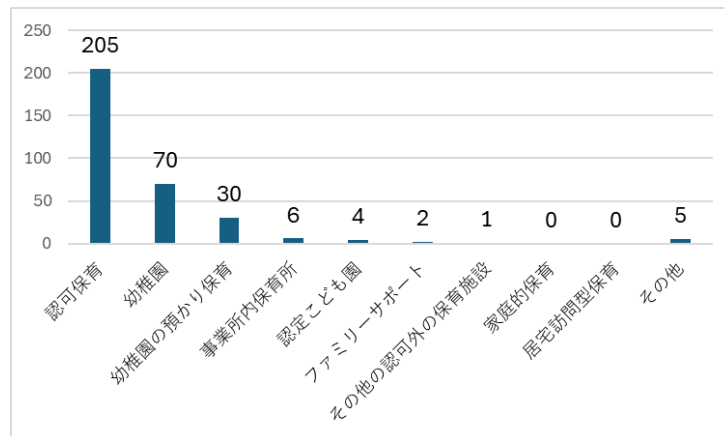


図 7.1.1.2 年間を通じて利用している「定期的な教育・保育の事業」の種類

7.1.2 平日の利用状況

乳幼児の幼児教育・保育事業のうち、平日の利用状況として現在の利用と希望について、日数、時間、開始時間と終了時間、理由、事業の種類、施設の場所を順に述べる。

7.1.2.1 利用日数（現在／希望）・・・問20

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を「利用している」と回答した 295 名に対して、「1 週当たり平日で利用する日数をプルダウンで選んでください。」として、現在利用している日数と希望の日数を聞いた結果について述べる。以下の通り表と図に示す。

利用日数は現在も希望も「5 日」が最も多く、現在 93.8%（273 人）、希望 92.4%（256 人）であった。

表 7.1.2.1 「定期的な教育・保育の事業」1 週当たりの利用日数：左）現在／右）希望

現在の利用日数	n	%	希望の利用日数	n	%
1日	3	1.0	1日	2	0.7
2日	2	0.7	2日	2	0.7
3日	2	0.7	3日	4	1.4
4日	11	3.8	4日	13	4.7
5日	273	93.8	5日	256	92.4
無回答	4		無回答	18	
非該当	1115		非該当	1115	
全体	291	100.0	全体	277	100.0

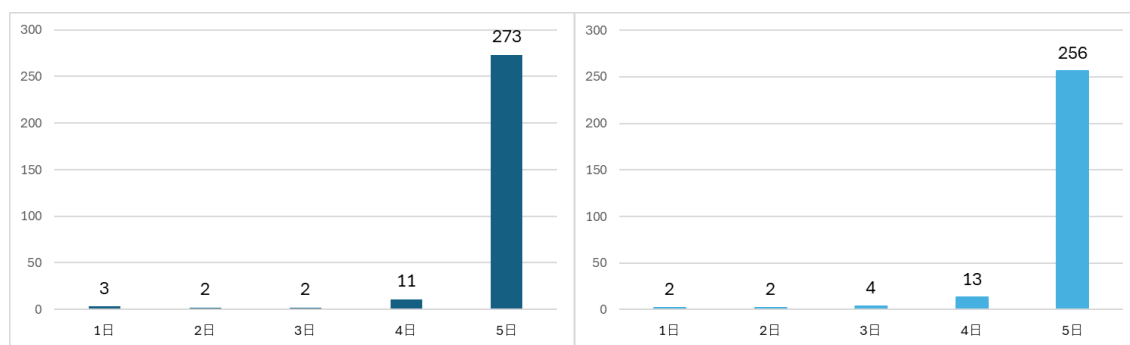


図 7.1.2.1 「定期的な教育・保育の事業」1 週当たりの利用日数：左）現在／右）希望

7.1.2.2 利用時間数（現在／希望）・・・問20

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を「利用している」と回答した 295 名に対して、「平日 1 日当たりの利用時間をプルダウンで選んでください。」として、現在利用している時間数と希望の時間数を聞いた結果について述べる。以下の通り表と図に示す。

平日の利用時間は、現在では、「7 時間」28.4%（82 人）が最も多く、次いで、「8 時

間」28.0%（81人）、「6時間」15.2%（44人）、「9時間」12.5%（36人）であった。一方、希望では、「8時間」32.1%（88人）が最も多く、次いで、「7時間」22.3%（61人）、「9時間」15.3%（42人）、「6時間」12.8%（35人）であった。現在よりも数ポイントの者が1時間程度長い利用を希望していた。

表 7.1.2.2 「定期的な教育・保育の事業」1日当たりの利用時間：左）現在／右）希望

現在の利用時間	n	%	希望の利用時間	n	%
1時間	1	0.3	1時間	1	0.4
2時間	2	0.7	2時間	1	0.4
3時間	3	1.0	3時間	1	0.4
4時間	6	2.1	4時間	1	0.4
5時間	14	4.8	5時間	9	3.3
6時間	44	15.2	6時間	35	12.8
7時間	82	28.4	7時間	61	22.3
8時間	81	28.0	8時間	88	32.1
9時間	36	12.5	9時間	42	15.3
10時間	17	5.9	10時間	31	11.3
11時間	3	1.0	11時間	2	0.7
無回答	6		12時間	2	0.7
非該当	1115		無回答	21	
全体	289	100.0	非該当	1115	
			全体	274	100.0

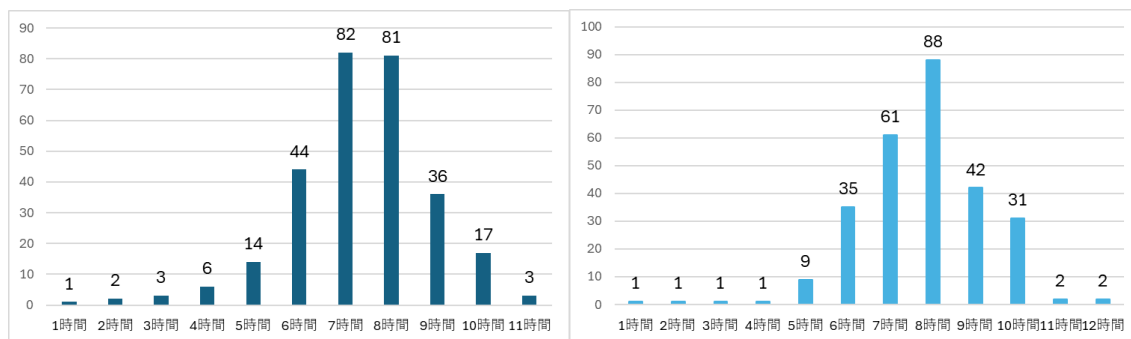


表 7.1.2.2 「定期的な教育・保育の事業」1日当たりの利用時間：左）現在／右）希望

7.1.2.3 利用開始時間（現在／希望）・・・問21、問61C、問70C

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を「利用している」と回答した295名に対し、「利用時間（何時から何時まで）開始時間をプルダウンで選んでください。」として、現在利用している開始時間と希望の開始時間を聞いた結果について述べる。以下の通り表と図に示す。

平日の利用開始時間は、現在では、「8時30分」33.0%（96人）が最も多く、次いで、「8時00分」28.5%（83人）、「9時00分」27.1%（79人）が多かった。一方、希望で

は、「8時00分」が最も多く33.5%（89人）、次いで、「8時30分」と「9時00分」が同数で25.2%（67人）であった。現在よりも数%の者が30分程度早い利用を希望していた。

表 7.1.2.3 「定期的な教育・保育の事業」の利用開始時間：左）現在／右）希望

現在の開始時間	n	%	希望の開始時間	n	%
7時00分	3	1.0	7時00分	12	4.5
7時30分	9	3.1	7時30分	20	7.5
8時00分	83	28.5	8時00分	89	33.5
8時30分	96	33.0	8時30分	67	25.2
9時00分	79	27.1	9時00分	67	25.2
9時30分	7	2.4	9時30分	2	0.8
10時00分	11	3.8	10時00分	6	2.3
10時30分	0	0.0	10時30分	0	0.0
11時00分	0	0.0	11時00分	0	0.0
11時30分	0	0.0	11時30分	0	0.0
12時00分	0	0.0	12時00分	0	0.0
12時30分	0	0.0	12時30分	0	0.0
13時00分	1	0.3	13時00分	1	0.4
13時30分	0	0.0	13時30分	0	0.0
14時00分	0	0.0	14時00分	0	0.0
14時30分	1	0.3	14時30分	1	0.4
15時00分	1	0.3	15時00分	1	0.4
15時30分	0	0.0	15時30分	0	0.0
無回答	4		無回答	29	
非該当	1115		非該当	1115	
全体	291	100.0	全体	266	100.0

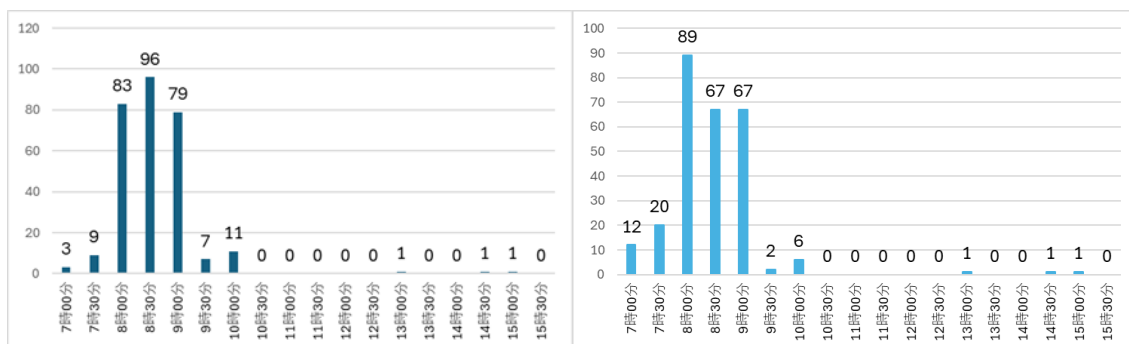


図 7.1.2.3_1 「定期的な教育・保育の事業」の利用開始時間：左）現在／右）希望

ここで、「あて名のお子さんの母親（または母親に代わる保護者の方）の現在の就労状況」について、「1～4. 就労している」を選んだ者を対象に尋ねた「あて名のお子さんの母親（または母親に代わる保護者の方）の労働日数・労働時間及び家を出る時間、帰宅時間などについて、それぞれ数字を記入してください。なお、休業中の方は休業前の実態

についてお答えください。」のうち、家を出る時間を図に示す。また、父親に対する同様の設問の回答も図に示す。

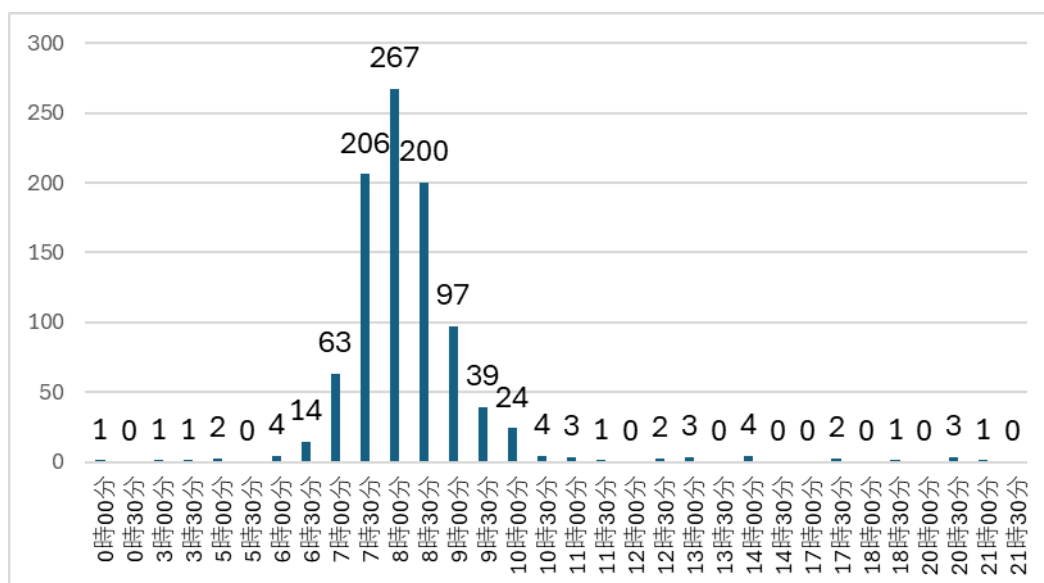


図 7.1.2.3_2 「就労している」と回答した母親の平日の家を出る時間

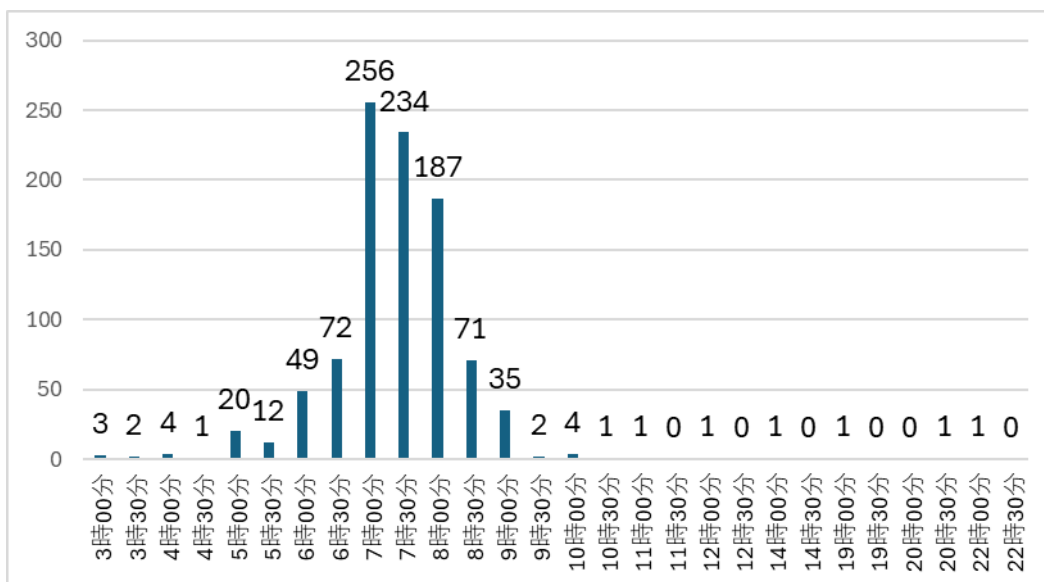


図 7.1.2.3_3 「就労している」と回答した父親の平日の家を出る時間

家を出る時間では、母親の全体 (n=943) のうち、上位 3 位は 8 時 00 分が最も多く 28.3% (267 人)、次いで「7 時 30 分」21.8% (206 人)、8 時 30 分 21.2% (200 人) の順であった。一方、父親の全体 (n=959) は、「7 時 00 分」26.7% (256 人)、「7 時 30 分」24.4% (234

人)、「8時00分」19.5% (187人) の順が多かった。

7.1.2.4 利用終了時間 (現在／希望)・・・問21、問61D、問70D

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を「利用している」と回答した295名に対して、「利用時間 (何時から何時まで) 開始時間をプルダウンで選んでください。」として、現在利用している終了時間と希望の終了時間を聞いた結果について述べる。以下の通り表と図に示す。

平日の利用終了時間は、現在では、「16時00分」27.1% (79人) が最も多く、次いで、「15時30分」20.6% (60人)、「15時00分」と「16時30分」、「17時00分」が同数で10.0% (29人) であった。一方、希望では、「16時00分」25.6% (68人) が最も多く、次いで、「17時00分」20.3% (54人)、「18時00分」11.3% (30人)、「15時00分」10.9% (29人) であった。現在よりも約1割の者が1時間程度遅い利用を希望していた。

表 7.1.2.4 「定期的な教育・保育の事業」の利用終了時間：左) 現在／右) 希望

現在の終了時間	n	%	希望の終了時間	n	%
11時00分	0	0.0	13時00分	1	0.4
11時30分	1	0.3	13時30分	0	0.0
12時00分	0	0.0	14時00分	3	1.1
12時30分	3	1.0	14時30分	4	1.5
13時00分	1	0.3	15時00分	29	10.9
13時30分	0	0.0	15時30分	26	9.8
14時00分	3	1.0	16時00分	68	25.6
14時30分	12	4.1	16時30分	22	8.3
15時00分	29	10.0	17時00分	54	20.3
15時30分	60	20.6	17時30分	20	7.5
16時00分	79	27.1	18時00分	30	11.3
16時30分	29	10.0	18時30分	2	0.8
17時00分	29	10.0	19時00分	6	2.3
17時30分	25	8.6	19時30分	1	0.4
18時00分	15	5.2	無回答	29	
18時30分	5	1.7	非該当	1115	
無回答	4		全体	266	100.0
非該当	1115				
全体	291	100.0			

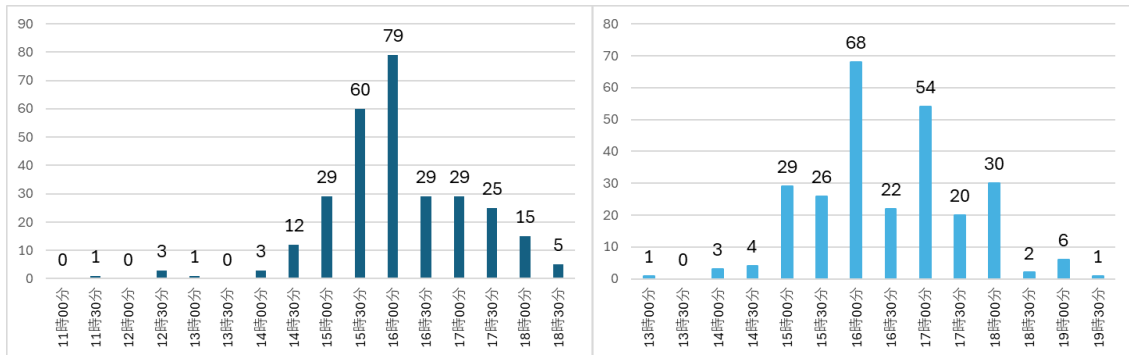


図 7.1.2.4_1 「定期的な教育・保育の事業」の利用終了時間：左) 現在／右) 希望

ここで、「あて名のお子さんの母親（または母親に代わる保護者の方）の現在の就労状況」について、「1～4. 就労している」を選んだ者を対象に尋ねた「あて名のお子さんの母親（または母親に代わる保護者の方）の労働日数・労働時間及び家を出る時間、帰宅時間などについて、それぞれ数字を記入してください。なお、休業中の方は休業前の実態についてお答えください。」のうち、帰宅時間を図に示す。また、父親に対する同様の設問の回答も図に示す。

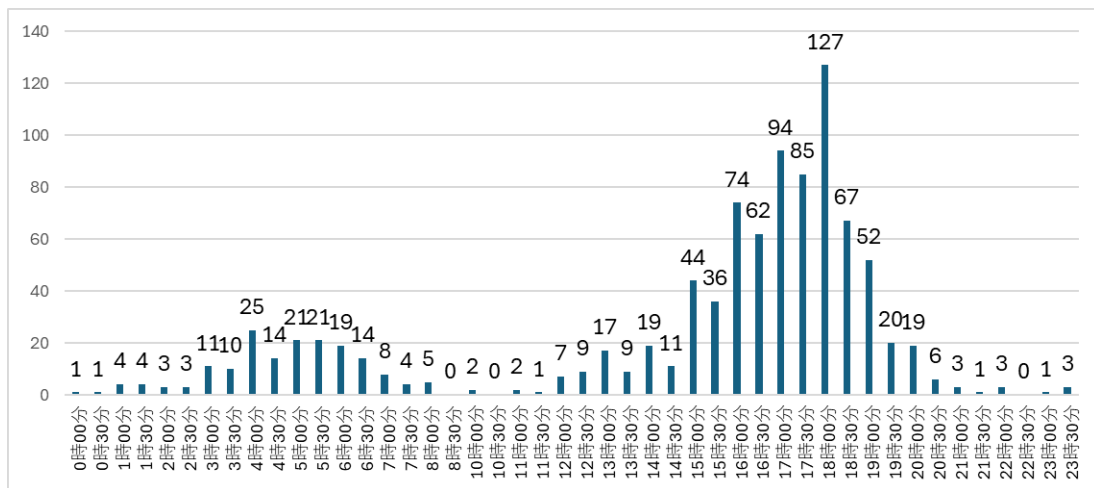


図 7.1.2.4_2 「就労している」と回答した母親の平日の帰宅時間

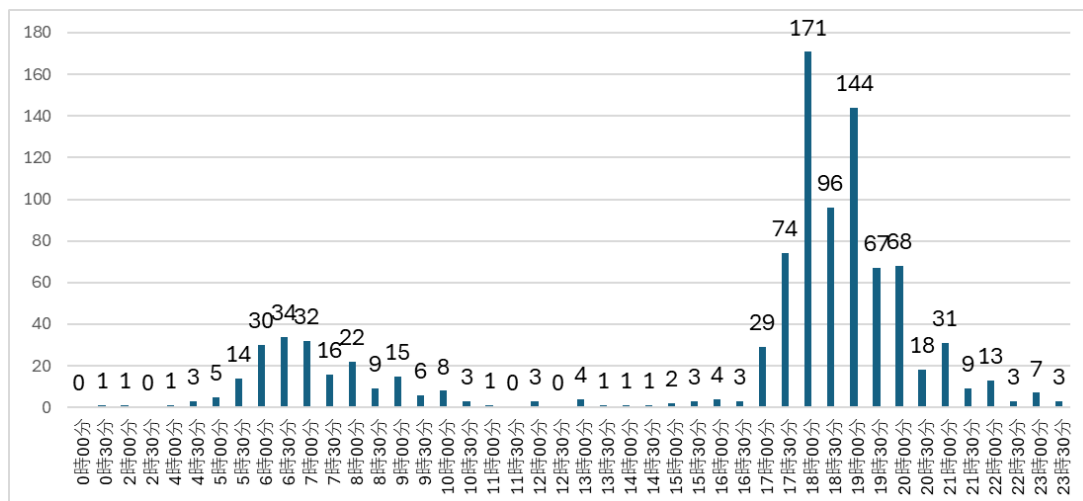


図 7.1.2.4_3 「就労している」と回答した父親の平日の帰宅時間

帰宅時間では、母親の全体 (n=942) のうち、上位 3 位は「18 時 00 分」13.5% (127 人)、「17 時 00 分」10.0% (94 人)、「17 時 30 分」9.0% (85 人) の順であった。一方、父親の全体 (n=956) は、「18 時 00 分」17.9% (171 人)、「19 時 00 分」15.1% (144 人)、「18 時 30 分」10.0% (96 人) の順で多かった。

7.1.2.5 利用施設の種類・・・問 2 2

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を「利用している」と回答した 295 名に対して、「現在、「定期的な教育・保育の事業」を利用している施設の種類について、あてはまるものを 1 つ選んでください。」として、現在利用している施設の種類を聞いた結果について述べる。以下に表を示す。

施設の種類は、全員が「高山市内」と回答していた。

表 7.1.2.5 「定期的な教育・保育の事業」の利用施設の種類

利用施設の種類	n	%
高山市内	291	100.0
高山市外	0	
無回答	4	
非該当	1115	
全体	291	100.0

7.1.2.6 利用理由・・・問 2 3、問 2 5

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を「利用している」と回答した 295 名に対して、「平日に「定期的な教育・保育の事業」を利用している理由について、あてはまるも

のすべてを選んでください（複数回答可）。」として、現在利用している理由を聞いた結果について述べる。以下の通り、表と図に示す。回答件数および回答者数に対する回答件数の割合を表に示す。

利用理由では、「子育てをしている者が現在就労している」85.8%（247人）が最も多く、次いで、「子どもの教育や発達のため」58.0%（167人）、「子育てをしている者に就労の予定がある／求職中である」4.5%（13人）、「子育てをしている者に病気や障がいがある」2.8%（8人）、「子育てをしている者が家族・親族などを介護している」1.4%（4人）の順で多かった。「子育てをしている者が就学、職業訓練中である」はいなかった。また、「その他」3.5%（10人）のうち有効回答の7件の内訳は、「育休中」3人、「予定がある」と「上の子の通院がある」、「公園がない」、「近隣に遊び相手がいない」が各1人であった。

なお、利用していない理由については設問の選択肢に不備があり、結果は出せなかった。

表 7.1.2.6 「定期的な教育・保育の事業」の利用理由（平日）

平日に「定期的な教育・保育の事業」を利用している理由	n	%
子どもの教育や発達のため	167	58.0
子育てをしている者が現在就労している	247	85.8
子育てをしている者に就労の予定がある／求職中である	13	4.5
子育てをしている者が家族・親族などを介護している	4	1.4
子育てをしている者に病気や障がいがある	8	2.8
子育てをしている者が就学、職業訓練中である	0	0.0
その他	10	3.5
無回答	7	
非該当	1115	
全体	288	100.0

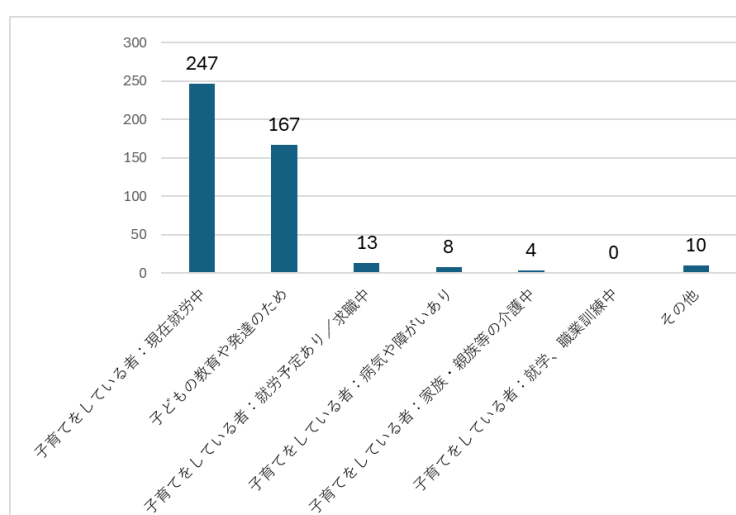


図 7.1.2.6 「定期的な教育・保育の事業」の利用理由（平日）

7.1.2.7 平日に利用したいサービスの種類・・・問 26

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を「利用していない」と回答した 113 名に対して、「平日に利用したいと考える保育園や幼稚園などの「定期的な教育・保育の事業」について、あてはまるものすべてを選んでください（複数回答可）。」として聞いた結果について述べる。以下の通り、表と図に示す。回答件数および回答者数に対する回答件数の割合を表に示す。

平日に利用したい「定期的な教育・保育の事業」の種類では、「認可保育所（国の基準に適合した施設で自治体の認可を受けたもの）」63.1%（70 人）が最も多く、次いで、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」48.6%（54 人）、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業）」34.2%（38 人）、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能をあわせ持つ施設）」31.5%（35 人）、「ファミリーサポート（地域住民が会員となって子どもを預かる事業）」21.6%（24 人）、「事業所内保育所（企業が主に従業員用に運営する施設）」16.2%（18 人）、「小規模保育施設（国の基準に適合した施設で自治体の認可を受けた定員 6～19 人のもの）」12.6%（14 人）、「家庭的保育（保育者の家庭等で 5 人以下の子どもを保育する事業）」8.1%（9 人）、「居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）」7.2%（8 人）であり、「その他の認可外の保育施設」と「利用したいと思うものはない」は同数で 1.8%（2 人）であった。「その他」（1 人）0.9%の内容は、「未だ小さいため自分や親族で十分」であった。

現在「定期的な教育・保育の事業」を利用している者の種類（表 7.1.1.2・図 7.1.1.2）と比較すると、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能をあわせ持つ施設）」と「ファミリーサポート（地域住民が会員となって子どもを預かる事業）」よりも、「事業所内保育所（企業が主に従業員用に運営する施設）」が多かった。また、「家庭的保育（保育者の家庭等で 5 人以下の子どもを保育する事業）」と「居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）」を現在利用している者はいないが、「現在利用していない」者では利用希望があった。さらに、現在利用している者では選択肢に入れなかったが、「小規模保育施設（国の基準に適合した施設で自治体の認可を受けた定員 6～19 人のもの）」と回答した者がいた。

表 7.1.2.7 平日に利用したい「定期的な教育・保育の事業」の種類

平日に利用したい事業の種類	n	%
幼稚園（通常の就園時間の利用）	54	48.6
幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業）	38	34.2
認定こども園（幼稚園と保育施設の機能をあわせ持つ施設）	35	31.5
認可保育所（国の基準に適合した施設で自治体の認可を受けたもの）	70	63.1
事業所内保育所（企業が主に従業員用に運営する施設）	18	16.2
家庭的保育（保育者の家庭等で5人以下の子どもを保育する事業）	9	8.1
居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）	8	7.2
小規模保育施設（国の基準に適合した施設で自治体の認可を受けた定員6～19人のもの）	14	12.6
その他の認可外の保育施設	2	1.8
ファミリーサポート（地域住民が会員となって子どもを預かる事業）	24	21.6
利用したいと思うものはない	2	1.8
その他	1	0.9
無回答	2	
非該当	1297	
全体	111	100.0

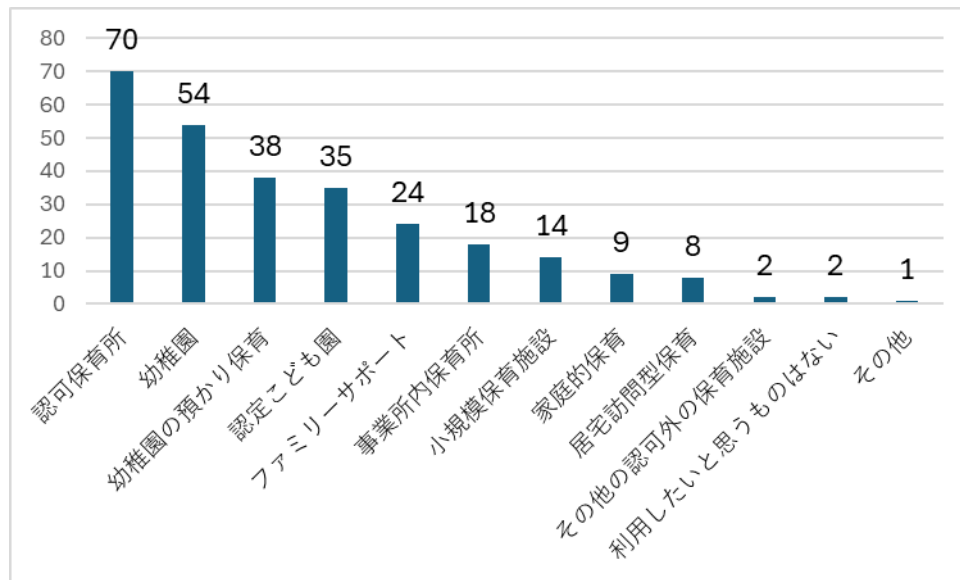


図 7.1.2.7 平日に利用したい「定期的な教育・保育の事業」の種類

7.1.2.8 平日に利用したいサービスの施設の場所・・・問 27

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を「利用していない」と回答した 113 名に対して、「平日に利用したい保育園や幼稚園などの「定期的な教育・保育の事業」の施設の場所について、あてはまるものを 1 つ選んでください。」として、利用したい事業の施設の場所を聞いた結果について述べる。以下に表を示す。

利用したい事業の施設の場所は、ほぼ全員が「高山市内」と回答していた。

表 7.1.2.8 利用したい「定期的な教育・保育の事業」の施設の場所

利用したい施設の場所	n	%
高山市内	107	99.1
高山市外	1	0.9
無回答	1	
非該当	1301	
全体	108	100.0

7.1.3 土曜日、日曜・祝日、長期休暇中の利用状況

乳幼児の幼児教育・保育事業のうち、土曜日、日曜・祝日、長期休暇中の利用状況として、現在の利用と希望、利用したい理由を順に述べる。

7.1.3.1 利用状況・・・問24

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を「利用している」と回答した 295 名に対して、「現在、「定期的な教育・保育の事業」を土曜日、日曜・祝日、長期休暇中に利用していますか。」として聞いた結果について述べる。以下の通り、表と図に示す。

土曜日、日曜・祝日、長期休暇中の利用状況では、「長期休暇中 利用している」が最も多く、72.2% (83 人)、次いで、「土曜日 利用している」40.9% (47 人)、「日曜・祝日 利用している」3.5% (4 人) であった。

表 7.1.3.1 「定期的な教育・保育の事業」の利用状況（土曜日、日曜・祝日、長期休暇中）

利用の有無	n	%
土曜日 利用している	47	40.9
日曜・祝日 利用している	4	3.5
長期休暇中 利用している	83	72.2
無回答	180	
非該当	1115	
全体	115	100.0

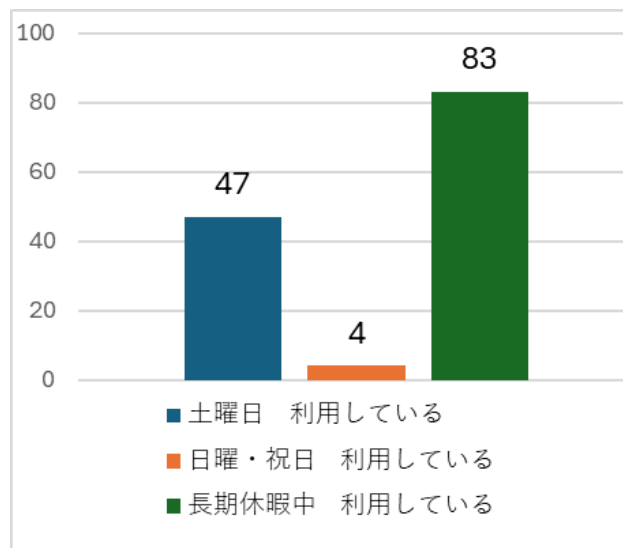


図 7.1.3.1 「定期的な教育・保育の事業」の利用状況（土曜日、日曜・祝日、長期休暇中）

7.1.3.2 利用希望（土曜日、日曜・祝日）・・・問 28、問 30

ここでは、「あて名のお子さんについて、土曜日に、幼稚園や保育園などの「定期的な教育・保育の事業」を利用したいか、あてはまるものを1つ選んでください。」と「あて名のお子さんについて、日曜・祝日に、幼稚園や保育園などの「定期的な教育・保育の事業」を利用したいか、あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下に表を示す。

土曜日では、「利用する必要はない」が最も多く 55.4%（220 人）であり、利用したい者は、「月に1～2回は利用したい」36.8%（146 人）と「ほぼ毎週利用したい」7.8%（31 人）で合わせると「利用したい」は 44.6%（177 人）であった。

日曜・祝日では、「利用する必要はない」（296 人）75.7%であり、利用したい者は「月に1～2回は利用したい」22.3%（87 人）と「ほぼ毎週利用したい」2.0%（8 人）で合わせると「利用したい」は 24.3%（95 人）であった。

表 7.1.3.2 「定期的な教育・保育の事業」の利用希望：左）土曜日／右）日曜・祝日

土曜日の利用希望			日曜日・祝日の利用希望		
	n	%		n	%
ほぼ毎週利用したい	31	7.8	ほぼ毎週利用したい	8	2.0
月に1～2回は利用したい	146	36.8	月に1～2回は利用したい	87	22.3
利用する必要はない	220	55.4	利用する必要はない	296	75.7
無回答	13		無回答	19	
非該当	1000		非該当	1000	
全体	397	100.0	全体	391	100.0

7.1.3.3 利用したい理由（日曜・祝日）・・・問29、問31

ここでは、「定期的な教育・保育の事業」を日曜・祝日に「ほぼ毎週利用したい」、「月に1～2回は利用したい」と回答した「利用したい」95人に対して、「利用したい理由について、あてはまるものすべてを選んでください（複数回答可）。」として聞いた結果について述べる。以下の通り、表と図に示す。回答件数および回答者数に対する回答件数の割合を表に示す。

日曜・祝日に利用したい理由は、「仕事があるため」が最も多く、70.2%（66人）であり、次いで、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」33.0%（31人）、「リフレッシュのため」27.7%（26人）、「親族の介護や手伝いが必要なため」3.2%（3人）であった。「その他」の5.3%（5人）のうち有効回答である3件の内訳は、「上の子の送迎がある」、「祝日のみ仕事のため」、「見て貰っている祖父母の体力の衰え」であった。

なお、土曜日については設問の選択肢に不備があり、結果は出せなかった。

表 7.1.3.3 「定期的な教育・保育の事業」を利用したい理由（日曜・祝日）

利用したい理由	n	%
仕事があるため	66	70.2
平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため	31	33.0
親族の介護や手伝いが必要なため	3	3.2
リフレッシュのため	26	27.7
その他	5	5.3
無回答	1	
非該当	1315	
全体	94	100.0

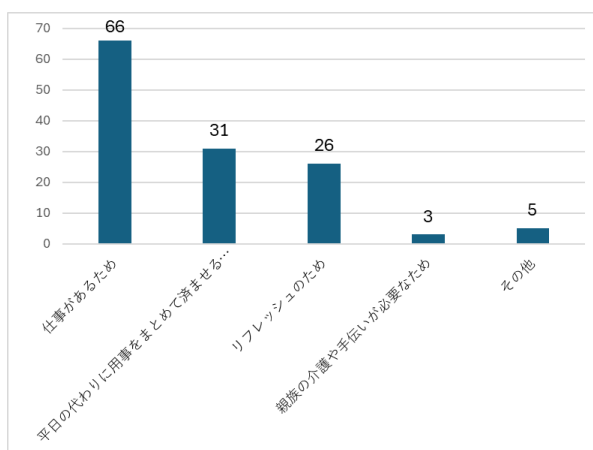


図 7.1.3.3 「定期的な教育・保育の事業」を利用したい理由（日曜・祝日）

7.1.3.4 利用希望（長期休暇中）・・・問32、問33

ここでは、「あて名のお子さんについて、幼稚園の夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。あてはまるものを1つ選んでください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。」として聞いた結果について述べる。以下に表を示す。

長期休暇中では、「幼稚園は利用していない」が最も多く 35.7%（141 人）であり、「休みの期間中、週に数日利用したい」 27.8%（110 人）、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」 21.0%（83 人）、「利用する必要はない」 15.4%（61 人）の順であった。

なお、利用したい理由については設問の選択肢に不備があり、結果は出せなかった。

表 7.1.3.4 「定期的な教育・保育の事業」の利用希望（長期休暇中）

長期休暇中の利用希望	n	%
休みの期間中、ほぼ毎日利用したい	83	21.0
休みの期間中、週に数日利用したい	110	27.8
利用する必要はない	61	15.4
幼稚園は利用していない	141	35.7
無回答	15	
非該当	1000	
全体	395	100.0

7.1.4 小括

乳幼児の幼児教育・保育事業を項目順に、前回調査である平成 30（2018）年の乳幼児を対象とした調査結果（有効回答数 466 件）と比較して述べる。

定期的な教育・保育事業では、利用の有無は「利用している」が 72.3%（295 人）[前回 68.4%（314 人）]であり、5 年前よりも 3.9 ポイント上昇していた。内訳（回答件数および総数に対する割合を表示・前回は無回答件数を除外した割合で算出）は、「認可保育所」70.0%（205 人）[前回 69.9%（230 人）]、「幼稚園」23.9%（70 人）[前回 21.0%（69 人）]、「幼稚園の預かり保育」10.2%（30 人）[前回 4.0%（13 人）]、「事業所内保育所」2.0%（6 人）[前回 4.6%（15 人）]であり、「幼稚園の預かり保育」が 6.2 ポイント上昇していたがそれ以外はほぼ同様の結果であった。前回同様に「居宅訪問型保育」の利用者はいなかった。

現在の利用と希望の利用（平日）では、日数は前回調査と同様に現在も希望も「5 日」が最も多かった。時間数は、現在の上位 3 位は、「7 時間」28.4%（82 人）[前回 33.2%（105 人）]、「8 時間」28.0%（81 人）[前回 27.8%（88 人）]、「6 時間」15.2%（44 人）[前回 18.0%（57 人）]、希望は、「8 時間」32.1%（88 人）[前回 34.2%（78 人）]、「7 時間」22.3%（61 人）[前回 23.2%（53 人）]とほぼ同様であったが、3 位「9 時間」15.3%（42 人）[前回「6 時間」14.0%（32 人）]、

4 位「6 時間」12.8% (35 人) [前回「10 時間」11.8% (27 人)]と割合は同じであるが、7 時間、8 時間よりも長時間、短時間の順位が入れ替わり、今回は長時間を希望していた。

利用開始時間（平日）は、現在の上位 3 位は「8 時 30 分」33.0% (96 人)、「8 時 00 分」28.5% (83 人)、「9 時 00 分」27.1% (79 人) に対して、前回は「9 時 00 分」34.4% (107 人)、「8 時 30 分」27.0% (84 人)、「8 時 00 分」24.4% (76 人) であり、上位 3 位の割合はほぼ同様で時間帯が 30 分繰り上がっていた。希望の上位 3 位は、「8 時 00 分」33.5% (89 人)、「8 時 30 分」と「9 時 00 分」が各 25.2% (67 人) に対して、前回は「9 時 00 分」34.3% (70 人)、「8 時 00 分」32.8% (67 人)、「8 時 30 分」24.5% (50 人) であり、上位 3 位の順位が入れ替わり、30 分から 1 時間の繰り上げを希望していると考えられた。

利用終了時間（平日）は、現在の上位 3 位は、「16 時 00 分」27.1% (79 人)、「15 時 30 分」20.6% (60 人)、「15 時 00 分」と「16 時 30 分」、「17 時 00 分」が各 10.0% (29 人) に対して、前回は「15 時 30 分」33.8% (105 人)、「15 時 00 分」20.0% (62 人)、「14 時 30 分」12.5% (39 人) であり、前回に比べて終了時間が 30 分繰り下がっていた。一方、希望の上位 3 位は、「16 時 00 分」25.6% (68 人)、「17 時 00 分」20.3% (54 人)、「18 時 00 分」11.3% (30 人) であり、前回よりも 30 分の繰り下げ終了を希望していた。

土曜日に「利用したい」者は 44.6% (177 人) [前回 37.4% (171 人)]、日曜・祝日に「利用したい」者 24.3% (95 人) [前回 19.9% (90 人)]、長期休暇中に「利用したい」者は 48.8% (193 人) [前回 67.1% (45 人)]であり、順に 7.2 ポイント、4.4 ポイント、18.3 ポイントと前回調査よりも増加していた。利用の理由については、5 年前とほぼ一致していた。

7.2 【乳幼児・児童】病児保育

7.2.1 病児保育の利用状況

乳幼児と児童の病児保育について、子どもの病気やケガによる保育園や幼稚園、学校等の欠席の有無、子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数、病児保育施設等の利用希望と日数について述べる。

7.2.1.1 子どもの病気やケガによる保育園や幼稚園、学校等の欠席の有無・・・問34

ここでは、「この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで保育園や幼稚園、学校などを休んだことはありましたか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り表に示す。

全体（n=803）では、「あった」70.0%（562人）に対して、「なかった」（241人）30.0%であった。

層別では、乳幼児の保護者は「あった」66.0%（260人）、「なかった」34.0%（134人）と回答しており、小学生の保護者は「あった」73.8%（302人）、「なかった」26.2%（107人）と回答していた。

表 7.2.1.1 子どもの病気やケガによる欠席の有無（全体）

子どもの病気やケガで仕事を休んだことの有無	n	%
あった	562	70.0
なかった	241	30.0
無回答	18	
非該当	589	
全体	803	100.0

表 7.2.1.1 子どもの病気やケガによる欠席の有無（層別）

	合計	あった	なかった
全体	803	70.0	30.0
乳幼児保護者	394	66.0	34.0
小学生保護者	409	73.8	26.2

7.2.1.2 子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数・・・問35-1～8

ここでは、「昨年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日の間）に、あて名のお子さんが病気やケガで保育園や幼稚園、学校などを休んだ時に、1～8のそれぞれについて、行った対応として、日数を入力してください。」として聞いた結果について述べる。以下の通り表に示す。1から8は順に、父親が仕事を休んだ日数、母親が休んだ日数、親族（祖父母など）や知人に子どもを世話して貰った日数、父親または母親のうち就労していない方が子

子どもの世話をした日数、病児保育を利用した日数、民間の託児サービスを利用した日数、仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数、その他である。

父親が休んで対応した日数は、全体 (n=167) では、「1 日」が最も多く、26.3% (44 人)、次いで、「2 日」(41 人) 24.6%、「3 日」(24 人) 14.4%、「5 日」(23 人) 13.8%、「10 日」9.6% (16 人)、「7 日」4.2% (7 人)、「4 日」2.4% (4 人)、「20 日」1.8% (3 人) であり、「6 日」、「9 日」、「12 日」、「15 日」、「30 日」は 0.6% (1 人) であり、父親では「3 日」までと「5 日」が多く、乳幼児と小学生の保護者では、日数の割合にあまり違いはなかった。

表 7.2.1.2_1 子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数 (父親が仕事を休む)

	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日
全体	167	26.3	24.6	14.4	2.4	13.8	0.6
乳幼児保護者	93	24.7	22.6	17.2	2.2	10.8	1.1
小学生保護者	74	28.4	27.0	10.8	2.7	17.6	0.0
	7日	9日	10日	12日	15日	20日	30日
全体	4.2	0.6	9.6	0.6	0.6	1.8	0.6
乳幼児保護者	3.2	1.1	12.9	1.1	1.1	2.2	0.0
小学生保護者	5.4	0.0	5.4	0.0	0.0	1.4	1.4

母親が休んで対応した日数は、全体 (n=423) では、多い順に「10 日」18.2% (77 人)、「5 日」13.5% (57 人)、「3 日」12.8% (54 人)、「2 日」11.3% (48 人)、「1 日」9.9% (42 人)、「20 日」5.7% (24 人)、「7 日」5.0% (21 人)、「4 日」4.5% (19 人)、「15 日」4.3% (18 人)、「6 日」3.3% (14 人)、「14 日」2.6% (11 人)、「8 日」と「30 日」各 1.9% (8 人)であった。「61 日以上」1.2% (5 人)、「12 日」0.7% (3 人)、「13 日」と「25 日」、「50 日」各 0.5% (2 人)、「17 日」と「18 日」、「22 日」、「28 日」、「32 日」、「40 日」、「45 日」、「60 日」各 0.2% (1 人)であった。「7 日」までと「10 日」、乳幼児は小学生の保護者に比べて「20 日」や「60 日以上」、また、乳幼児と小学生共に父親よりも日数が多かった。

表 7.2.1.2_2 子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数 (母親が仕事を休む)

	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日
全体	423	9.9	11.3	12.8	4.5	13.5	3.3
乳幼児保護者	195	3.1	6.2	10.3	3.1	16.9	2.6
小学生保護者	228	15.8	15.8	14.9	5.7	10.5	3.9
	7日	8日	10日	12日	13日	14日	15日
全体	5.0	1.9	18.2	0.7	0.5	2.6	4.3
乳幼児保護者	2.6	3.1	21.5	1.5	0.5	4.1	4.1
小学生保護者	7.0	0.9	15.4	0.0	0.4	1.3	4.4
	17日	18日	20日	22日	25日	28日	30日
全体	0.2	0.2	5.7	0.2	0.5	0.2	1.9
乳幼児保護者	0.5	0.0	10.3	0.5	1.0	0.5	2.6
小学生保護者	0.0	0.4	1.8	0.0	0.0	0.0	1.3
	32日	40日	45日	50日	60日	61日以上	
全体	0.2	0.2	0.2	0.5	0.2	1.2	
乳幼児保護者	0.5	0.5	0.0	1.0	0.5	2.6	
小学生保護者	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	

親族（祖父母など）や知人に子どもの世話をした日数は、全体（n=221）では、「1日」（43人）19.5%が最も多く、次いで、「5日」（39人）17.6%、「2日」（38人）17.2%、「3日」（33人）14.9%、「10日」（22人）10.0%、「7日」（10人）4.5%、「4日」（9人）4.1%、「6日」と「20日」2.3%（5人）、「14日」1.8%（4人）、「15日」と「30日」1.4%（3人）、「8日」0.9%（2人）、「25日」と「31日」「40日」「45日」「61日以上」は各0.5%（1人）であった。小学生の保護者では、「1日」が乳幼児の保護者に比べて多かった。

表 7.2.1.2_3 子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数（親族や知人による世話）

	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日
全体	221	19.5	17.2	14.9	4.1	17.6	2.3
乳幼児保護者	116	9.5	15.5	16.4	2.6	19.8	2.6
小学生保護者	105	30.5	19.0	13.3	5.7	15.2	1.9
	7日	8日	10日	14日	15日	20日	25日
全体	4.5	0.9	10.0	1.8	1.4	2.3	0.5
乳幼児保護者	3.4	1.7	12.9	3.4	2.6	3.4	0.9
小学生保護者	5.7	0.0	6.7	0.0	0.0	1.0	0.0
	30日	31日	40日	45日	61日以上		
全体	1.4	0.5	0.5	0.5	0.5		
乳幼児保護者	2.6	0.9	0.9	0.0	0.9		
小学生保護者	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0		

父親または母親のうち就労していない方が子どもの世話をした日数は、全体（n=61）では、多い順に「1日」16.4%（10人）、「10日」13.1%（8人）、「2日」と「5日」が各11.5%（7人）、「7日」9.8%（6人）、「3日」「6日」「20日」「30日」が6.6%（4人）、「15日」（3人）4.9%、「14日」3.3%（2人）、「11日」と「50日」が各1.6%（1人）であった。乳幼児の保護者では、「7日」以内、「10日」「15日」「20日」「30日」と短期間から中期、長期と比較的均一な回答であった。小学生の保護者では、「1日」「2日」が多かった。

表 7.2.1.2_4 子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数（就労していない親が世話）

	合計	1日	2日	3日	5日	6日	7日
全体	61	16.4	11.5	6.6	11.5	6.6	9.8
乳幼児保護者	31	6.5	3.2	9.7	9.7	3.2	6.5
小学生保護者	30	26.7	20.0	3.3	13.3	10.0	13.3
	10日	11日	14日	15日	20日	30日	50日
全体	13.1	1.6	3.3	4.9	6.6	6.6	1.6
乳幼児保護者	22.6	3.2	0.0	9.7	9.7	12.9	3.2
小学生保護者	3.3	0.0	6.7	0.0	3.3	0.0	0.0

病児保育を利用した日数は、全体（n=19）では、「3日」26.3%（5人）、「1日」と「2日」「5日」が各15.8%（3人）、「4日」10.5%（2人）、「7日」と「12日」「20日」が各5.3%（1人）であった。小学生の保護者は「3日」まで利用していた。

表 7.2.1.2_5 子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数（病児保育の利用）

	合計	1日	2日	3日	4日	5日
全体	19	15.8	15.8	26.3	10.5	15.8
乳幼児保護者	16	12.5	12.5	25.0	12.5	18.8
小学生保護者	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	7日	12日	20日			
全体	5.3	5.3	5.3			
乳幼児保護者	6.3	6.3	6.3			
小学生保護者	0.0	0.0	0.0			

民間の託児サービスを利用した日数は、全体（n=1）であり、層別では小学生の保護者のみの利用であった。

表 7.2.1.2_6 子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数（民間の託児サービスの利用）

	合計	2日	99
全体	1	100.0	0.0
乳幼児保護者	0	0.0	0.0
小学生保護者	1	100.0	0.0

仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数は、全体（n=39）では、多い順に「1日」（16人）41.0%、「2日」（12人）30.8%、「3日」（5人）12.8%、「5日」と「6日」、「7日」、「10日」、「14日」、「20日」2.6%（1人）であった。乳幼児の保護者では、「2日」、小学生の保護者では、「1日」、「2日」が多かった。

表 7.2.1.2_7 子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数（子どもだけで留守番）

	合計	1日	2日	3日	5日
全体	39	41.0	30.8	12.8	2.6
乳幼児保護者	2	0.0	50.0	0.0	0.0
小学生保護者	37	43.2	29.7	13.5	2.7
	6日	7日	10日	14日	20日
全体	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6
乳幼児保護者	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
小学生保護者	2.7	0.0	2.7	2.7	2.7

その他は、全体（n=33）のうち有効回答 15 件（述べ数）を内容分析した結果を表に示す。「テレワーク・在宅勤務」では、もともと在宅勤務であったケースと切り替えて対応したケースがあった。「職場での世話」では、職場に連れて行くまたは自営業の職場での世話であった。「交代または依頼」では、両親の交代や上の子が休んで世話をしたケースの他、里親や職員が世話をしたケースがあった。

表 7.2.1.2_8 子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数（その他）

	合計	その他
全体	33	33
乳幼児保護者	19	19
小学生保護者	14	14

表 7.2.1.2_9 子どもの病気やケガによる欠席で対応した日数（その他の内訳）

対応		日数
テレワーク・在宅勤務	仕事しながら世話をした	14日
	在宅ワークの母親が仕事をしながら家で看病した	7日
	父親が在宅勤務で世話をした	5日
	自宅で仕事をしている母親が仕事量を減らしてみた	—
	自宅で仕事をしながら子どもを見た	—
	テレワークに切り替えた	—
	休職中の母親が対応した	—
職場での世話	職場に連れて行った	15日
	職場（自営）に子どもを連れて行った	5日
	職場（自営）に連れていき仕事しながら寝かせた	—
	会社に連れていった	—
交代や依頼	自営業（両親）のため半日交代でみた	3日
	中3の上の子に学校を休んで世話して貰った	—
	里親が自宅でみた	—
	入所中の母子生活支援施設の職員に依頼した	3日

7.2.1.3 病児保育施設等の利用希望・・・問36、問37

ここでは、病児保育施設等の利用希望について、「今後、あて名のお子さんが病気やケガで保育園や幼稚園、学校などを休んだ場合に、病児保育施設等を利用したいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。以下に表を示す。

病児保育施設の利用希望では、「病児保育を利用したいとは思わない」70.1%（558人）、「病児保育を利用したい」29.9%（238人）であった。

表 7.2.1.3_1 病児保育施設等の利用希望

	合計	病児保育を利用したい	病児保育を利用したいとは思わない
全体	796	29.9	70.1
乳幼児保護者	391	43.7	56.3
小学生保護者	405	16.5	83.5

さらに、「病児保育を利用したい」と回答した238人を対象に、「具体的に、1年間に何日ぐらい利用したいですか。」として聞いた結果を以下の表に示す。

利用したい日数は、全体（n=230）では、「10 日」 22.6%（52 人）が最も多く、次いで、「5 日」 22.2%（51 人）、「3 日」 16.1%（37 人）、「7 日」 9.6%（22 人）、「20 日」 6.5%（15 人）、「2 日」 3.9%（9 人）、「30 日」 3.0%（7 人）、「15 日」 2.6%（6 人）、「4 日」と「12 日」、「61 日以上」が各 2.2%（5 人）、「1 日」と「6 日」が各 1.7%（4 人）、「8 日」と「14 日」が各 1.3%（3 人）、「9 日」と「40 日」が各 0.4%（1 人）であった。乳幼児の保護者、小学生の保護者共に、「3 日」、「5 日」、「7 日」、「10 日」が多かった。

表 7.2.1.3_2 病児保育を利用したい日数

	合計	1日	2日	3日	4日	5日
全体	230	1.7	3.9	16.1	2.2	22.2
乳幼児保護者	168	1.8	4.2	11.3	1.2	20.2
小学生保護者	62	1.6	3.2	29.0	4.8	27.4
	6日	7日	8日	9日	10日	12日
全体	1.7	9.6	1.3	0.4	22.6	2.2
乳幼児保護者	1.8	8.9	1.8	0.6	25.6	2.4
小学生保護者	1.6	11.3	0.0	0.0	14.5	1.6
	14日	15日	20日	30日	40日	61日以上
全体	1.3	2.6	6.5	3.0	0.4	2.2
乳幼児保護者	1.8	3.0	8.9	3.6	0.0	3.0
小学生保護者	0.0	1.6	0.0	1.6	1.6	0.0

7.2.2 小括

病児保育について、子どもの病気やケガによる欠席で対応した方法別に今回と前回調査を比較した。今回は日数回答のあるものを対応したことがあるとみなして、前回と比較した。父親が仕事を休んだ乳幼児 19.7%（93 人）・小学生 15.0%（74 人）【前回乳幼児 13.4%（63 人）・小学生 6.5%（31 人）】、母親が仕事を休んだ 41.3%（195 人）・小学生 46.3%（228 人）【前回乳幼児 42.3%（199 人）・小学生 45.7%（217 人）】、親族・知人に子どもを世話をもらった 24.6%（116 人）・小学生 21.3%（105 人）【前回乳幼児 25.1%（118 人）・小学生 24.8%（118 人）】、父親又は母親のうち就労していない方が子どもの世話をした 6.6%（31 人）・小学生 6.1%（30 人）【前回乳幼児 9.1%（43 人）・小学生 8.0%（38 人）】、病児保育を利用した 3.4%（16 人）・小学生 0.6%（3 人）【前回乳幼児 6.8%（32 人）・小学生 2.1%（10 人）】、ファミリーサポートなど託児サービスを利用した 0.0%（0 人）・小学生 0.2%（1 人）【前回乳幼児 0.4%（2 人）・小学生 0.2%（1 人）】、仕方なく子どもだけで留守番をさせた 0.4%（2 人）・小学生 7.5%（37 人）【前回乳幼児 0.4%（2 人）・小学生 6.3%（30 人）】、その他 4.0%（19 人）・小学生 2.8%（14 人）【前回乳幼児 2.3%（11 人）・小学生 6.3%（30 人）】であり、前回と比較してポイント増は、父親が仕事を休んだ乳幼児 6.3 ポイント・小学生 8.5 ポイント、母親が仕事を休んだ小学生 0.6 ポイント、仕方なく子どもだけで留守番をさせた小学生 1.2 ポイントであった。ポイント減

は、母親が仕事を休んだ乳幼児 1 ポイント、親族・知人に子どもを世話してもらった乳幼児 0.5 ポイント・小学生 3.5 ポイント、父親又は母親のうち就労していない方が子どもの世話をした乳幼児 2.5 ポイント・小学生 1.9 ポイント、病児保育を利用した乳幼児 3.4 ポイント・小学生 1.5 ポイント、ファミリーサポートなど託児サービスを利用した乳幼児 0.4 ポイントであった。乳幼児の仕方なく子どもだけで留守番をさせたと小学生のファミリーサポートなど託児サービスを利用したでは、増減はなかった。

病児保育施設の利用希望では、「病児保育を利用したい」全体 29.9% (238 人)・乳幼児 43.7% (171 人) [前回 30.9% (72 人)]・小学生 16.5% (67 人) [前回 23.3% (34 人)]に対して、「病児保育を利用したいとは思わない」全体 70.1% (558 人)・乳幼児 56.3% (220 人) [前回 69.1% (161 人)]・小学生 83.5% (338 人) [前回 76.6% (112 人)]であった。5 年前の調査と比べて、病児保育を利用したい保護者は、乳幼児 12.8 ポイント増、小学生 6.8 ポイント減であった。

利用希望日数は、乳幼児の上位 3 位は「10 日」25.6% (43 人)、「5 日」20.2% (34 人)、「3 日」11.3% (19 人) [前回「2 日」20.7% (12 人)、「5 日」20.7% (12 人)、「3 日」17.2% (10 人)]、小学生は「3 日」29.0% (18 人)、「5 日」27.4% (17 人)、「10 日」14.5% (9 人) [前回「3 日」34.3% (12 人)、「1 日」22.9% (8 人)、「5 日」22.9% (8 人)]であった。「3 日」や「5 日」は前回と同様であったが、今回は上位 3 位内に挙がっていた「10 日」は、前回では乳幼児 12.1% (7 人)、小学生 0.0% (0 人) と希望の少なく、希望者の割合が乳幼児で 13.5 ポイント、小学生で 14.5 ポイント上昇していた。

7.3 【乳幼児・児童】一時預かり等の事業

乳幼児と児童の一時預かり等の事業について、不定期に利用する支援事業と宿泊を伴う支援事業について、順に述べる。

7.3.1 一時預かり等の支援事業の利用状況

乳幼児と児童の不定期に利用した一時預かり等の事業について、利用日数、利用希望の有無と利用したい日数について述べる。

7.3.1.1 利用日数・・・問38

ここでは、「昨年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日の間）に、あて名のお子さんについて、保護者の用事で不定期に利用した一時預かり等の事業の利用状況についてお答えください。」として1から6について聞いた結果について述べる。1から6は順に、一時保育（保育所などで一時的に子どもを保育する事業）、幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長し預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）、ショートステイ、トワイライトステイ（冠婚葬祭などで養育できない場合に日中や夜間に子どもを預かる事業）、ファミリーサポート（地域住民が会員となって子どもを預かる事業）、託児サービス（子育て支援団体等が有償で子どもを預かる事業）、その他（具体的な事業等と合計日数）のそれぞれの日数である。これらの表を以下に示す。

一時保育（保育所などで一時的に子どもを保育する事業）は、全体（n=43）では、多い順に、「1日」34.9%（15人）、「10日」18.6%（8人）、「3日」11.6%（5人）、「2日」9.3%（4人）、「5日」7.0%（3人）、「20日」と「40日」が各4.7%（2人）、「4日」と「6日」、「25日」、「30日」が各2.3%（1人）であった。小学生の保護者は「1日」が多かった。

表 7.3.1.1_1 一時保育の利用日数

	合計	1日	2日	3日	4日	5日
全体	43	34.9	9.3	11.6	2.3	7.0
乳幼児保護者	37	29.7	10.8	10.8	0.0	8.1
小学生保護者	6	66.7	0.0	16.7	16.7	0.0
	6日	10日	20日	25日	30日	40日
全体	2.3	18.6	4.7	2.3	2.3	4.7
乳幼児保護者	2.7	21.6	5.4	2.7	2.7	5.4
小学生保護者	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長し預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）は、全体（n=29）では、多い順に、「1日」と「5日」、「10日」、「61日以上」が各13.8%（4人）、「3日」と「7日」が各10.3%（3人）、「2日」「4日」、「6日」、「15日」、「20日」、「28日」、「50日」が各3.4%（1人）であった。乳幼児の保護者では、「60日

上」と「10日」までの間が比較的均一に回答しており、小学生の保護者では、「1日」と「3日」が多かった。

表 7.3.1.1_2 幼稚園の預かり保育の利用日数

	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日
全体	29	13.8	3.4	10.3	3.4	13.8	3.4
乳幼児保護者	21	9.5	4.8	4.8	4.8	19.0	4.8
小学生保護者	8	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	7日	10日	15日	20日	28日	50日	61日以上
全体	10.3	13.8	3.4	3.4	3.4	3.4	13.8
乳幼児保護者	9.5	14.3	4.8	4.8	0.0	0.0	19.0
小学生保護者	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0

ショートステイ、トワイライトステイ（冠婚葬祭などで養育できない場合に日中や夜間に子どもを預かる事業）は、全体（n=8）では、「1日」と「3日」、「5日」がJ格25.0%（2人）、「2日」と「6日」が各12.5%（1人）であった。

表 7.3.1.1_3 ショートステイ、トワイライトステイの利用日数

	合計	1日	2日	3日	5日	6日
全体	8	25.0	12.5	25.0	25.0	12.5
乳幼児保護者	5	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0
小学生保護者	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0

ファミリーサポート（地域住民が会員となって子どもを預かる事業）は、全体（n=31）では、「1日」29.0%（9人）が最も多く、次いで、「2日」と「3日」、「10日」が各12.9%（4人）、「6日」9.7%（3人）、「4日」と「5日」が各6.5%（2人）、「7日」と「20日」、「38日」が各3.2%（1人）であった。小学生の保護者では「1日」が多かった。

表 7.3.1.1_4 ファミリーサポートの利用日数

	合計	1日	2日	3日	4日	5日
全体	31	29.0	12.9	12.9	6.5	6.5
乳幼児保護者	24	20.8	12.5	12.5	8.3	8.3
小学生保護者	7	57.1	14.3	14.3	0.0	0.0
	6日	7日	10日	20日	30日	38日
全体	9.7	3.2	12.9	3.2	0.0	3.2
乳幼児保護者	12.5	4.2	16.7	4.2	0.0	0.0
小学生保護者	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3

託児サービス（子育て支援団体等が有償で子どもを預かる事業）は、全体（n=10）では、多い順に、「1日」30.0%（3人）、「3日」20.0%（2人）、「2日」と「5日」、「6日」、「7日」、

「30 日」が各 10.0%（1 人）であった。乳幼児の保護者では、「7 日」までの期間、比較的均一な回答であった。

表 7.3.1.1_5 託児サービスの利用日数

	合計	1日	2日	3日
全体	10	30.0	10.0	20.0
乳幼児保護者	7	28.6	14.3	14.3
小学生保護者	3	33.3	0.0	33.3
	5日	6日	7日	30日
全体	10.0	10.0	10.0	10.0
乳幼児保護者	14.3	14.3	14.3	0.0
小学生保護者	0.0	0.0	0.0	33.3

その他（具体的な事業等と合計日数）では、全体（n=37）のうち有効回答は 2 件のみであり、共に「放課後児童クラブ（学童保育）」であり、1 人が「30 日」の回答であった。

表 7.3.1.1_6 その他（具体的な事業等と合計日数）

	合計	その他
全体	37	37
乳幼児保護者	16	16
小学生保護者	21	21

7.3.1.2 利用希望・・・問 3 9、問 4 0

ここでは、「今後、あて名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、親の病気、不定期の就労など）で、一時預かり等の事業を利用したいと思いますか。あてはまるものを 1 つ選んでください。※事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。」について聞いた結果を述べる。以下の通り表に示す。

一時預かり等の事業の利用希望は、全体（n=778）では、「利用する必要はない」62.6%（487 人）、「利用したい」37.4%（291 人）であった。

表 7.3.1.2_1 一時預かり等の事業の利用希望

	合計	利用したい	利用する必
全体	778	37.4	62.6
乳幼児保護者	384	54.7	45.3
小学生保護者	394	20.6	79.4

さらに、「一時預かり等の事業を利用したい」と回答した 291 人を対象に、「具体的に、1 年間に何日ぐらい利用したいですか。」として聞いた結果を以下の表に示す。

利用したい日数は、「5 日」が最も多く 27.2%（74 人）であり、次いで、「10 日」18.0%

(49人)、「3日」16.9% (46人)、「7日」7.7% (21人)、「2日」6.6% (18人)、「30日」4.4% (12人)、「20日」4.0% (11人)、「1日」3.3% (9人)、「61日以上」2.2% (6人)、「12日」1.8% (5人)、「14日」と「15日」が各1.5% (4人)、「4日」1.1% (3人)、「40日」と「50日」、「60日」が各0.7% (2人)、「6日」と「8日」、「24日」、「36日」が各0.4% (1人)であった。乳幼児、小学生の保護者共に、「3日」、「5日」、「10日」の回答が多かった。

表 7.3.1.2_2 一時預かり等の事業を利用したい日数

	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日
全体	272	3.3	6.6	16.9	1.1	27.2	0.4
乳幼児保護者	198	3.0	5.6	14.6	1.5	29.8	0.5
小学生保護者	74	4.1	9.5	23.0	0.0	20.3	0.0
	7日	8日	10日	12日	14日	15日	20日
全体	7.7	0.4	18.0	1.8	1.5	1.5	4.0
乳幼児保護者	6.6	0.5	17.7	1.0	1.5	1.0	5.1
小学生保護者	10.8	0.0	18.9	4.1	1.4	2.7	1.4
	24日	30日	36日	40日	50日	60日	61日以上
全体	0.4	4.4	0.4	0.7	0.7	0.7	2.2
乳幼児保護者	0.5	5.6	0.5	1.0	1.0	0.5	2.5
小学生保護者	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4

7.3.2 宿泊を伴う一時預かり等の支援事業の利用状況

乳幼児と児童の宿泊を伴う一時預かり等の事業利用について、利用日数、利用希望の有無と利用したい日数について述べる。

7.3.2.1 利用日数・・・問4 1

ここでは、「昨年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日の間）に、泊りがけの保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、あて名のお子さんを同居家族以外に世話してもらわなければならないことはありましたか。（複数回答可）。」として聞いた結果について述べる。

泊りがけの保護者の用事により同居家族以外の世話をして貰ったことは、全体（n=756）では、「世話をしてもらわなければならない必要はなかった」72.9%（551人）が最も多く、次いで、「親戚・友人・知人などに世話をしてもらった」20.9%（158人）、「世話をしてほしいことはあったが、預け先が見つからなかった」7.5%（57人）、「ファミリーサポートを利用した」0.7%（5人）、「ショートステイを利用した」0.1%（1人）であった。ショートステイやファミリーサポートを利用したとの回答は殆どなく、必要がない者が全体の3/4程おり、残りは親戚や友人・知人等の身近な人に世話をして貰っていた。

表 7.3.2.1 泊りがけの保護者の用事により同居家族以外の世話をして貰ったこと

	合計	親戚・友人・知人などに世話をしてもらった	ショートステイを利用した	ファミリーサポートを利用した	世話をしてほしいことはあったが、預け先が見つからなかった	世話をしてもらう必要はなかった
全体	756	20.9	0.1	0.7	7.5	72.9
乳幼児保護者	374	20.3	0.3	1.1	7.5	71.9
小学生保護者	382	21.5	0.0	0.3	7.6	73.8

7.3.2.2 利用希望・・・問42、問43

ここでは、「今後、あて名のお子さんについて、泊りがけの保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、宿泊を伴う一時預かり等の事業を利用したいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。※事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。」について聞いた結果を述べる。以下の通り表に示す。

宿泊を伴う一時預かり等の事業の利用希望は、全体（n=774）では、「利用する必要はない」83.1%（643人）、「利用したい」16.9%（131人）であった。不定期に利用する一時預かり等の事業よりも利用したいと回答した者は少なかった。

表 7.3.2.2_1 宿泊を伴う一時預かり等の事業の利用希望

	合計	利用したい	利用する必要はない
全体	774	16.9	83.1
乳幼児保護者	383	22.2	77.8
小学生保護者	391	11.8	88.2

さらに、「宿泊を伴う一時預かり等の事業を利用したい」と回答した131人を対象に、「具体的に、1年間に何日ぐらい利用したいですか。」として聞いた結果を以下の表に示す。

利用したい日数は、多い順に、「3日」24.4%（30人）、「2日」16.3%（20人）、「5日」14.6%（18人）、「1日」12.2%（15人）、「7日」と「10日」が各8.9%（11人）、「8日」3.3%（4人）、「6日」と「14日」、「20日」、「30日」が各2.4%（3人）、「61日以上」と「12日」、「15日」が各1.6%（2人）、「22日」0.8%（1人）であった。乳幼児と小学生の保護者共に、「5日」までで利用したい者が多かった。

表 7.3.2.2_2 宿泊を伴う一時預かり等の事業を利用したい日数

	合計	1日	2日	3日	5日	6日
全体	123	12.2	16.3	24.4	14.6	2.4
乳幼児保護者	79	 10.1	 15.2	 20.3	 19.0	 2.5
小学生保護者	44	 15.9	 18.2	 31.8	 6.8	 2.3
	7日	8日	10日	12日	14日	15日
全体	8.9	3.3	8.9	0.8	1.6	0.8
乳幼児保護者	 8.9	 2.5	 11.4	 1.3	 1.3	 1.3
小学生保護者	 9.1	 4.5	 4.5	 0.0	 2.3	 0.0
	20日	22日	30日	61日以上		
全体	1.6	0.8	1.6	1.6		
乳幼児保護者	 2.5	 0.0	 1.3	 2.5		
小学生保護者	 0.0	 2.3	 2.3	 0.0		

7.3.3 小括

一時預かり等の事業について、日数回答のあるものを利用経験があるとみなして、前回と比較した（選択肢が異なることで比較できない項目あり）。

一時保育では、乳幼児 33.6%（37 人）・小学生 12.5%（6 人）[前回乳幼児 66.7%（40 人）・小学生該当せず・中高校生該当せず]、幼稚園の預かり保育は、乳幼児 19.1%（21 人）・小学生 16.7%（8 人）[前回乳幼児 21.7%（13 人）・小学生該当せず・中高校生該当せず]、ショートステイ、トワイライトステイは乳幼児 4.5%（5 人）・小学生 6.3%（3 人）[前回乳幼児 3.4%（2 人）・小学生 0.0%（0 人）・中高校生 0.0%（0 人）]、ファミリーサポートは乳幼児 21.8%（24 人）・小学生 14.6%（7 人）[前回選択肢設定せず]、託児サービスは、乳幼児 6.4%（7 人）・小学生 6.3%（3 人）[前回乳幼児 1.7%（1 人）・小学生 57.1%（8 人）・中高校生 0.0%（0 人）]、その他は乳幼児 14.5%（16 人）・小学生 43.8%（21 人）[前回乳幼児 6.7%（4 人）・小学生 42.9%（6 人）]であった。

利用希望では、利用したいと回答した保護者は、乳幼児 54.7%（210 人）・小学生 20.6%（81 人）[前回乳幼児 42.5%（150 人）・小学生 19.3%（96 人）]であり、前回と比較して、不定期の一時預かり等の事業を希望する保護者が乳幼児 12.2 ポイント、小学生 1.3 ポイント増加していた。

7.4 【乳幼児・児童】放課後児童クラブ

7.4.1 放課後に過ごしている場所・過ごさせたい場所・・・問44

ここでは、「あて名のお子さんについて、小学校のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたい、あるいは実際に過ごしていますか。あてはまるものすべてを選んでください（複数回答可）」として聞いた結果について表 7.4.1 に示す。

全体としては多い順に、自宅（77.4%）、習い事（41.4%）、放課後児童クラブ（39.7%）であった。特に乳幼児保護者については、小学校に入学してから、放課後児童クラブで放課後過ごさせたいという割合が高く、57.0%であった。

表 7.4.1 放課後に過ごしている場所・過ごさせたい場所

	全体	乳幼児保護者	小学生保護者
合計	766	374	392
自宅	77.4	68.7	85.7
祖父母宅	25.6	35.8	15.8
友人・知人宅	16.4	13.1	19.6
習い事 (ピアノ教室、 サッカークラブ、 学習塾など)	41.4	42.8	40.1
児童館・児童センター	17.0	28.3	6.1
放課後児童クラブ	39.7	57.0	23.2
障がい児通所支援サービス	3.3	4.3	2.3
その他	3.3	4.8	1.8

7.4.2 長期休業中の放課後児童クラブのニーズ・・・問45、問46

ここでは、表 7.4.1 で「放課後児童クラブ」と答えた人を対象に、「あて名のお子さんについて、夏休み等の長期休暇に、放課後児童クラブの利用希望について、あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた結果について表 7.4.2.1 に示す。大半の保護者は、利用したいと考えていることがわかる。

さらに、表 7.4.2.1 で「利用したい」と答えた人を対象に、夏季休業中に、何時から何時に利用したいのかを聞いた結果のうち、表 7.4.2.2 に「何時から」利用したいか、表 7.4.2.3 に「何時まで」利用したいか聞いた結果について示す。

「何時から」について、7時台～9時台にピークがあるが、一方で夕方（14時～16時台）から預けたいという保護者も一定数いることが見て取れる。

「何時まで」について、15時台～18時台にピークがある。

表 7.4.2.1 夏休み中に放課後児童クラブを利用したいかどうか

	合計	利用したい	利用する必要はない
全体	299	92.3	7.7
乳幼児保護者	208	93.8	6.3
小学生保護者	91	89.0	11.0

表 7.4.2.2 夏休み中に「何時から」放課後児童クラブを利用したいか

	実数	割合
7時台	64	18.2%
8時台	167	47.6%
9時台	62	17.7%
10時台	4	1.1%
11時台	1	0.3%
12時台	1	0.3%
14時台	13	3.7%
15時台	32	9.1%
16時台	7	2.0%
回答件数	351	100.0%

表 7.4.2.3 夏休み中に「何時まで」放課後児童クラブを利用したいか

	実数	割合
11時台	1	0.3%
12時台	1	0.3%
14時台	2	0.6%
15時台	30	8.6%
16時台	91	26.0%
17時台	133	38.0%
18時台	86	24.6%
19時台	5	1.4%
20時台	1	0.3%
回答件数	350	100.0%

7.5 子ども食堂等の利用実態とニーズ

以下では、子ども食堂、子ども宅食、無料学習塾、フリースペースの利用実態とニーズ等について述べる。

7.5.1 子ども食堂

7.5.1.1 子ども食堂の利用実態・・・問47

ここでは、「子ども食堂（無料または安価で食事ができる場所）」を利用したいかどうかについて、あなたの考えや状況に最も近いものを1つ選んでください」として聞いた結果について表7.5.1.1に示す。

「わからない」という回答が、全体で45.0%と、半数弱あった。それ以外の回答について、「すでに利用している」という回答が、全体で1.5%（17人）、「今後、利用したい」と、「利用したくない・必要だと思わない」が半数程度ずつであった。

表 7.5.1.1 子ども食堂の利用ニーズ

	合計	すでに 利用している	今後、 利用したい	利用 したくない・ 必要だと 思わない	わからない
全体	1136	1.5	27.8	25.7	45.0
乳幼児保護者	376	1.3	32.7	19.4	46.5
小学生保護者	387	1.0	28.2	28.4	42.4
中高年生保護者	373	2.1	22.5	29.2	46.1

7.5.1.2 子ども食堂を利用しない・必要ないと思う理由・・・問48

ここでは、表7.5.1.1で「利用したくない・必要だと思わない」を選んだ人を対象に「その理由について、あてはまるものすべてを選んでください（複数回答可）」として聞いた結果について表7.5.1.2に示す。

「家で食事ができる」という回答が90%超であり、多かった一方、近くにない・遠いという回答や、そもそも制度をよく知らないという回答も一定数あった。

表 7.5.1.2 子ども食堂を利用しない・必要ないと思う理由

	合計	家で食事が できる	制度をよく 知らない	近くにない・ 遠い	知らない人と 関わり たくない	貧しいと 思われたく ない	その他
全体	292	93.5	11.3	15.4	2.4	4.5	7.5
乳幼児保護者	73	91.8	15.1	21.9	1.4	6.8	5.5
小学生保護者	110	93.6	9.1	14.5	1.8	3.6	6.4
中高年生保護者	109	94.5	11.0	11.9	3.7	3.7	10.1

7.5.2 子ども宅食の利用実態とニーズ

7.5.2.1 子ども宅食の利用実態・・・問49

ここでは、「子ども宅食（無料または安価で自宅に食事を届けてくれるサービス）」を利用したいかどうかについて、あなたの考えや状況に最も近いものを1つ選んでください」として聞いた結果について、表7.5.2.1に示す。

「わからない」という回答が、全体で40.0%と、半数弱あった。それ以外の回答について、「すでに利用している」という回答が、全体で1.2%（14人）、「今後、利用したい」あるいは「利用したいが配達可能なエリアではない」と、「利用したくない・必要だと思わない」が半数程度ずつであった。

表7.5.2.1 子ども宅食の利用ニーズ

	合計	すでに 利用している	今後、 利用したい	利用したいが 配達可能な エリアでは ない	利用 したくない・ 必要だと 思わない	わからない
全体	1137	1.2	27.3	6.4	25.1	40.0
乳幼児保護者	376	1.9	32.2	6.4	16.2	43.4
小学生保護者	387	0.8	25.6	5.2	28.7	39.8
中高生保護者	374	1.1	24.1	7.8	30.2	36.9

7.5.2.2 子ども宅食を利用しない・必要ないと思う理由・・・問50

ここでは、表7.5.2.1で「利用したくない・必要だと思わない」を選んだ人を対象に「その理由について、あてはまるものすべてを選んでください（複数回答可）」として聞いた結果について表7.5.2.2に示す。

「食費の心配がない」という回答が70%超であり、多かった一方、制度をよく知らないという回答が20%前後あった。

表7.5.2.2 子ども食卓を利用したくない・必要だと思わない理由

	合計	食費の 心配がない	制度を よく知らない	貧しいと 思われたく ない	その他
全体	283	74.6	20.5	3.9	16.6
乳幼児保護者	60	71.7	23.3	6.7	15.0
小学生保護者	110	80.9	20.0	3.6	15.5
中高生保護者	113	69.9	19.5	2.7	18.6

7.5.3 無料学習塾等のニーズ・・・問51

ここでは、「子どものための無料の学習塾、寺子屋など（ボランティア等が無料で勉強を教えたり、宿題をみてる場所）」を利用したいかどうかについて、あなたの考えや状況

に最も近いものを1つ選んでください」として聞いた結果について表 7.5.3 に示す。

「利用したい」の割合が全体で 61.1%あった。一方で、「わからない」という回答も全体で 24.8%であり、4 人に 1 人程度は制度について理解をしていない状況にあった。

表 7.5.3 無料学習塾等のニーズ

	合計	すでに 利用している	利用したい	利用したく ない・ 必要だと 思わない	わからない
全体	1136	2.2	61.1	11.9	24.8
乳幼児保護者	374	0.3	64.7	7.2	27.8
小学生保護者	390	4.6	59.7	14.4	21.3
中高校生保護者	372	1.6	58.9	14.0	25.5

7.5.4 フリースペースのニーズ・・・問 5 2

ここでは、「小学生以上の子どもが平日の日中に利用することができる学校以外の施設（フリースペースなど）」を利用したいかどうかについて、あなたの考えや状況に最も近いものを1つ選んでください」として聞いた結果について表 7.5.4 に示す。

「利用したい」という回答が全体で 53.7%あったが、いわゆる「フリースペース」は、不登校児童生徒等を対象とした学習機会確保法等を根拠とする施設を想定しており、表 7.4.1 で示した放課後児童クラブの割合と近い面もあるため、制度的な理解の上での回答ではなかった可能性がある。「すでに利用している」の割合は、学齢が上がるにつれて上昇しており、中高生保護者の 7.8%（29 人）が利用していると答えている。

表 7.5.4 フリースペースのニーズ

	合計	すでに 利用している	利用したい	利用したく ない・ 必要だと 思わない	わからない
全体	1129	3.6	53.7	15.3	27.4
乳幼児保護者	369	0.5	62.1	6.0	31.4
小学生保護者	390	2.6	54.4	18.5	24.6
中高校生保護者	370	7.8	44.6	21.4	26.2

7.5 小括（7.4、7.5 節）

放課後過ごす場所については、前回調査と同様、「自宅」、「習い事」、「放課後児童クラブ」の割合が高く、引き続き放課後児童クラブに一定のニーズが見てとれた。長期休業中の放課後児童クラブ利用については、90%前後が「利用したい」と回答しており高いニーズであった。両親が共働きである傾向は、前回調査時よりも上昇していることから、保護者の就業時間帯での利用希望（8 時台～17 時台）が見て取れた。

子ども食堂、子ども宅食、無料学習塾、フリースペースはそれぞれ一定のニーズが見て取れる。前回調査と選択肢が変わっているので単純比較はできないが、今回の調査で新設した「わからない」という選択肢を選ぶ割合が、どの施設についても 50%前後あり、どういった場合にこういった施設を利用できるのかといったことの理解があまり広がっていない状況が見て取れる。一方で「必要だと思わない」と回答した理由として「貧しいと思われたくない」という回答が 5%弱あり、子どもの権利や子どもの利益より、保護者の意識によってサービス利用できない例も発生し得ることから、なおのこと、周知や説明の仕方を工夫していくことが求められている。

7.6 子育て支援事業

子育て支援に関わる事業について、サービスの利用状況について述べる。

7.6.1 サービスの利用状況

ここでは、「高山市等が行っている下記のA～Nの事業の利用について、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。AからNは、順に、妊婦教室、助産師相談、産後ケア、こんにちは赤ちゃん訪問、乳幼児健康診査・相談、母子健康包括支援センター（子どもの健康相談・発達相談）、子育て支援センター（岡本保育園2階）、児童センター・児童館、つどいの広場・かんかこかん・ひだっこランド、子ども発達支援センター・家庭児童相談、教育相談、であい塾、いじめSOSへの相談、子育て支援情報誌（子育て便利帳等）の計14事業である。

7.6.1.1 妊娠から出産までの支援事業・・・問5 3A、B

妊婦教室は、全体（n=1115）では、「過去に利用していたことがある」60.8%（678人）が最も多く、次いで、「利用したことはないが知っている」25.1%（280人）、「知らない」13.8%（154人）、「現在利用している」0.3%（3人）であった。

助産師相談は、全体（n=1105）では、「利用したことはないが知っている」39.7%（439人）、「過去に利用していたことがある」31.9%（353人）、「知らない」27.0%（298人）、「現在利用している」1.4%（15人）であった。

妊婦教室では「知らない」と回答した保護者が乳幼児で1割弱、小学生、中高校生で2割弱いた。助産師相談では「知らない」の割合が高く、中高校生の保護者では4割弱、小学生の保護者で3割弱、乳幼児の保護者で2割弱いた。

表 7.6.1.1_1 各支援事業の利用経験（1）

	合計	A 妊婦教室			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1115	0.3	60.8	25.1	13.8
乳幼児保護者	370	0.8	57.0	33.5	8.6
小学生保護者	378	0.0	63.5	20.6	15.9
中高校生保護者	367	0.0	61.9	21.3	16.9

	合計	B 助産師相談			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1105	1.4	31.9	39.7	27.0
乳幼児保護者	368	3.8	35.9	45.1	15.2
小学生保護者	373	0.3	33.8	38.1	27.9
中高校生保護者	364	0.0	26.1	36.0	37.9

7.6.1.2 乳幼児から就学前の支援事業・・・問5 3C～G、I

産後ケアは、全体（n=1101）では、「利用したことはないが知っている」40.8%（449人）が最も多く、次いで、「知らない」31.6%（348人）、「過去に利用していたことがある」26.6%（293人）、「現在利用している」1.0%（11人）であった。

こんにちは赤ちゃん訪問は、全体（n=1107）では、「過去に利用していたことがある」55.2%（611人）が最も多く、次いで、「知らない」26.2%（290人）、「利用したことはないが知っている」17.1%（189人）、「現在利用している」1.5%（17人）であった。

乳幼児健康診査・相談は、全体（n=1113）では、「過去に利用していたことがある」70.0%（779人）、「現在利用している」13.7%（152人）、「利用したことはないが知っている」9.0%（100人）、「知らない」7.4%（82人）であった。

母子健康包括支援センター（子どもの健康相談・発達相談）は、全体（n=1106）では、「利用したことはないが知っている」45.1%（499人）が最も多く、次いで、「過去に利用していたことがある」29.5%（326人）、「知らない」22.4%（248人）、「現在利用している」3.0%（33人）であった。

子育て支援センター（岡本保育園2階）は、全体（n=1114）では、「過去に利用していたことがある」39.2%（437人）が最も多く、次いで、「利用したことはないが知っている」38.8%（432人）、「知らない」18.0%（201人）、「現在利用している」3.9%（44人）であった。

つどいの広場・かんかこかん・ひだっこランドは、全体（n=1115）では、「利用したことはないが知っている」38.1%（425人）が最も多く、次いで、「過去に利用していたことがある」31.2%（348人）、「知らない」23.6%（263人）、「現在利用している」7.1%（79人）であった。

産後ケアでは、小学生と中高校生の保護者の「知らない」の割合が高く4割弱いた。こんにちは赤ちゃん訪問も「知らない」と回答した小学生の保護者が3割弱、中高校生の保護者が4割弱いた。乳幼児健康診査・相談を「知らない」と回答した保護者が乳幼児で数パーセント、小学生1割、中高校生で1割弱いた。母子健康包括支援センター（子どもの健康相談・発達相談）は「知らない」と回答した者が多く、それぞれ2割強いた。子育て支援センター（岡本保育園2階）も「知らない」と回答した保護者が多く、乳幼児1割強、小学生2割弱、中高校生2割強いた。同様に、つどいの広場・かんかこかん・ひだっこランドも「知らない」と回答した保護者が、乳幼児2割弱、小学生2割強、中高校生3割おり、子育て支援センター（岡本保育園2階）よりも「知らない」と回答した者が多かった。

産後ケア、母子健康包括支援センター（子どもの健康相談・発達相談）、子育て支援センター（岡本保育園2階）、つどいの広場・かんかこかん・ひだっこランドでは、「利用したことはないが知っている」の割合が比較的高かった。

つどいの広場・かんかこかん・ひだっこランドでは、乳幼児の保護者の2割弱が「現在利用している」と回答していた。

表 7.6.1.1_2 各支援事業の利用経験（2）

	合計	C 産後ケア			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1101	1.0	26.6	40.8	31.6
乳幼児保護者	369	2.7	26.0	50.1	21.1
小学生保護者	370	0.3	27.6	37.3	34.9
中高校生保護者	362	0.0	26.2	34.8	39.0

	合計	D こんにちは赤ちゃん訪問			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1107	1.5	55.2	17.1	26.2
乳幼児保護者	369	4.1	67.5	13.3	15.2
小学生保護者	372	0.5	55.9	16.7	26.9
中高校生保護者	366	0.0	42.1	21.3	36.6

	合計	E 乳幼児健康診査・相談			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1113	13.7	70.0	9.0	7.4
乳幼児保護者	370	37.6	51.4	7.3	3.8
小学生保護者	377	3.2	75.9	10.6	10.3
中高校生保護者	366	0.3	82.8	9.0	7.9

	合計	F 母子健康包括支援センター（子どもの健康相談・発達相談）			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1106	3.0	29.5	45.1	22.4
乳幼児保護者	369	7.3	24.1	47.7	20.9
小学生保護者	374	1.1	31.3	43.9	23.8
中高校生保護者	363	0.6	33.1	43.8	22.6

	合計	G 子育て支援センター（岡本保育園2階）			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1114	3.9	39.2	38.8	18.0
乳幼児保護者	371	10.8	38.5	36.9	13.7
小学生保護者	377	1.1	43.0	37.9	18.0
中高校生保護者	366	0.0	36.1	41.5	22.4

	合計	I つどいの広場・かんかこかん・ひだっこランド			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1115	7.1	31.2	38.1	23.6
乳幼児保護者	369	19.2	27.4	35.2	18.2
小学生保護者	379	2.1	38.3	37.5	22.2
中高校生保護者	367	0.0	27.8	41.7	30.5

7.6.1.3 学童期の支援事業・・・問5 3H、L

児童センター・児童館は、全体（n=1117）では、「過去に利用していたことがある」60.9%（680人）が最も多く、次いで、「現在利用している」18.6%（208人）、「利用したことはな

いが知っている」17.4%（194人）、「知らない」3.1%（35人）であった。

であい塾は、全体（n=1112）では、「知らない」59.4%（661人）が最も多く、次いで、「利用したことはないが知っている」39.1%（435人）、「過去に利用していたことがある」1.1%（12人）、「現在利用している」0.4%（4人）であった。

児童センター・児童館は全ての層で、「現在利用している」あるいは「過去に利用していたことがある」と回答した者が多かった。一方、であい塾は「知らない」と回答した者が多く、児童と中学生の生徒を対象としているが、小学生の保護者5割強、中高校生の保護者5割弱が「知らない」と回答していた。

表 7.6.1.1_3 各支援事業の利用経験（3）

	合計	H 児童センター・児童館			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1117	18.6	60.9	17.4	3.1
乳幼児保護者	370	38.4	37.3	21.1	3.2
小学生保護者	379	14.5	68.6	14.2	2.6
中高校生保護者	368	3.0	76.6	16.8	3.5

	合計	L であい塾			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1112	0.4	1.1	39.1	59.4
乳幼児保護者	370	0.3	0.3	21.9	77.6
小学生保護者	375	0.0	0.3	46.4	53.3
中高校生保護者	367	0.8	2.7	49.0	47.4

7.6.1.4 相談に関する支援事業・・・問5 3J、K、M

子ども発達支援センター・家庭児童相談は、全体（n=1113）では、「利用したことはないが知っている」54.1%（602人）が最も多く、次いで、「知らない」31.4%（349人）、「過去に利用していたことがある」11.9%（133人）、「現在利用している」2.6%（29人）であった。

教育相談は、全体（n=1110）では、「知らない」46.5%（516人）が最も多く、次いで、「利用したことはないが知っている」45.9%（510人）、「過去に利用していたことがある」6.8%（76人）、「現在利用している」0.7%（8人）であった。

いじめ SOS への相談は、全体（n=1110）では、「利用したことはないが知っている」63.3%（703人）が最も多く、次いで、「知らない」36.4%（404人）、「過去に利用していたことがある」0.3%（3人）であり、「現在利用している」と回答した者はいなかった。

子ども発達支援センター・家庭児童相談、教育相談、いじめ SOS のいずれも「知らない」と回答した割合が高かった。特に、乳幼児の保護者は他の層に比べて、「知らない」割合が高かった。いじめ SOS への相談のうち、「過去に利用していたことがある」は、小学生の保

護者で 0.3%（1 人）、中高校生の保護者で 0.5%（2 人）いた。

表 7.6.1.1_4 各支援事業利用経験（4）

	合計	J 子ども発達支援センター・家庭児童相談			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1113	2.6	11.9	54.1	31.4
乳幼児保護者	370	3.0	5.4	53.0	38.6
小学生保護者	377	2.7	14.3	56.5	26.5
中高校生保護者	366	2.2	16.1	52.7	29.0

	合計	K 教育相談			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1110	0.7	6.8	45.9	46.5
乳幼児保護者	370	0.3	2.2	36.8	60.8
小学生保護者	375	0.8	6.9	49.9	42.4
中高校生保護者	365	1.1	11.5	51.2	36.2

	合計	M いじめSOSへの相談			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1110	0.0	0.3	63.3	36.4
乳幼児保護者	369	0.0	0.0	41.7	58.3
小学生保護者	376	0.0	0.3	68.6	31.1
中高校生保護者	365	0.0	0.5	79.7	19.7

7.6.1.5 子育てに関する情報提供・・・問5 3N

子育て支援情報誌（子育て便利帳等）は、全体（n=1113）では、「利用したことはないが知っている」43.0%（479 人）が最も多く、次いで、「知らない」34.4%（383 人）、「過去に利用していたことがある」19.3%（215 人）、「現在利用している」3.2%（36 人）であった。

「知らない」と回答した者が乳幼児、小学生、中高校生の保護者でそれぞれ 3 割から 4 割弱いた。

表 7.6.1.1_5 各支援事業利用経験（5）

	合計	N 子育て支援情報誌（子育て便利帳等）			
		現在利用している	過去に利用していたことがある	利用したことはないが知っている	知らない
全体	1113	3.2	19.3	43.0	34.4
乳幼児保護者	372	7.3	18.5	38.7	35.5
小学生保護者	376	1.3	19.1	43.4	36.2
中高校生保護者	365	1.1	20.3	47.1	31.5

7.6.2 相談できる人や場所・・・問5 4

ここでは、「あて名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人や相談できる場所がありますか。あてはまる人や場所をすべて選んでください（複数回答

可。）」として聞いた結果（再掲）について述べる。以下の通り図と表に示す。

全体（n=1125）では、「配偶者・パートナー」が最も多く 80.1%（901 人）、次いで、「その他の親族（親、兄弟姉妹など）」67.7%（762 人）、「近所や地域の知人、友人」47.2%（531 人）、「職場の人」35.6%（401 人）、「保育園、幼稚園、学校の保護者仲間」33.4%（376 人）、「保育士、幼稚園や学校の先生」31.3%（352 人）、「子育て支援センター、児童センター・児童館、つどいの広場のスタッフ」8.2%（92 人）、「医師、看護師・助産師」6.7%（75 人）、「保健センターの保健師・栄養士」4.2%（47 人）、「インターネットや SNS による相談」4.1%（46 人）、「子育て支援団体（NPO 等）のスタッフ」3.2%（36 人）、「子ども発達支援センター・家庭児童相談の相談員」2.9%（33 人）、「相談できる人や相談できる場所はない」2.7%（30 人）、「民間の電話相談」0.5%（6 人）、「民生児童委員、主任児童委員」0.3%（3 人）、「その他」1.2%（13 人）であった。

層別でみると、乳幼児、小学生、中高校生の保護者のいずれもが、「配偶者・パートナー」、「その他の親族（親、兄弟姉妹など）」、「近所や地域の知人、友人」、「職場の人」、「保育園、幼稚園、学校の保護者仲間」、「保育士、幼稚園や学校の先生」に相談しており、身近な人や身近な専門家に相談していた。また、乳幼児の保護者では、「医師、看護師・助産師」、「子育て支援センター、児童センター・児童館、つどいの広場のスタッフ」、「子ども発達支援センター・家庭児童相談の相談員」、「保健センターの保健師・栄養士」と言った発育発達に関する専門家に相談していた。一方で、「インターネットや SNS による相談」に回答した保護者が乳幼児で 6.2%（23 人）、小学生 3.4%（13 人）、中高校生の保護者 2.7%（10 人）いた。「その他」13 人のうち、有効回答 11 件の内訳は、「スクールカウンセラー・心理士」2 人、「教員」1 人、「療育機関」1 人、「発達遊育教室はぴるんの先生」1 人、「山王福祉センター第 2 あゆみ学園」1 人、「放課後等デイサービス」1 人、「支所の保健師」1 人、「一緒に活動している仲間」1 人、「占い師」1 人であった。

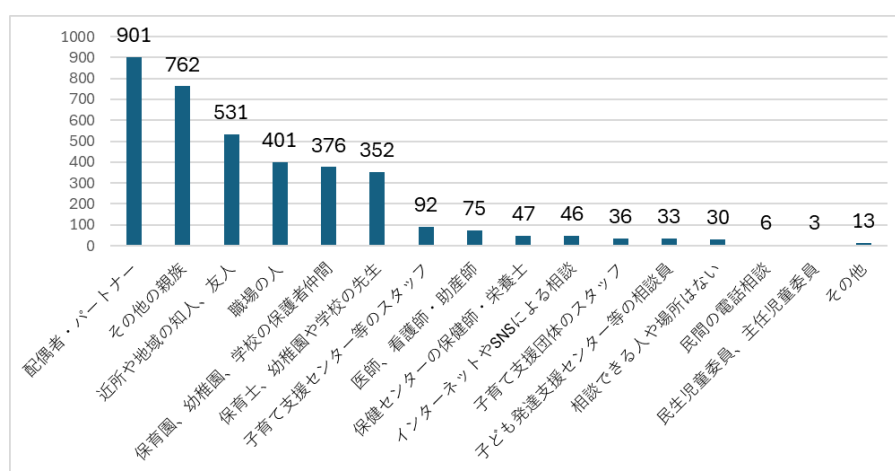


図 7.7.1 相談できる人や場所

表 7.7.1_1 相談できる人や場所

	合計	配偶者・パートナー	その他の親族 (親、兄弟姉妹など)	近所や地域の 知人、友人	職場の人	保育園、幼稚園、学校の保護者仲間
全体	1125	80.1	67.7	47.2	35.6	33.4
乳幼児保護者	372	88.4	77.4	43.3	32.3	33.3
小学生保護者	387	82.2	69.0	48.6	37.5	37.2
中高年生保護者	366	69.4	56.6	49.7	37.2	29.5
	子育て支援団体（NPO等）のスタッフ	保育士、幼稚園や学校の先生	医師、看護師・助産師	子育て支援センター、児童センター・児童館、つどいの広場のスタッフ	子ども発達支援センター・家庭児童相談の相談員	民生児童委員、主任児童委員
全体	3.2	31.3	6.7	8.2	2.9	0.3
乳幼児保護者	4.8	38.7	10.5	16.9	4.0	0.3
小学生保護者	2.3	34.4	5.9	4.9	2.8	0.3
中高年生保護者	2.5	20.5	3.6	2.7	1.9	0.3
	保健センターの保健師・栄養士	民間の電話相談	インターネットやSNSによる相談	相談できる人や相談できる場所はない	その他	
全体	4.2	0.5	4.1	2.7	1.2	
乳幼児保護者	10.2	0.8	6.2	3.0	0.8	
小学生保護者	1.0	0.3	3.4	1.0	1.8	
中高年生保護者	1.4	0.5	2.7	4.1	0.8	

表 7.7.1_2 相談できる人や場所（その他の内訳）

スクールカウンセラー・心理士	2
教員	1
療育機関	1
発達遊育教室はびるんの先生	1
山王福祉センター 第2あゆみ学園	1
放課後等デイサービス	1
支所の保健師	1
一緒に活動している仲間	1
占い師	1

7.6.3 小括

サービスの利用状況について、前回調査と比較した（選択肢が異なり比較できないものもあり）。

妊婦教室は、利用経験者 61.1%、「知らない」 13.8%、助産師相談は、利用経験者 33.3%、「知らない」 27.0%であった。産後ケアは、利用経験者 27.6%（304 人）、「知らない」 31.6%（348 人）であった。こんにちは赤ちゃん訪問は、利用経験者 56.7%（628 人）、「知らない」 26.2%（290 人）[前回乳幼児：利用経験者 83.3%（364 人）、「知らない」 14.8%（65 人）]であり、利用経験者で 26.6 ポイント減、知らないが 11.4 ポイント増であった。乳幼児健康診査・相談は、利用経験者 83.7%（931 人）、「知らない」 7.4%（82 人）[前回乳幼児：利用経験者 96.0%（430 人）、「知らない」 4.1%（18 人）／乳幼児健康診査のみの設問]であり、利用経験者で 12.3 ポイント

減、知らないが 3.3 ポイント増であった。母子健康包括支援センター（子どもの健康相談・発達相談）は、利用経験者 32.5%（359 人）、「知らない」 22.4%（248 人）[前回全体：利用経験者 34.8%（468 人）、「知らない」 15.7%（223 人）]であり、利用経験者 2.3 ポイント減、「知らない」 6.7 ポイント増であった。子育て支援センター（岡本保育園 2 階）は、利用経験者 43.1%（481 人）、「知らない」 18.0%（201 人）[前回乳幼児：利用経験者 55.4%（245 人）、「知らない」 14.3%（63 人）]であり、利用経験者 12.3 ポイント減、「知らない」 3.7 ポイント増であった。つどいの広場・かんかこかん・ひだっこランドは、利用経験者 38.3%（427 人）、「知らない」 23.6%（263 人）[前回乳幼児・小学生：利用経験者 36.7%（334 人）、「知らない」 28.7%（272 人）／設問はつどいの広場・かんかこかん]であり、利用経験者 1.6 ポイント増、「知らない」 5.1 ポイント減であった。

児童センター・児童館は、利用経験者 79.5%（888 人）、「知らない」 3.1%（35 人）[前回：利用経験者 80.2%（759 人）、「知らない」 3.3%（31 人）]であり、利用経験者 0.7 ポイント減、「知らない」 0.2 ポイント減であった。であい塾は、全体（n=1112）では、利用経験者 1.5%（16 人）、「知らない」 59.4%（661 人）[前回小学生・中学高校生：利用経験者 0.8%（7 人）、「知らない」 64.8%（627 人）]であり、利用経験者 0.7 ポイント増、「知らない」 5.4 ポイント減であった。

子ども発達支援センター・家庭児童相談は、利用経験者 14.5%（162 人）、「知らない」 31.4%（349 人）[前回全体：利用経験者 3.9%（51 人）、「知らない」 45.1%（638 人）／設問は家庭児童相談のみ]であり、利用経験者 10.6 ポイント増、「知らない」 13.7 ポイント減であった。教育相談は、利用経験者 7.5%（84 人）、「知らない」 46.5%（516 人）[前回全体：利用経験者 4.7%（62 人）、「知らない」 47.0%（662 人）]であり、利用経験者 2.8 ポイント減、「知らない」 0.5 ポイント減であった。いじめ SOS への相談は、利用経験者 0.3%（3 人）、「知らない」 36.4%（404 人）[前回小学生・中学高校生：利用経験者 0.3%（3 人）、「知らない」 18.3%（178 人）]であり、利用経験者は増減がなく、「知らない」 18.1 ポイント増であった。

子育て支援情報誌（子育て便利帳等）は、利用経験者 22.5%（251 人）、「知らない」 34.4%（383 人）[前回全体：利用経験者 32.0%（425 人）、「知らない」 32.8%（466 人）]であり、利用経験者 9.5 ポイント減、「知らない」 1.6 ポイント増であった。

相談できる人や場所は、「配偶者・パートナー」、「その他の親族（親、兄弟姉妹など）」、「近所や地域の知人、友人」、「職場の人」、「保育園、幼稚園、学校の保護者仲間」、「保育士、幼稚園や学校の先生」、「子育て支援センター、児童センター・児童館、つどいの広場のスタッフ」、「医師、看護師・助産師」、「保健センターの保健師・栄養士」、「インターネットや SNS による相談」、「子育て支援団体（NPO 等）のスタッフ」、「子ども発達支援センター・家庭児童相談の相談員」、「相談できる人や相談できる場所はない」、「民間の電話相談」、「民生児童委員、主任児童委員」であり、前回調査[「配偶者、パートナー」、「親族（親・兄弟姉妹など）」、「近所や地域の知人、友人」、「職場の人」、「保護者仲間（保育園・幼稚園・学校）」、「保育士、幼稚園や学校の先生」、「子育て支援センター・つどいの広場」、「医師、保健師、看護師、栄養士」、「インターネット

やSNSによる相談」、「市役所（子ども発達支援センター）・各支所」、「子育て支援団体（NPO等）」、「保健センター」、「相談できる人・場所はない」、「保健所」、「民間の電話相談」、「民生児童委員、主任児童委員」の順とほぼ同様の結果であった。

7.7 まちづくりに対するニーズ

子どもにやさしいまちづくりに向け、まちづくりに対するニーズとして、まちづくりに対する考え、嬉しいと感じて笑顔になれる場面、嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるための環境について述べる。

7.7.1 まちづくりに対する考え・・・問97

ここでは、「市では、このまちで生まれ育った子どもたちが、まちに住み続けたり戻ってきて子育てをしたり、例え離れて暮らしていても、まちや人と繋がり続け様々に関わりを持ってくれるようなまちづくりを進めたいと考えています。」として聞いた結果について述べる。以下の通り表と図に示す。その他については、単語頻度分析、文章分類、共起ネットワーク分析の結果を図に示す。

魅力のある仕事を創出することは、全体（n=1032）では、多い順に「とてもそう思う」74.2%（766人）、「そう思う」21.4%（221人）、「あまりそう思わない」3.8%（39人）、「そう思わない」0.6%（6人）であった。

暮らしていて楽しい、幸せと感じられるまちとすることは、全体（n=1033）では、多い順に「とてもそう思う」79.2%（818人）、「そう思う」18.7%（193人）、「あまりそう思わない」2.0%（21人）、「そう思わない」0.1%（1人）であった。

経済支援や各種サービスなど子育て支援策を充実することは、全体（n=1032）では、多い順に「とてもそう思う」78.7%（812人）、「そう思う」18.1%（187人）、「あまりそう思わない」3.1%（32人）、「そう思わない」0.1%（1人）であった。

住宅や公園、子育て関係施設など子育て環境を充実させることは、全体（n=1033）では、多い順に「とてもそう思う」75.4%（779人）、「そう思う」21.1%（218人）、「あまりそう思わない」3.3%（34人）、「そう思わない」0.2%（2人）であった。

特色ある教育、個に応じた学びが得られるようにすることは、全体（n=1029）では、多い順に「とてもそう思う」62.5%（643人）、「そう思う」31.1%（320人）、「あまりそう思わない」5.9%（61人）、「そう思わない」0.5%（5人）であった。

大学進学などでまちを離れる前に、まちや人との結びつきを深めることは、全体（n=1029）では、多い順に「とてもそう思う」42.6%（438人）、「そう思う」36.3%（374人）、「あまりそう思わない」19.0%（195人）、「そう思わない」2.1%（22人）であった。

まちを離れた人に向けて、まちの情報を発信し交流することは、全体（n=1024）では、多い順に「とてもそう思う」38.9%（398人）、「そう思う」38.3%（392人）、「あまりそう思わない」20.7%（212人）、「そう思わない」2.1%（22人）であった。

全体では、大学進学などでまちを離れる前に、まちや人との結びつきを深めることとまちを離れた人に向けて、まちの情報を発信し交流することが、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせても8割弱と他の項目と比べて低かった。「とてもそう思う」と「そう思う」

を合わせて 9 割を超えていた 5 項目のうち、特色ある教育、個に応じた学びが得られるようにすることは、「とてもそう思う」が他に比べて低く、6 割程度であった。

表 7.7.1_1 まちづくりに対する考え（全体）

	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
魅力のある仕事を創出すること	766	221	39	6	1032
暮らしていて楽しい、幸せと感じられるまちとすること	818	193	21	1	1033
経済支援や各種サービスなど子育て支援策を充実すること	812	187	32	1	1032
住宅や公園、子育て関係施設など子育て環境を充実させること	779	218	34	2	1033
特色ある教育、個に応じた学びが得られるようにすること	643	320	61	5	1029
大学進学などでまちを離れる前に、まちや人との結びつきを深めること	438	374	195	22	1029
まちを離れた人に向けて、まちの情報を発信し交流すること	398	392	212	22	1024

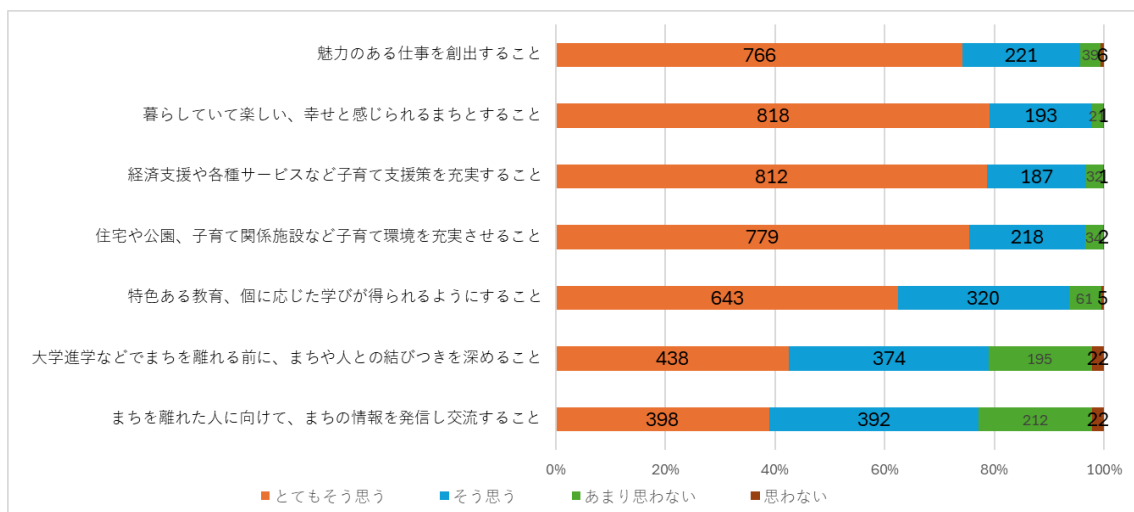


図 7.7.1_1 まちづくりに対する考え（全体）

また、層別では、乳幼児、小学生、中高校生の保護者のうち、顕著な違いは認められなかった。暮らしていて楽しい、幸せと感じられるまちとすること、経済支援や各種サービスなど子育て支援策を充実すること、住宅や公園、子育て関係施設など子育て環境を充実させること、特色ある教育、個に応じた学びが得られるようにすることの 4 項目は、中高校生の保護者は、「とてもそう思う」の回答が他よりも低く、その分「そう思う」の割合が高くなっていた。一方、大学進学などでまちを離れる前に、まちや人との結びつきを深めることとまちを離れた人に向けて、まちの情報を発信し交流することは、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は、中高校生の保護者が他に比べて低かった。

表 7.7.1_2 まちづくりに対する考え（層別）

	合計	1. 魅力のある仕事を創出すること			
		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	1032	74.2	21.4	3.8	0.6
乳幼児保護者	338	73.7	22.2	3.8	0.3
小学生保護者	359	75.2	19.8	4.5	0.6
中高年生保護者	335	73.7	22.4	3.0	0.9
	合計	2. 暮らしていて楽しい、幸せと感じられるまちとすること			
		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	1033	79.2	18.7	2.0	0.1
乳幼児保護者	338	81.4	17.2	1.5	0.0
小学生保護者	361	80.9	16.3	2.8	0.0
中高年生保護者	334	75.1	22.8	1.8	0.3
	合計	3. 経済支援や各種サービスなど子育て支援策を充実すること			
		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	1032	78.7	18.1	3.1	0.1
乳幼児保護者	339	85.5	12.4	1.8	0.3
小学生保護者	361	77.0	19.9	3.0	0.0
中高年生保護者	332	73.5	22.0	4.5	0.0
	合計	4. 住宅や公園、子育て関係施設など子育て環境を充実させること			
		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	1033	75.4	21.1	3.3	0.2
乳幼児保護者	339	84.4	13.6	1.8	0.3
小学生保護者	360	76.4	20.0	3.6	0.0
中高年生保護者	334	65.3	29.9	4.5	0.3
	合計	5. 特色ある教育、個に応じた学びが得られるようにすること			
		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	1029	62.5	31.1	5.9	0.5
乳幼児保護者	338	64.8	28.7	5.9	0.6
小学生保護者	360	64.4	29.2	5.8	0.6
中高年生保護者	331	58.0	35.6	6.0	0.3
	合計	6. 大学進学などでまちを離れる前に、まちや人との結びつきを深めること			
		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	1029	42.6	36.3	19.0	2.1
乳幼児保護者	337	43.0	34.7	19.3	3.0
小学生保護者	359	42.1	34.8	21.2	1.9
中高年生保護者	333	42.6	39.6	16.2	1.5
	合計	7. まちを離れた人に向けて、まちの情報を発信し交流すること			
		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	1024	38.9	38.3	20.7	2.1
乳幼児保護者	334	41.3	34.1	22.8	1.8
小学生保護者	358	38.0	37.7	21.5	2.8
中高年生保護者	332	37.3	43.1	17.8	1.8
	合計	8. その他			
		その他	その他	その他	その他
全体	66	66			
乳幼児保護者	27	27			
小学生保護者	27	27			
中高年生保護者	12	12			

その他 66 件の単語頻度分析による結果の主要な単語の多い順では、「地域」と「働く」が各 8 件、「企業」、「給料」、「教育」、「場所」が各 6 件、「公園」、「就職」、「出る」、「離れる」、「良い」が各 5 件、「安い」、「高い」、「少ない」が各 4 件であった。さらに、文章分類では、公園の整備、就職場所、オンラインについての記述が認められた。さらに、共起ネットワーク分析では、主に「高山市」と繋がっている単語は、「都会」－「離れる」、「給料」－「安

い」－「地元」、「家賃」－「高い」、「公園」－「遊ぶ・ない」－「場所・ない」、「観光」－「教育」－「力・入れる」であった。これらの単語を中心に自由記述を見ると、主に、「地元の魅力ある企業を知らないことや給料が安いことから都会に離れて行ってしまう」、「Uターンや20代30代が暮らすには家賃が高い」、「遊べる場所であるグラウンドや公園がない（整備含む）」、「観光に力を入れているが教育にも力を入れて欲しい」等であった。

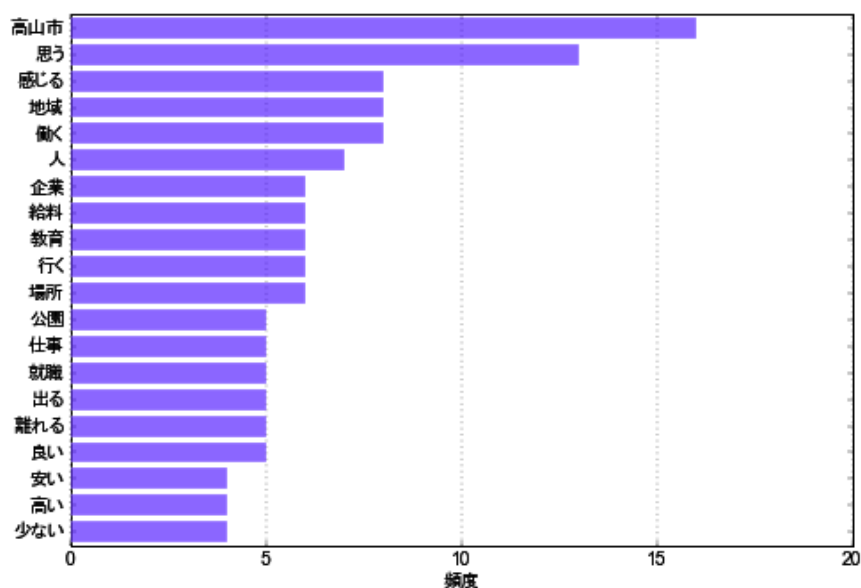


図 7.7.1_2 まちづくりに対する考え（全体）単語頻度分析

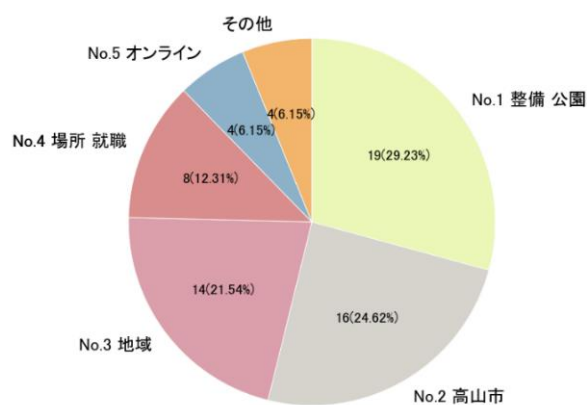


図 7.7.1_3 まちづくりに対する考え（全体）文章分類

は、多い順に「とても嬉しい」61.7% (734 人)、「嬉しい」35.4% (421 人)、「分からない・答えたくない」2.4% (28 人)、「あまり嬉しくない」0.5% (6 人)、「嬉しくない」0.1% (1 人) であった。

自分や家族（子ども含む）の将来の不安が小さく、期待が大きいと感じられたときは、全体（n=1191）では、多い順に「とても嬉しい」57.9% (690 人)、「嬉しい」35.3% (421 人)、「分からない・答えたくない」5.5% (65 人)、「あまり嬉しくない」1.2% (14 人)、「嬉しくない」0.1% (1 人) であった。

自分らしい生き方や時間の過ごし方ができたと思えたときは、全体（n=1194）では、多い順に「とても嬉しい」66.1% (789 人)、「嬉しい」31.2% (373 人)、「分からない・答えたくない」2.1% (25 人)、「あまり嬉しくない」0.6% (7 人) であった。「嬉しくない」と回答した者はいなかった。

誰の力も借りないで、自分の努力により問題への対応ができたときは、全体（n=1194）では、多い順に「嬉しい」49.0% (585 人)、「とても嬉しい」40.0% (478 人)、「分からない・答えたくない」5.8% (69 人)、「あまり嬉しくない」4.8% (57 人)、「嬉しくない」0.4% (5 人) であった。

全体では、「とても嬉しい」の割合が低かったものは、誰の力も借りないで、自分の努力により問題への対応ができたときで4割であった。自分や家族（子ども含む）の将来の不安が小さく、期待が大きいと感じられたときも6割弱に留まった。

表 7.7.2_1 嬉しいと感じて笑顔になれる場面（全体）

	とても嬉しい	嬉しい	あまり嬉しくない	嬉しくない	分からない・答えたくない	計
自分や家族（子ども含む）の夢や目標がかなったとき	1043	138	1	7	7	1196
子育てを通じて、貴重な経験を積み重ねられたり、成長を感じられたとき	988	201	3	0	4	1196
家族の理解やサポートが得られたり、感謝されたとき	846	329	8	0	11	1194
職場や地域など周りの人、友人とつながり、支えられ、助けられたとき	783	377	14	0	20	1194
前向きな気持ちで情報を得たり、行動に移せたと感じられたとき	734	421	6	1	28	1190
自分や家族（子ども含む）の将来の不安が小さく、期待が大きいと感じられたとき	690	421	14	1	65	1191
自分らしい生き方や時間の過ごし方ができたと思えたとき	789	373	7	0	25	1194
誰の力も借りないで、自分の努力により問題への対応ができたとき	478	585	57	5	69	1194

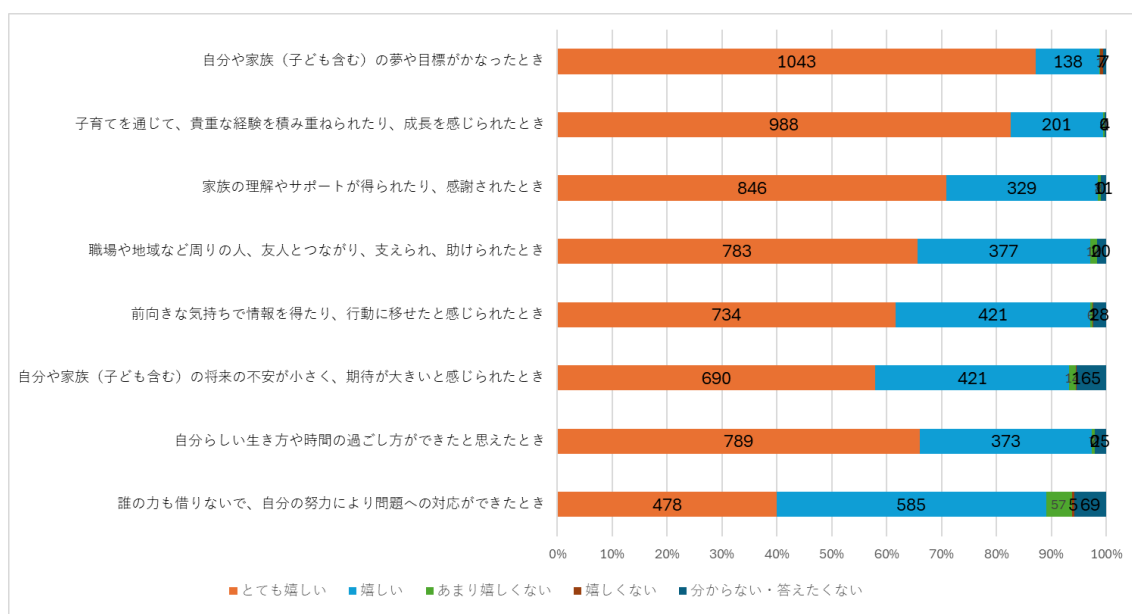


図 7.7.2 嬉しいと感じて笑顔になれる場面（全体）

層別では、自分や家族（子ども含む）の夢や目標がかなったときと子育てを通じて、貴重な経験を積み重ねられたり、成長を感じられたときは、乳幼児、小学生、中高校生の保護者の割合に違いは認められなかった。家族の理解やサポートが得られたり、感謝されたとき、職場や地域など周りの人、友人とつながり、支えられ、助けられたとき、前向きな気持ちで情報を得たり、行動に移せたと感じられたとき、自分や家族（子ども含む）の将来の不安が小さく、期待が大きいと感じられたとき、自分らしい生き方や時間の過ごし方ができたと思えたときの5項目は、乳幼児よりも小学生、小学生よりも中高校生の保護者が「とても嬉しい」の割合よりも「嬉しい」の割合が高かった。誰の力も借りないで、自分の努力により問題への対応ができたときのみ、「とても嬉しい」よりも「嬉しい」が最も多く、他の項目が「とても嬉しい」が最も多かったことと異なっていた。

表 7.7.2_2 嬉しいと感じて笑顔になれる場面（層別）

	合計	ア 自分や家族（子ども含む）の夢や目標がかなったとき				
		とても嬉しい	嬉しい	あまり嬉しくない	嬉しくない	分からない・答えたくない
全体	1196	87.2	11.5	0.1	0.6	0.6
乳幼児保護者	409	86.3	12.5	0.2	0.2	0.7
小学生保護者	411	86.4	12.7	0.0	0.2	0.7
中学生保護者	376	89.1	9.3	0.0	1.3	0.3
	合計	イ 子育てを通じて、貴重な経験を積み重ねられたり、成長を感じられたとき				
		とても嬉しい	嬉しい	あまり嬉しくない	嬉しくない	分からない・答えたくない
全体	1196	82.6	16.8	0.3	0.0	0.3
乳幼児保護者	410	84.1	15.4	0.2	0.0	0.2
小学生保護者	410	83.9	15.6	0.2	0.0	0.2
中学生保護者	376	79.5	19.7	0.3	0.0	0.5
	合計	ウ 家族の理解やサポートが得られたり、感謝されたとき				
		とても嬉しい	嬉しい	あまり嬉しくない	嬉しくない	分からない・答えたくない
全体	1194	70.9	27.6	0.7	0.0	0.9
乳幼児保護者	409	73.3	25.4	0.5	0.0	0.7
小学生保護者	410	69.5	28.8	0.7	0.0	1.0
中学生保護者	375	69.6	28.5	0.8	0.0	1.1
	合計	エ 職場や地域など周りの人、友人とつながり、支えられ、助けられたとき				
		とても嬉しい	嬉しい	あまり嬉しくない	嬉しくない	分からない・答えたくない
全体	1194	65.6	31.6	1.2	0.0	1.7
乳幼児保護者	408	69.4	27.5	1.5	0.0	1.7
小学生保護者	410	63.9	33.9	0.7	0.0	1.5
中学生保護者	376	63.3	33.5	1.3	0.0	1.9
	合計	オ 前向きな気持ちで情報を得たり、行動に移せたと感じられたとき				
		とても嬉しい	嬉しい	あまり嬉しくない	嬉しくない	分からない・答えたくない
全体	1190	61.7	35.4	0.5	0.1	2.4
乳幼児保護者	408	64.7	32.4	0.2	0.0	2.7
小学生保護者	406	62.1	35.7	0.2	0.0	2.0
中学生保護者	376	58.0	38.3	1.1	0.3	2.4
	合計	カ 自分や家族（子ども含む）の将来の不安が小さく、期待が大きいと感じられたとき				
		とても嬉しい	嬉しい	あまり嬉しくない	嬉しくない	分からない・答えたくない
全体	1191	57.9	35.3	1.2	0.1	5.5
乳幼児保護者	408	61.5	30.4	1.0	0.0	7.1
小学生保護者	409	58.7	36.9	1.0	0.2	3.2
中学生保護者	374	53.2	39.0	1.6	0.0	6.1
	合計	キ 自分らしい生き方や時間の過ごし方ができたと思ったとき				
		とても嬉しい	嬉しい	あまり嬉しくない	嬉しくない	分からない・答えたくない
全体	1194	66.1	31.2	0.6	0.0	2.1
乳幼児保護者	409	70.2	26.2	0.5	0.0	3.2
小学生保護者	410	67.8	30.2	0.5	0.0	1.5
中学生保護者	375	59.7	37.9	0.8	0.0	1.6
	合計	ク 誰の力も借りないで、自分の努力により問題への対応ができたとき				
		とても嬉しい	嬉しい	あまり嬉しくない	嬉しくない	分からない・答えたくない
全体	1194	40.0	49.0	4.8	0.4	5.8
乳幼児保護者	408	40.0	46.8	5.6	0.2	7.4
小学生保護者	410	42.0	48.8	4.9	0.7	3.7
中学生保護者	376	38.0	51.6	3.7	0.3	6.4

7.7.3 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるための環境・・・問16ア～ク

ここでは、「あなたが嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるために、あなたの周囲はどのようなになっていることが望ましいと思いますか。次のア～クについて、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。」として聞いた結果を表に示して述べる。

夢や目標に向かって、挑戦したり頑張れるような環境であってほしいは、全体 (n=1196) では、多い順に「とてもそう思う」%68.3 (817 人)、「そう思う」30.1% (360 人)、「あまり思わない」1.2% (14 人)、「分からない・答えたくない」0.4% (5 人) であった。「思わない」と回答した者はいなかった。

様々な経験を積んだり、成長につながるような環境であってほしいは、全体 (n=1193) では、多い順に「とてもそう思う」73.1% (872 人)、「そう思う」25.6% (306 人)、「あまり思わない」0.8% (9 人)、「分からない・答えたくない」0.5% (6 人) であった。「思わない」と回答した者はいなかった。

家族の理解やサポートが得られ、感謝を伝え合えるような環境であってほしいは、全体 (n=1195) では、多い順に「とてもそう思う」75.1% (898 人)、「そう思う」23.5% (281 人)、「あまり思わない」と「分からない・答えたくない」が各 0.7% (8 人) であった。「思わない」と回答した者はいなかった。

職場や地域など周りの人、友人とつながり、支援が得られやすいような環境であってほしいは、全体 (n=1194) では、多い順に「とてもそう思う」67.3% (803 人)、「そう思う」29.9% (357 人)、「あまり思わない」1.6% (19 人)、「分からない・答えたくない」0.9% (11 人)、「思わない」0.3% (4 人) であった。

情報が得られやすく、気軽に行動に移せるような環境であってほしいは、全体 (n=1194) では、多い順に「とてもそう思う」66.9% (799 人)、「そう思う」31.3% (374 人)、「あまり思わない」と「分からない・答えたくない」が各 0.8% (10 人)、「思わない」0.1% (1 人) であった。

将来の不安が小さく、期待が大きいと感じられるような環境であってほしいは、全体 (n=1195) では、多い順に「とてもそう思う」67.7% (809 人)、「そう思う」29.1% (348 人)、「あまり思わない」1.9% (23 人)、「分からない・答えたくない」1.3% (15 人) であった。「思わない」と回答した者はいなかった。

自分らしい生き方や時間の過ごし方ができるような環境であってほしいは、全体 (n=1195) では、多い順に「とてもそう思う」73.3% (876 人)、「そう思う」24.9% (298 人)、「分からない・答えたくない」0.9% (11 人)、「あまり思わない」0.8% (10 人) であった。「思わない」と回答した者はいなかった。

自分一人で問題に向き合えるような環境であってほしいは、全体 (n=1189) では、多い順に「あまり思わない」32.4% (385 人)、「そう思う」30.3% (360 人)、「とてもそう思う」28.8% (343 人)、「思わない」4.4% (52 人)、「分からない・答えたくない」4.1% (49 人) であった。

全体では、夢や目標に向かって、挑戦したり頑張れるような環境であってほしい、様々な経験を積んだり、成長につながるような環境であってほしい、家族の理解やサポートが得られ、感謝を伝え合えるような環境であってほしい、職場や地域など周りの人、友人とつなが

り、支援が得られやすいような環境であってほしい、情報が得られやすく、気軽に行動に移せるような環境であってほしい、将来の不安が小さく、期待が大きいと感じられるような環境であってほしい、自分らしい生き方や時間の過ごし方ができるような環境であってほしい、の7項目は、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせると9割超が思うと回答していた。一方、自分一人で問題に向き合えるような環境であってほしいのみ、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせても6割弱であった。

表 7.7.3_1 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるための環境（全体）

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	分からない・答えたくない	計
夢や目標に向かって、挑戦したり頑張れるような環境であってほしい	817	360	14	0	5	1196
様々な経験を積んだり、成長につながるような環境であってほしい	872	306	9	0	6	1193
家族の理解やサポートが得られ、感謝を伝え合えるような環境であってほしい	898	281	8	0	8	1195
職場や地域など周りの人、友人とつながり、支援が得られやすいような環境であってほしい	803	357	19	4	11	1194
情報が得られやすく、気軽に行動に移せるような環境であってほしい	799	374	10	1	10	1194
将来の不安が小さく、期待が大きいと感じられるような環境であってほしい	809	348	23	0	15	1195
自分らしい生き方や時間の過ごし方ができるような環境であってほしい	876	298	10	0	11	1195
自分一人で問題に向き合えるような環境であってほしい	343	360	385	52	49	1189

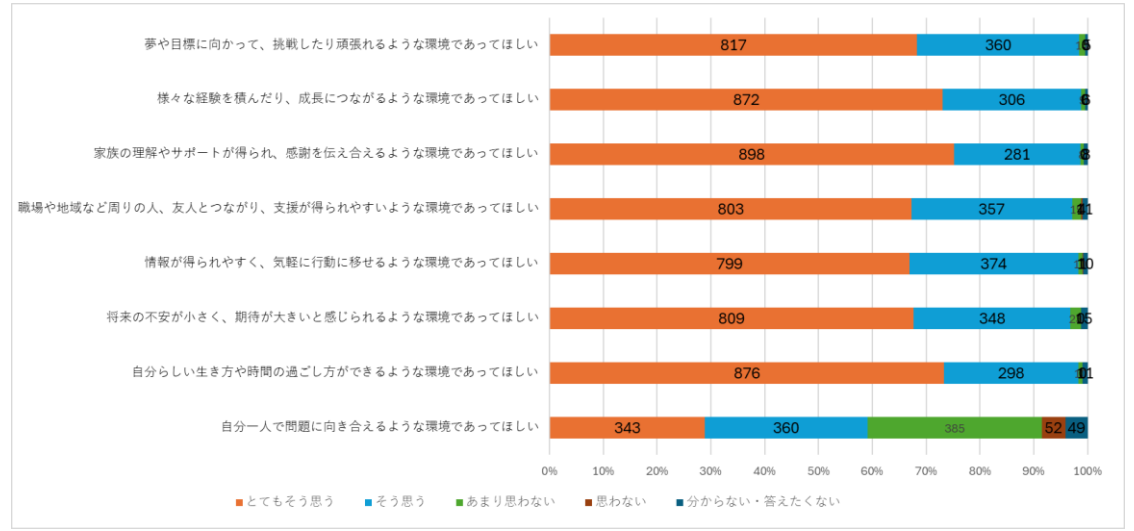


図 7.7.3 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるための環境（全体）

層別においても、夢や目標に向かって、挑戦したり頑張れるような環境であってほしい、様々な経験を積んだり、成長につながるような環境であってほしい、家族の理解やサポートが得られ、感謝を伝え合えるような環境であってほしい、職場や地域など周りの人、友人とつながり、支援が得られやすいような環境であってほしい、情報が得られやすく、気軽に行動に移せるような環境であってほしい、将来の不安が小さく、期待が大きいと感じられるよ

うな環境であってほしい、自分らしい生き方や時間の過ごし方ができるような環境であってほしい、の7項目については、乳幼児、小学生、中高校生の保護者の回答に違いは認められなかった。しかし、乳幼児よりも小学生、小学生よりも中高校生の保護者が「とても思う」よりも「そう思う」の割合が高くなっていた。

表 7.7.3_2 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるための環境（層別）

	合計	ア 夢や目標に向かって、挑戦したり頑張れるような環境であってほしい				
		とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない	分からない・答えたくない
全体	1196	68.3	30.1	1.2	0.0	0.4
乳幼児保護者	410	70.5	27.1	2.0	0.0	0.5
小学生保護者	410	67.8	31.2	0.7	0.0	0.2
中高校生保護者	376	66.5	32.2	0.8	0.0	0.5
	合計	イ 様々な経験を積んだり、成長につながるような環境であってほしい				
		とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない	分からない・答えたくない
全体	1193	73.1	25.6	0.8	0.0	0.5
乳幼児保護者	407	74.2	24.1	1.5	0.0	0.2
小学生保護者	410	73.2	26.3	0.2	0.0	0.2
中高校生保護者	376	71.8	26.6	0.5	0.0	1.1
	合計	ウ 家族の理解やサポートが得られ、感謝を伝え合えるような環境であってほしい				
		とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない	分からない・答えたくない
全体	1195	75.1	23.5	0.7	0.0	0.7
乳幼児保護者	410	80.5	18.8	0.5	0.0	0.2
小学生保護者	411	73.5	25.5	0.2	0.0	0.7
中高校生保護者	374	71.1	26.5	1.3	0.0	1.1
	合計	エ 職場や地域など周りの人、友人とつながり、支援が得られやすいような環境であってほしい				
		とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない	分からない・答えたくない
全体	1194	67.3	29.9	1.6	0.3	0.9
乳幼児保護者	409	72.9	24.7	1.5	0.2	0.7
小学生保護者	409	66.7	30.8	1.5	0.2	0.7
中高校生保護者	376	61.7	34.6	1.9	0.5	1.3
	合計	オ 情報が得られやすく、気軽に行動に移せるような環境であってほしい				
		とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない	分からない・答えたくない
全体	1194	66.9	31.3	0.8	0.1	0.8
乳幼児保護者	410	75.9	23.7	0.2	0.0	0.2
小学生保護者	409	64.1	33.7	1.2	0.2	0.7
中高校生保護者	375	60.3	37.1	1.1	0.0	1.6
	合計	カ 将来の不安が小さく、期待が大きいと感じられるような環境であってほしい				
		とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない	分からない・答えたくない
全体	1195	67.7	29.1	1.9	0.0	1.3
乳幼児保護者	409	75.8	21.3	2.2	0.0	0.7
小学生保護者	410	67.8	29.8	1.5	0.0	1.0
中高校生保護者	376	58.8	37.0	2.1	0.0	2.1
	合計	キ 自分らしい生き方や時間の過ごし方ができるような環境であってほしい				
		とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない	分からない・答えたくない
全体	1195	73.3	24.9	0.8	0.0	0.9
乳幼児保護者	410	79.3	18.8	1.0	0.0	1.0
小学生保護者	410	74.1	24.4	1.0	0.0	0.5
中高校生保護者	375	65.9	32.3	0.5	0.0	1.3
	合計	ク 自分一人で問題に向き合えるような環境であってほしい				
		とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない	分からない・答えたくない
全体	1189	28.8	30.3	32.4	4.4	4.1
乳幼児保護者	408	33.1	27.5	29.9	4.9	4.7
小学生保護者	408	28.9	28.2	35.5	4.7	2.7
中高校生保護者	373	24.1	35.7	31.6	3.5	5.1

一方、自分一人で問題に向き合えるような環境であってほしいでは、乳幼児、小学生、中高校生の保護者と回答の傾向は類似していたが、小学生の保護者が「あまり思わない」の回答が他に比べて高かった。

7.7.4 小括

まちづくりに対する考え、ウェルビーイングについては、前回調査では設問にせず、今回初めて調査した。

魅力のある仕事の創出、楽しく暮らせて幸せと感ぜられること、経済支援や各種サービス等子育て支援策の充実、住宅や公園、子育て関係施設など子育て環境の充実に対するニーズが高い一方、まちを離れる人や離れた人に対しては、肯定的な回答が8割弱と他の項目と比べて低く、あまり期待していないことが考えられた。

ウェルビーイングについて、嬉しいと笑顔になれる場面では、「誰の力も借りないで、自分の努力により問題への対応ができたとき」の回答が4割と低く、「職場や地域など周りの人、友人とつながり、支えられ、助けられたとき」、「前向きな気持ちで情報を得たり、行動に移せたと感ぜられたとき」、「自分や家族（子ども含む）の将来の不安が小さく、期待が大きいと感ぜられたとき」も低かった。一方、嬉しいと感ぜて笑顔になれる場面が増えるための環境では、「誰の力も借りないで、自分の努力により問題への対応ができたとき」と連動させた設問である「自分一人で問題に向き合えるような環境であってほしい」については、現状と同様に肯定的に捉えた回答は低かった。その一方、「職場や地域など周りの人、友人とつながり、支えられ、助けられたとき」、「前向きな気持ちで情報を得たり、行動に移せたと感ぜられたとき」、「自分や家族（子ども含む）の将来の不安が小さく、期待が大きいと感ぜられたとき」と連動させた設問の「職場や地域など周りの人、友人とつながり、支援が得られやすいような環境であってほしい」、「情報が得られやすく、気軽に行動に移せるような環境であってほしい」、「将来の不安が小さく、期待が大きいと感ぜられるような環境であってほしい」は現状よりも肯定的に捉えており、施策に対するニーズや期待があると考えられた。

8 行政に対する要望（自由記述）

ここでは、「子育て環境や子育て支援に関してご意見がありましたら、自由にご記入ください（自由記述：1000字以内）。」および「日々の暮らしの心配や今後の不安、市への要望などがありましたら、ご自由に入力してください（自由記述：1000字以内）。」として聞いた結果について述べる。子育て支援に関する意見は366件、暮らしの状況や市に対する要望は376件であった。

8.1 テキストマイニングによる分析結果・・・問59、問98

単語頻度分析の結果を下図に示す。主要な語句は多い順に、子育て支援に関する意見では、「保育園」、「公園」、「場所」、「仕事」、「施設」であり、暮らしの状況や市に対する要望では、「不安」、「多い」、「少ない」、「公園」、「増える」、「心配」、「仕事」、「場所」、「小児科」であった。

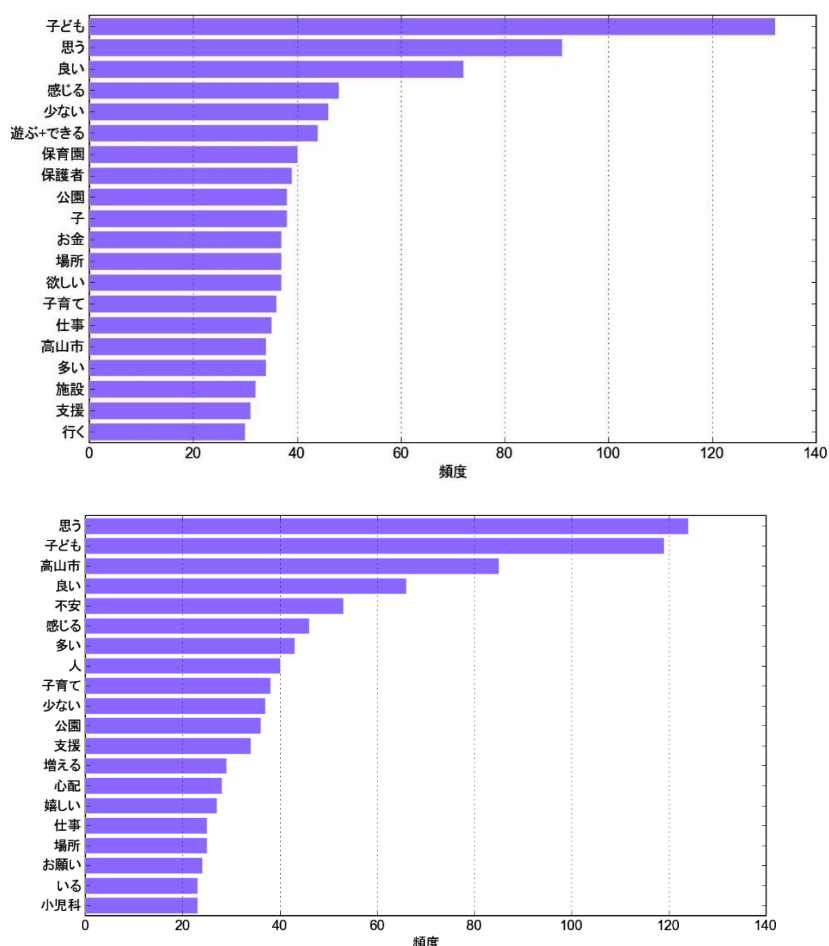


図 8.1_1 単語頻度分析（上：子育て支援・下：暮らしの状況や市に対する要望）

評判抽出の結果を下図に示す。調査に関連する語句以外では、子育て支援に関する意見で

は、「公園」、「場所」、「負担」、「居場所」、「施設」が複数使用され、否定語と肯定語の両方に用いられていた。暮らしの状況や市に対する要望では、「公園」、「負担」、「環境」が複数使用され、否定語と肯定語の両方に用いられていた。

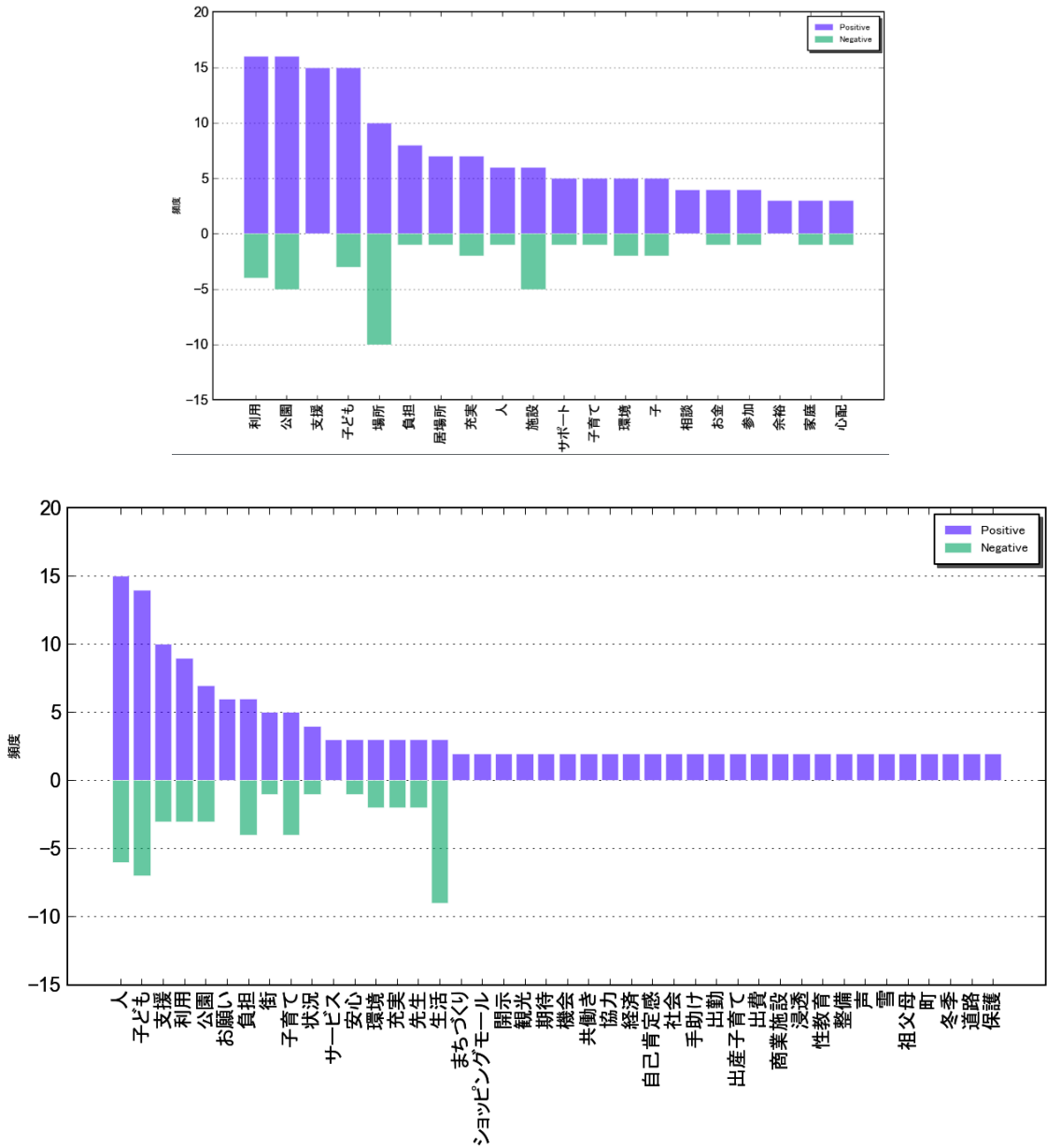


図 8.1_2 評判抽出（上：子育て支援・下：暮らしの状況や市に対する要望）

係り受け頻度解析の結果を下図に示す。調査に関連する語句以外では、子育て支援に関する意見では、子どもが遊べる、小児科が少ない、公園が欲しい、室内で遊べるといった内容が抽出された。暮らしの状況や市に対する要望では、子どもが遊べる、お金がかかる、公園を作りたい、皮膚科が少ない、医療が受けられないといった内容が抽出された。

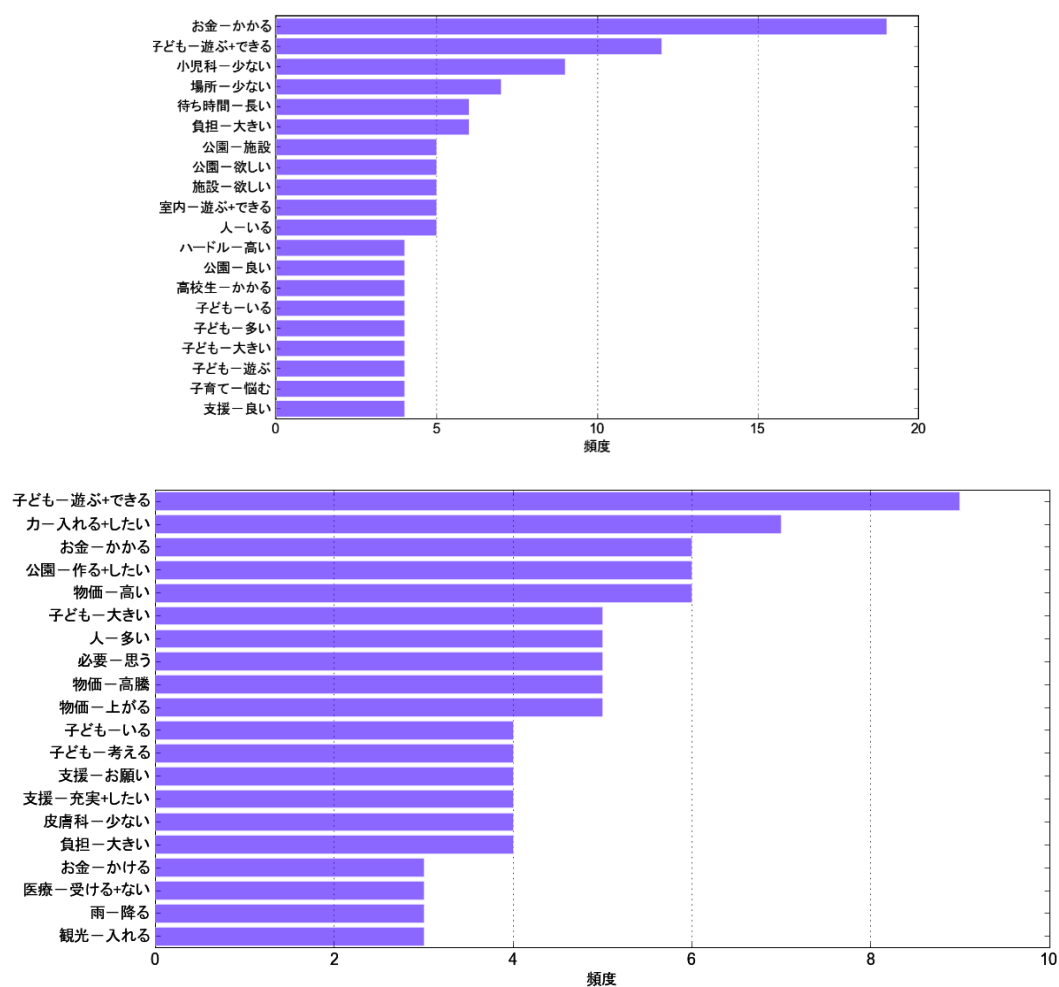


図 8.1_3 係り受け頻度解析（上：子育て支援・下：暮らしの状況や市に対する要望）

次に、注目語頻度分析として、暮らしの状況や市に対する要望について、単語頻度分析のうち上位となった特徴的な語句である「不安」、「心配」、「公園」、「場所」、「小児科」、「仕事」、「少ない」、「多い」、「増える」、「嬉しい」に共起する語句を下図に示す。「不安」では、病院がない、受診できない、「心配」では街頭が暗い、「公園」では、作りたい、遊び場がない、商業施設や天候等、「場所」では、公園がない、コミュニティの設置等、「小児科」では、受診できない、「仕事」では、条件や頼れない等、「少ない」は街頭が少ない、「多い」では外国人観光客、「嬉しい」では無償化が嬉しい等であり、「増える」は特徴的な共起は認められなかった。

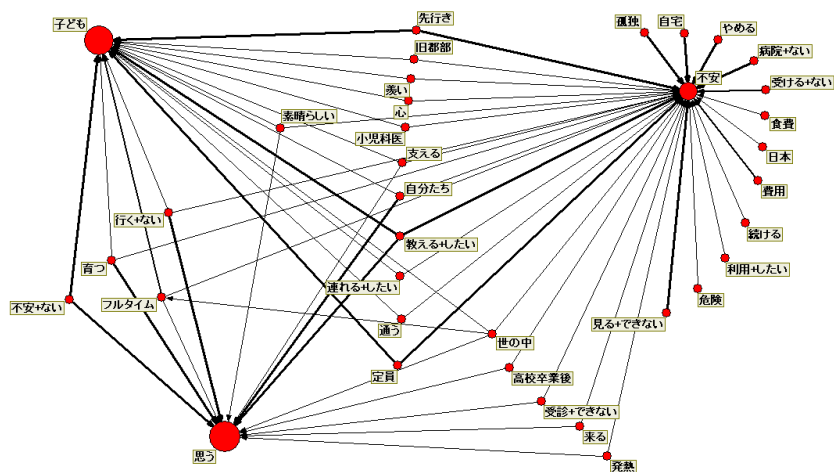


図 8.1_3 暮らしの心配や今後の不安および市への要望：「不安」注目語頻度分析

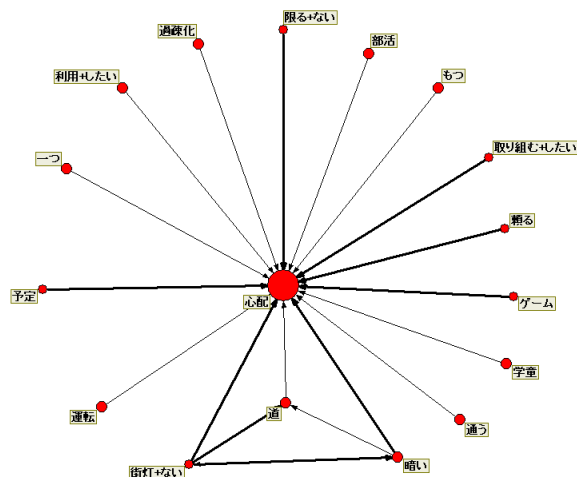


図 8.1_4 暮らしの心配や今後の不安および市への要望：「心配」注目語頻度分析

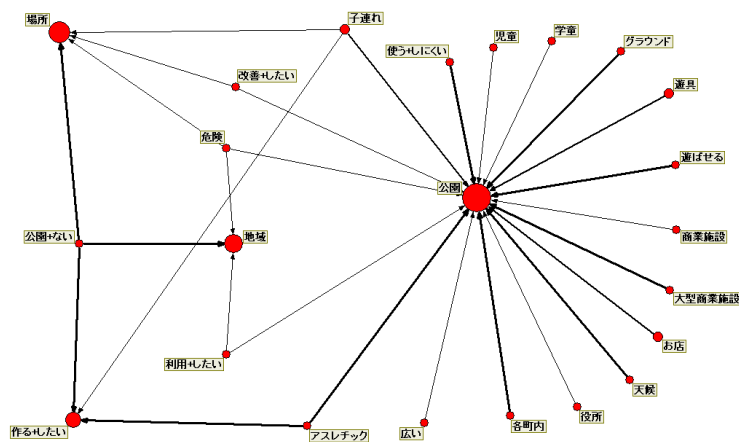


図 8.1_5 暮らしの心配や今後の不安および市への要望：「公園」注目語頻度分析

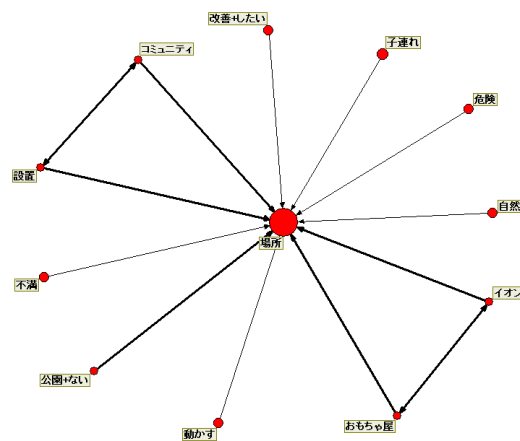


図 8.1_6 暮らしの心配や今後の不安および市への要望：「場所」注目語頻度分析

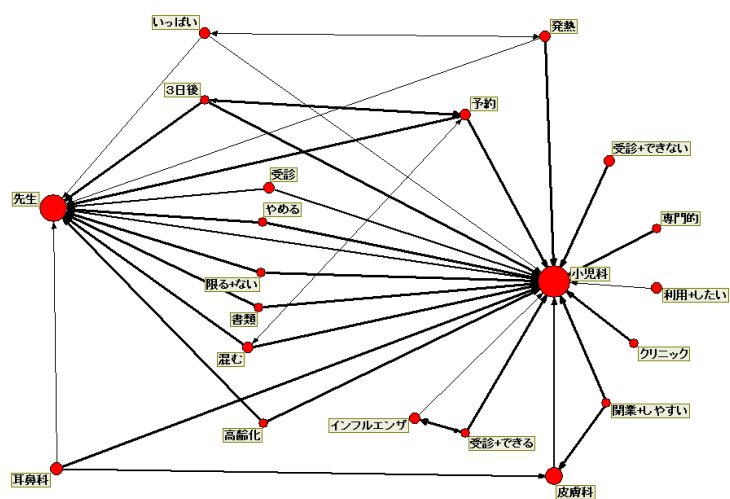


図 8.1_7 暮らしの心配や今後の不安および市への要望：「小児科」注目語頻度分析

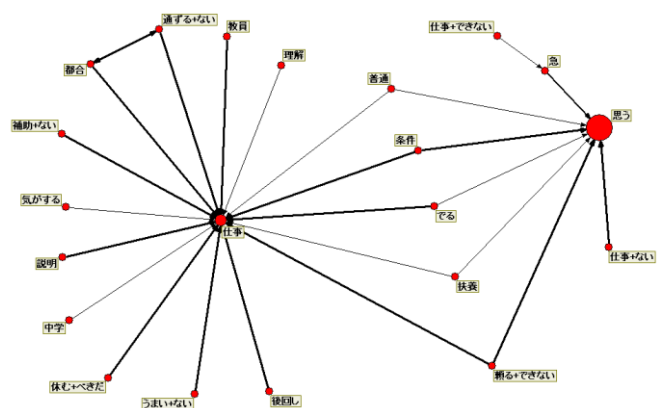


図 8.1_8 暮らしの心配や今後の不安および市への要望：「仕事」注目語頻度分析

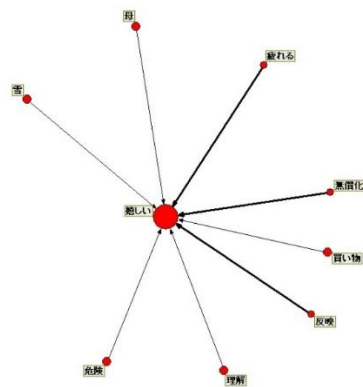


図 8.1_12 暮らしの心配や今後の不安および市への要望：「嬉しい」注目語頻度分析

8.2 小括

テキストマイニング分析の結果から、子どもが遊べる場所、お金がかかる、公園を作ってほしい、病院（小児科や皮膚科）が少ない、街頭が少ない、外国人観光客が多いと言った結果は、前回調査と同様の結果であった。各設問のその他の自由記述からも、これらの内容が記述されているものが認められた。さらには、今回調査の妊婦と配偶者・パートナー向けのアンケート調査（第1分冊）とも同様の結果であった。

9 総括

まず、今回調査では、総論として、前回調査と比べて保護者層の変化の傾向がみられた。前提として、前回乳幼児保護者だった方の多くは、小学生保護者に、前回小学生保護者だった方の多くは、中高校生保護者となり、乳幼児保護者が新規に調査された世代ということになる。今回の、乳幼児保護者の属性としては、高山市の居住歴が浅い保護者が一定割合おり、また世帯構成員も「父母と子ども」で暮らしている、いわゆる核家族世帯の割合が多くなった傾向が見て取れた。本調査の回答者の多くは母親であることを踏まえると、結婚を機に高山市に（母親が）移住し、父母と子どもで暮らし、子育てを主に行うのは母親という場合、頼れる親戚が身近にいないケースも増えていくことが予想され、また実際に乳幼児保護者では頼れる親戚が身近にいないケースが前回調査より多かった。更に、母親の就労割合が増えており、乳幼児保護者でその傾向は顕著であった。子どもの年齢に関わらず、共働き世帯が増えているということも、前回調査からの保護者層の変化として理解する必要がある。こういった家族の変化や世帯の変化という傾向を前提に、今回の調査結果は見ていく必要がある。

その上で、本調査の結果、明らかになったことを述べる。

まず子育て実態については、子育てを行う主な親族について、前回調査と傾向は同じく、6割前後が父母共に行う一方、4割前後が父親または母親が主に行っていた。祖父母等の親族に日常的に見てもらえるという世帯が同程度である一方、日常的にも、緊急時にも見てもらえない世帯は若干増加した。

父母の就労実態は冒頭でも述べたように、共働き世帯が増加した。父親の就労状況については前回調査とあまり変わっていないが、母親の就労状況でフルタイムの勤務が増えている実態があった。

家計状況について、まず相対的貧困に該当する世帯は、本調査の結果では、2.1%であった。実態として相対的貧困層がいることを踏まえた施策の検討は求められる。その上で、全体の状況としては、前回調査と比べて、赤字と回答した者が増加し、黒字が減少していることから、家計状況は前回よりも悪いと認識していた。暮らしの状況も、現在「苦しい」と捉えている者が増加していた。公的制度（公的扶助・支援）の利用状況（層別の利用度や認知度、生活保護の受給者数等）や経済的理由による生活必需品等の購入できなかった経験、経済的理由で支払いができなかった経験については、前回調査とほぼ同様の結果であった。

子どもに係る経費の負担度は、上位3位は5年前の調査と一致しており、「塾や習い事等の学校以外の教育費」、「負担が大きいと感じていない」、「保育料（乳幼児）・高校の授業料」であった。家庭にある子ども用の物品で、必要だと思わない以外の「ない」は、5年前よりも、子ども部屋、勉強机、子どもの本、文房具、スポーツ用品が増加していたのに対して、「ある」は、ゲーム機、携帯電話・スマホが増加していた。家庭状況と子どもとの関わりで、

必要だと思わない以外の「していない」は、全て増加しており、上位 5 位は 1 年に 1 回以上は家族旅行をする、学習塾に通わせる、毎月お小遣いを渡す、習い事に通わせる、歯医者に行くであった。家計を「赤字」、暮らし向きを「苦しい」と捉えている結果と連動しており、子どもに関する支出が 5 年前よりも影響を及ぼしていることが推測された。

子どもとの関わりについては、それぞれの設問で数パーセントずつネガティブな回答、すなわち実態としてはマルトリートメントであろうと予想されるものが見られた。ごく少ない割合ではあるものの、メンタルヘルスの状況が悪化している保護者もあり、心理的支援と子どもの養育を並行して支えていく必要がある。核家族化が進んでいる傾向もあることから、こういった場合に一般論として、集団や社会関係による支援ではなく、個別支援が充実されていくことも求められる。一方、子どもとの関わりにおいて「図書館に行く」経験の少なさは、割合がやや高かった。公共サービスにアクセスできない理由は、保護者・家庭（世帯）側の要因と、距離が遠い、不便であるなどの公共サービス側の要因がそれぞれあり、今後さらなる要因の検討と利活用施策の検討が求められる。

教育期待については、前回調査より、より高等教育を受けさせたいと考えている保護者が増えていた。高等教育機関への教育期待が高まり、実際に高等教育への進学が増えることは子どものキャリアの自己実現という観点で望ましいことだが、一方で 18 歳人口の市外流出が増加する。U ターン施策の充実や、郷土教育の充実などが求められる。一方、高等教育を受けさせたいと考えていても、家計状況と照らして「経済的に難しい」と考える世帯が一定数あることも明らかとなった。

事実、子育てに関する実際の悩みを見てみると、育てている子どもの年齢によって若干の傾向の違いがみられた。乳幼児保護者では、病気や発育、発達に関する割合が高いが、年齢が上がるにつれてその割合が減り、一方子どもの将来に関して悩みを感じる保護者が増えていく。育てている子どもの年齢に寄らず、50%弱は「出費」を気にしており、経済的な事情は半数の保護者が常に抱える悩みになっている。悩みに関しては、介護との両立の困難、発達障がい等の子どもへの支援の要望なども悩みとして見受けられた。

子育てに関する情報の入手や、実際の相談については、社会関係による方法や、インターネットを活用した方法を中心に、特に乳幼児保護者は多様な方法を活用している。一方で、情報の入手先がない、入手方法がわからない、相談できる場所や相手がない、という保護者も一定数見られた。

乳幼児の幼児教育・保育事業のうち、定期的な教育・保育事業を利用している者は 5 年前より上昇し、内訳では「幼稚園の預かり保育」が 6.2 ポイント上昇していたが、それ以外は前回とほぼ一致していた。平日の現在利用と希望では、日数、時間は前回調査とほぼ同様の結果であった。開始時間は前回調査よりも 30 分繰り上がって利用しており、希望も 30 分から 1 時間の繰り上げが多かった。終了時間は前回調査に比べて 30 分繰り下がっており、希望も 30 分の繰り下げが多かった。土曜日、日曜・祝日、長期休暇中に「利用したい」者

は前回調査よりも増加しており、理由は変わらなかった。

病児保育では、前回調査よりも、父親が仕事を休んだ乳幼児 6.3 ポイント・小学生 8.5 ポイント、母親が仕事を休んだ小学生 0.6 ポイント、仕方なく子どもだけで留守番をさせた小学生 1.2 ポイント増加していた。利用希望では、乳幼児 12.8 ポイント増、小学生 6.8 ポイント減であった。希望日数は、「3 日」、「5 日」が多く前回調査と同様であった。上位 3 位以内の「10 日」は乳幼児で 13.5 ポイント、小学生で 14.5 ポイント前回調査よりも上昇していた。

一時保育、幼稚園の預かり保育の利用経験者は前回調査よりも減少していた。一方、不定期の一時預かり等の事業希望者は乳幼児 12.2 ポイント、小学生 1.3 ポイント増加していた。

子育て支援事業のサービスの利用状況では、つどいの広場・かんかこかん・ひだっこランド、子ども発達支援センター・家庭児童相談、であい塾の利用経験者が増加していた。また、つどいの広場・かんかこかん・ひだっこランド、児童センター・児童館、子ども発達支援センター・家庭児童相談、であい塾、教育相談の「知らない」者が減少していた。設問の文言や回答対象者層が一致していないものもあるが、概ね、乳幼児から小学生の遊び場や相談に関する支援事業は前回調査と比較して、認知度が上がり、利用者も増加していると考えられた。相談できる人や場所は、「配偶者・パートナー」、「その他の親族（親、兄弟姉妹など）」、「近所や地域の知人、友人」等、身近な人や場所が多く、前回調査とほぼ同様の結果であった。

放課後過ごす場所については、前回調査と同様、「自宅」、「習い事」、「放課後児童クラブ」の割合が高く、引き続き放課後児童クラブに一定のニーズが見てとれた。長期休業中の放課後児童クラブ利用については、90%前後が「利用したい」と回答しており高いニーズであった。両親が共働きである傾向は、前回調査時よりも上昇していることから、保護者の就業時間帯での利用希望（8 時台～17 時台）が見て取れた。

子ども食堂、子ども宅食、無料学習塾、フリースペースは一定のニーズが見て取れるが、「わからない」という選択肢を選ぶ保護者もそれぞれ 50%程度あり、ニーズがあるところに適切な情報提供を行うことの難しさがある一方、知らないことによって困難を抱えている世帯が利用できないということが無いよう、今後の情報発信の工夫が求められる。

魅力のある仕事、楽しく暮らせて幸せと感じられること、経済支援、子育て支援策の充実、住宅や公園等、子育て環境の充実に対するニーズが高い一方、まちを離れる人や離れた人に対しては、あまり期待していないと考えられた。ウェルビーイングについて、嬉しいと笑顔になれる場面では、「誰の力も借りないで、自分の努力により問題への対応ができたとき」、嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるための環境では「自分一人で問題に向き合えるような環境であってほしい」が最も低く、市民が望んでいなかった。「職場や地域など周りの人、友人とつながり、支援が得られやすいような環境であってほしい」、「情報が得られやすく、気軽に行動に移せるような環境であってほしい」、「将来の不安が小さく、期待が大き

いと感じられるような環境であってほしい」は現状（の設問）よりも肯定的に捉えており、施策に対するニーズや期待があると考えられた。

施策に対する要望（自由記述）では、子どもが遊べる場所、お金がかかる、公園を作ってほしい、病院（小児科や皮膚科）が少ない、街頭が少ない、外国人観光客が多い等であり、前回調査と同様の結果であった。

上記の通り、今回の調査結果からは、前回調査と同様の結果であったものも多々ある一方、利用実態やニーズの変化がある部分も明らかになった。核家族化、共働き世帯の増加、少子高齢化などの社会的な変化も踏まえつつ、変化する各家庭の子育て環境に合わせた支援が求められると同時に、困難を抱える世帯への支援の充実も引き続き検討していく必要があると考えられる。

10 引用・参考文献

- ・ 笹川スポーツ財団（2017）子ども・青少年のスポーツライフデータ 2017.
- ・ 西山里利・峯村恒平（2019）高山市における子育て環境に関する現状と課題 研究成果報告書，学校法人目白学園・一般財団法人飛騨高山大学連携センター.

研究成果報告書（第 3 分冊）

2023 年度 保護者向けアンケート調査 成果報告書

発行年月日 2024 年 2 月 29 日

著 者 西山里利（目白大学人間学部子ども学科）
峯村恒平（目白大学人間学部児童教育学科）

発 行 一般社団法人 飛騨高山大学連携センター／目白大学
〒506-0032 岐阜県高山市千島町 900-1(飛騨・世界生活文化センター内)
電話：0577-57-5366 ファクス：0577-57-5377
E-Mail：hidatakayama@renkei-center.jp
〒161-8539 東京都新宿区中落合 4-31-1
TEL (03) 5996-3152／FAX (03) 5996-3163